

琵琶湖博物館 年報

13号 平成20(2008)年度



LAKE BIWA MUSEUM
琵琶湖博物館

ごあいさつ

開館13年目を迎えた2008年度の琵琶湖博物館は、滋賀県財政の悪化に伴い、予算が大幅に削減されてしまいました。その影響で資料収集や研究、展示や交流などの事業すべてにわたってかなりの支障が生じ、さまざまな点でご迷惑をおかけしてしまいました。しかし、このような状況の中でも諸活動をどうにか続けることができましたのは、ひとえに一般の方々のさまざまなご支援・ご協力によるものであり、まずは感謝の意を表させていただきます。

さて、2008年度に開いた第16回企画展示『昆虫記』刊行100年記念日仏共同企画『フェアブルにまなぶ』は、琵琶湖博物館とフランス国立自然史博物館の10年にわたる相互協力に基づくものです。北海道大学総合博物館・国立科学博物館・北九州市立いのちのたび博物館・兵庫県立人と自然の博物館がこれに賛同して下さり、計6館の共同によって実現しました。この一部として、個人や団体による研究発表展示や多くの関連行事をも、開くことができました。

この共同企画展に関連して、「日仏友好百五十年記念国際シンポジウム『ジャン・アンリ＝フェアブル』」を、フランスからの講演者7人を招いて、琵琶湖博物館と東京大学で開催しました。これには在日フランス大使館や東京倶楽部をはじめ多くのところからご援助を得ました。

また、これに並行して開いた水族企画展示「ぼくらのフェアブル昆虫記」でも、多くの個人や団体が参画協力され、その結果、「フェアブルさんでさえも気付かなかった」虫その他の生きものについて、そのさまざまな側面をいっそう詳しく展示することができたのです。

ギャラリー展示は2つでした。「うるわしき琵琶湖よ永遠に～父子の見た湖国～」は、大橋宇三郎さん・洋さん父子が、長きにわたり撮り貯められた写真の御寄贈によって実現しました。またもう1つの、「細密画で見る琵琶湖の水鳥たちー鳥の羽根に想いをこめてー」は、関連ワークショップをも含め、作者である今森洋輔さんの尽力によるものです。

12月から2月にかけては、県内の他の試験研究機関等の職員の協力を得て、12回の「新琵琶湖学入門セミナー『湖と人間』」を新しく開きました。また観察会・講座は、「フィールドレポーター」・「はしかけ」や地域の人々との共同のものが8割を超えました。新たに受け入れた資料は、財政悪化の影響もあって、館職員以外の方の寄贈・提供によるものがほとんどでした。さらに、この年に出版された原著の4分の3が、「はしかけ」さんなどの「アマチュア研究者」や海外の研究者など、館外の多くの人々との共著論文であり、刮目されるものもかなりあります。

ご承知のとおり琵琶湖博物館は、「地域だれでも・どこでも博物館」を目指しています。2008年度もまた、上に記しましたようにこうした方向への歩みが、少しずつではありますが進んでいることを、私どもは誇りに思い、かつ感謝しております。

これからも琵琶湖博物館の運営について、厳しくかつ積極的なご意見・ご批判・ご協力を頂きまして、ともに琵琶湖博物館を作り上げて行く所存です。

2009年8月15日

滋賀県立琵琶湖博物館

館長 川那部 浩哉

目 次

ごあいさつ	1
I 博物館機能の強化	
1 資料が活用できる博物館	
資料整備活動	
(1) 収蔵資料	4
(2) 寄贈者および提供者一覧	7
(3) 購入資料一覧	8
(4) 水族繁殖生物	8
(5) 資料情報の公開	9
(6) 資料の活用	10
(7) 資料保管	14
(8) 燻蒸・処理	15
2 研究を進めて活かせる博物館	
研究調査活動	
(1) 総合研究	16
(2) 共同研究	16
(3) 専門研究	16
(4) 公表された主な研究業績	18
(5) 研究助成を受けた研究	20
(6) 琵琶湖博物館研究発表会	22
(7) 新琵琶湖学入門セミナー	23
(8) 特別研究セミナー	24
(9) 研究セミナー	25
(10) 特別研究員の受け入れ	26
(11) 海外交流活動	27
3 新たな参加と発見ができる博物館	
展示活動	
(1) 常設展示の主な更新	29
(2) 企画展示	30
(3) 水族企画展示	35
(4) ギャラリー展示	37
(5) トピックス展示	39
(6) 集う・使う・創る 新空間	40
(7) ディスカバリールームのイベント	40
展示交流事業	
(1) 展示交流員と話そう	40
4 体験と交流を促す博物館	
一般利用者へのサービス事業	
(1) 観察会・見学会等	42
(2) 講座	43
(3) 体験教室	45
学校連携事業および体験学習	
(1) 教職員等研修	46
(2) 視察対応	47

(3) 学校団体向け体験学習	47
(4) 一般団体向け体験学習	48
(5) 学校サテライト博物館事業	48
(6) 「琵琶湖博物館わくわく探検隊（体験学習の日）」の活動	49
(7) 職場体験実習	50
(8) 博物館実習	50
国際交流活動	
(1) 「JICA 博物館集中コース」の実施	51
(2) 海外からの視察	53
5 対話と応援ができる博物館	
利用者主体の事業	
(1) フィールドレポーター	55
(2) はしかけ制度	57
地域交流活動への支援事業	
(1) 地域活動の支援（博物館内）	69
(2) 地域活動の支援（博物館外対応）	71
(3) 博物館ガイダンス	73
(4) 質問コーナー・フロアトーク	74
情報発信活動	
(1) 通信網を利用した館外への情報提供	74
(2) 通信網を利用した双方向の情報交換サービス	75
(3) 印刷物	76
II 環境の整備	
1 拠点としての施設整備	
(1) 利用者用施設の整備	77
(2) 情報システムの整備	77
(3) 来館者アンケート調査結果	77
2 柔軟な運営組織	
(1) 組織	82
(2) 職員	83
3 社会的支援と新しい経営	
(1) 利用状況（2007年度入館者数）	87
(2) 新聞掲載記録	89
(3) WEB ニュース	97
(4) 雑誌等掲載記録	98
(5) テレビ放映・ラジオ放送記録	101
(6) 予算	104
4 存在基盤の確立	
(1) 滋賀県立琵琶湖博物館協議会	105
(2) 企画・計画	106
III 2008年度をふり返って	
1 研究部	107
2 事業部	107
3 総務部	108
IV 博物館利用のご案内	110

I 博物館機能の強化

1 資料が活用できる博物館

資料整備活動

琵琶湖博物館で資料整備の対象としているのは、「琵琶湖とその集水域および淀川流域」およびその全体的評価にかかわるもの、ならびに博物館のテーマ「湖と人間」に関係する日本、アジア、世界の湖沼とその周辺地域におよぶものである。自然、人文、社会科学等にかかわる過去から現在までの実物の資料、生魚などの水族資料、映像資料、図書資料および博物館業務に必要な資料について、収集・整理・保管および利用を図り、博物館活動の充実に努めている。

資料の受入は、博物館職員による収集をはじめ、受贈、受託、交換、購入、製作、提供、参加型調査等による。収蔵した資料を必要に応じて速やかに利用できるよう、各資料区分の体系にしたがって整理を行っている。

以下に2008年度の資料整備状況を示す。

(1) 収蔵資料

収蔵資料は、地学標本、植物標本、動物標本、微生物標本、水族資料（生体）、考古資料、歴史資料、民俗資料、環境資料、図書資料、映像資料の11分野にわたる。

登録資料数とは、琵琶湖博物館情報システムの資料データベースに登録されているものの総数をいい、収蔵概数とは、登録資料数と未整理な資料を含めた収蔵全体数である。

2008年度末現在で、博物館登録資料は416,106で、収蔵概数は752,393となった。

これらの収蔵資料は、保存に影響を与えない範囲で、展示、閲覧および貸出等に利用している。

【収蔵資料のまとめ】

2009年3月現在

	登録資料数	収蔵概数	2008年度登録数	2008年度受入総数
地学	32,610	41,392	647	2,942
植物	83,951	165,379	0	1,801
動物	99,306	249,357	2,143	1,757
微生物	0	57,886	0	284
水族（生体）	21,693	21,693	21,477	21,477
考古	0	1,346箱と334点	0	0
歴史	0	202	0	1
民俗	6,719	6,763	1,581	3
環境	0	45箱と739点	0	0
図書	93,801と 2,260タイトル	112,171	3,264と 221タイトル	2,614と 221タイトル
映像	75,766	95,086	0	7,510
合計	416,106	752,393	29,333	38,610

【各分野別の詳細】

地学標本	2008年度							累 積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
化石	475	4	271	0	51	326		21,829	27,823
岩石・鉱物	8	0	1,345	0	1,125	2,470		7,568	10,124
堆積物	21	0	73	0	73	146		2,479	2,367
プレパラート	143	0	0	0	0	0		734	1,078
小 計	647	4	1,689	0	1,249	2,942		32,610	41,392

植物標本	2008年度							累 積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
さく葉標本	0	0	0	0	1,800	1,800	標本受入・登録・ラベル貼付け・収蔵・管理, 収蔵庫燻蒸	83,951	165,201
菌類乾燥標本	0	0	0	0	1	1		0	121
水草包埋標本	0	0	0	0	0	0		0	57
小 計	0	0	0	0	1,801	1,801		83,951	165,379

動物標本	2008年度							累 積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
脊椎動物（魚類除く）	0	33	0	0	52	85	標本の受入、計測、製作、データの修正	932	2,057
内 訳	哺乳類骨格標本	0	0	0	0	0		192	194
	哺乳類剥製標本	0	0	0	0	0		8	8
	哺乳類(その他)	0	0	0	0	0		100	837
	鳥類骨格標本	0	0	0	0	23		110	180
	鳥類乾燥標本 (巣, 卵, レプリカ等含む)	0	33	0	0	29		313	471
	爬虫類骨格標本	0	0	0	0	0		34	35
	爬虫類剥製標本	0	0	0	0	0		3	3
	爬虫類液浸標本	0	0	0	0	0		23	40
	爬虫類(その他)	0	0	0	0	0		2	2
	両生類液浸標本	0	0	0	0	0		147	287
魚類（淡水魚類）	2,143	0	0	0	225	225	49,952	81,966	
内 訳	乾燥骨格標本	60	0	0	0	7	未登録・登録標本からの分離により乾燥啞頭歯標本及び乾燥骨格標本を作製し、60件を登録	2,651	2,598
	DNA分析用標本	11	0	0	0	4	水族から提供された標本を100%エタノールでDNA分析標本とし、11件を登録	3,683	3,676
	液浸標本	2,072	0	0	0	214	前年度までの未登録標本、提供された標本を同定し、2072件登録	43,618	75,692
昆虫	0	272	175	0	722	1,169	34,598	144,373	
内 訳	昆虫液浸標本	0	54	0	0	54	村山コレクション整理3678件, 標本作成219件	12,483	31,045
	昆虫乾燥標本	0	218	175	0	722		1,115	22,115
貝類	0	2	0	0	2	4	13,824	13,842	
昆虫と貝類以外の無脊椎動物（甲殻類、寄生虫など）	0	244	0	0	30	274	0	7,119	
小 計	2,143	551	175	0	1,031	1,757	99,306	249,357	

微生物標本	2008年度							累 積	
	登録数	作成撮影数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
微小生物液浸標本	0	0	0	0	284	284		0	3,186
微小生物プレパラート	0	0	0	0	0	0		0	31
珪藻プレパラート	0	0	0	0	0	0		0	1,387
珪藻顕微鏡写真フィルム	0	0	0	0	0	0		0	22,905
珪藻顕微鏡写真デジタルファイル	0	0	0	0	0	0		0	24,064
微小生物顕微鏡写真デジタルファイル	0	0	0	0	0	0		0	6,291
微小生物動画ファイル	0	0	0	0	0	0		0	22
小 計	0	0	0	0	284	284		0	57,886

水族資料 (生体)	2008年							累 積	
	登録数	採集数	提供数	購入数	繁殖数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
脊椎動物	19,113	2,704	248	5,399	10,762	19,113		20,105	20,105
内 訳	魚類	19,097	2,690	246	5,399	10,762	19,097	20,063	20,063
	両生類	0	0	0	0	0	0	5	5
	爬虫類	9	9	0	0	0	9	28	28
	鳥類	7	5	2	0	0	7	9	9
無脊椎動物	2,364	597	244	1,356	167	2,364		1,588	1,588
内 訳	昆虫類	451	249	35	0	167	451	193	193
	貝類	834	63	0	771	0	834	810	810
	甲殻類	1,076	285	206	585	0	1,076	582	582
	環形動物	3	0	3	0	0	3	3	3
小 計	21,477	3,301	492	6,755	10,929	21,477		21,693	21,693

考古資料	2008年			累 積	
	登録数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
遺跡遺物(舟、瓦を除く)	0	0		0	1,313(箱)と320
丸木船	0	0		0	5
瓦	0	0		0	22(箱)
灯籠	0	0		0	3
貝塚剥ぎ取り資料	0	0		0	6
展示関係(ガリラヤ湖関係含む)	0	0		0	11(箱)
小 計	0	0		0	1,346箱と334点

歴史資料	2008年度						累 積	
	登録数	購入数	寄贈数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
古文書、絵図、 絵画等	0	0	0	0	0	小牧家旧蔵資料調査作成整理212点、 館蔵歴史資料595点(81件) [絵画12点(11件)、典籍179点(30 件)、古文書311点(17件)、絵図74 点(19件)、その他19点(4件)]	0	161
二次資料 (レプリカ、模写、 模造)	0	1	0	0	1		0	34
その他	0	0	0	0	0		0	7
小 計	0	1	0	0	1		0	202

民俗資料	2008年度				累 積	
	登録数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
生活生業用具	1,579	2	2		4,133	4,135
漁撈用具(船関係用具を含む)	2	1	1		2,586	2,587
二次資料(木造船模型)	0	0	0		0	41
小 計	1,581	3	3		6,719	6,763

環境資料	2008年度				累 積	
	登録数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
水環境調査資料	0	0	0		0	72
生活用具類	0	0	0		0	25
民具類	0	0	0		0	22 (箱) と 613
二次資料 (レプリカなど)	0	0	0		0	23 (箱) と 25
海外の湖沼船	0	0	0		0	4
小 計	0	0	0		0	45 箱と 739 点

図書資料	2008年度				累 積		
	登録数	購入数	寄贈・提供数	受入総数	整理状況・作業内容など	登録資料数	収蔵概数
書籍	1,996	176	1,170	1,346	開架図書9675冊, 雑誌69件の整備, 書籍レファレンス, コピーサービス(有料), 蔵書点検35000点, ニュースレターの整理, 図書装備1300冊	57,617	69,400
文献	1,268	0	1,268	1,268		36,184	42,771
雑誌	221タイトル	62タイトル	159タイトル	221タイトル		2260タイトル	
小 計	3,264と 221タイトル	176と 62タイトル	2,438と 159タイトル	2,614と 221タイトル		93,801と 2,260タイトル	112,171

映像資料	2008年度						累 積		
	登録数	撮影数	寄贈数	寄託数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
静止画資料	0	4,685	0	0	0	4,685		75,766	92,261
動画資料	0	2,825	0	0	0	2,825	ニュース番組タイトル録画、DVD(デジタル化) 編集作業	0	4,671
小 計	0	7,510	0	0	0	7,510		75,766	95,086

(2) 寄贈者および提供者一覧 (水族資料の譲与を含む)

敬称省略 (点数)

【地学資料】

化石標本：黄 國利(1) 岡村喜明(39) 北林栄一(11) 長澤芳佑(110)

岩石・鉱物標本：長澤芳佑(110) 中野 聡(1,125)

堆積物標本：井内美郎(72) 中野 聡(1)

【植物標本】

さく葉標本：西田謙二(800) 村瀬忠義(1,000)

菌類乾燥標本：楠岡 泰(1)

【動物標本】

鳥類骨格標本：亀田佳代子(22) 溝田智俊(1)

鳥類乾燥標本：上田英一(1) 亀田佳代子(22) 清原順次(5) 溝田智俊(1)

魚類乾燥骨格標本：澤田知之(7)

魚類 DNA 分析用標本：水族飼育管理(4)

魚類液浸標本：東 幹夫(13) 石田未基(1) うおの会(2) 大西 拓(3) 桑原雅之(36) 佐藤智之(6) 澤田知之(1)
システム環境計画コンサルタント株式会社(60) 水族飼育管理(35) 中園健治(1) 前畑政善(56)

昆虫乾燥標本：荒木哲朗(3) 石田未基(113) 井上 博(1) 上原千春(1) 梅田和貴(1) 遠藤眞樹(234)
加固啓英(5) 桐村信行(175) 小寺早苗(1) 佐々木 剛(1) 佐藤奈津子(3)
塩崎尚美・和田志乃(6) 滋賀県農業技術振興センター(73) 高石清治(16) 高橋 央(10)
田窪亮三(230) 武田 滋(10) 多胡好武(1) 田原隼輝(2) 中川 優(40) 野原章宏(18)
道井優美香(1) 南 尊演(1) 美浪晴行(20) 山田昌美(1) 山本瑛子(1) 山本真彩子(1)

貝類標本：松田征也(2)

昆虫と貝類以外の無脊椎動物標本（甲殻類・寄生虫など）：

Federico Marrone (11) A. Schmidt-Rhaesa (9) 井上昇司(1) 浦部美佐子(6) 大高明史(1)
片山満秋(1) 宮川琴枝(1)

【微生物標本】

微小生物液浸標本：たんさいぼうの会(47) 内藤佳奈子(1) 福井くニコ(236)

【水族資料】

脊椎動物（魚類）：姫路市立水族館(150) 宮島水族館(5) 宮津エネルギー研究所水族館(40)

無脊椎動物（昆虫類）：島根県立宍道湖自然館(2)

【民俗資料】

漁撈用具：松井三男(1) 植田勝明(2)

【図書資料】

書 籍：石川恭子(3) 市木 修(1) 井之本泰(2) 植田文雄(3) 江竜喜之(1) 大塚勘二郎(1) 川崎睦男(1)
川村 弘(1) 北村美香(2) 吉良竜夫(2) 志岐常正(3) 芝田英行(1) 清水大吉郎(2) 末綱 巖(1)
田中貞之(85) たねや(1) 富田克敏(122) 富田正弘(1) 西島進一(1) 根来健一郎(1) 橋詰弥一郎(7)
畚野 剛(105) 松本芳巳(1) 水本協一(1) 家中 茂(1) 横井隆幸(1)

(3) 購入資料一覧

資料分野	資料名	点数	資料形態	内容等
歴史資料	「花園院宸記 巻24、26 (第十六回配本)」	1件(2点)	古文書(レプリカ)	

(4) 水族繁殖生物

種 名	学 名	個体数
日本産魚類		
コイ科		
ウシモツゴ	<i>Pseudorasbora pumila</i> subsp.	200
ズナガニゴイ	<i>Hemibarbus longirostris</i>	204
デメモロコ	<i>Squalidus japonicus japonicus</i>	239
イトモロコ	<i>Squalidus gracilis gracilis</i>	49
ホンモロコ	<i>Gnathopogon caerulescens</i>	210
スゴモロコ	<i>Squalidus chankaensis biwae</i>	70
カワバタモロコ	<i>Hemigrammocypris rasborella</i>	90
ヒナモロコ	<i>Aphyocypris chinensis</i>	105
アブラヒガイ	<i>Sarcocheilichthys biwaensis</i>	52
アカヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira erythropterus</i>	367
イチモンジタナゴ	<i>Acheilognathus cyanostigma</i>	371

種 名	学 名	個体数
カゼトゲタナゴ	<i>Rhodeus atremius atremius</i>	174
カネヒラ	<i>Acheilognathus rhombeus</i>	299
キタノアカヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira tohokuensis</i>	25
イタセンパラ	<i>Acheilognathus longipinnis</i>	34
ゼニタナゴ	<i>Acheilognathus typus</i>	157
タナゴ	<i>Acheilognathus melanogaster</i>	140
ニッポンバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus kurumeus</i>	235
メダカ科		
メダカ	<i>Oryzias latipes</i>	399
トゲウオ科		
ハリヨ	<i>Gasterosteus microcephalus</i>	10
ムサントミヨ	<i>Pungitius</i> sp.	206
ハゼ科		
アオバラヨシノボリ	<i>Rhinogobius</i> sp. BB	490
サケ科		
ビワマス	<i>Oncorhynchus masou</i> subsp.	5,632
外国産魚類		
コイ科		
コウライハス	<i>Opsariichthys uncirostris bidens</i>	42
ウエキゼニタナゴ	<i>Rhodeus sinensis</i>	95
オオタナゴ	<i>Acheilognathus macropterus</i>	100
ローデウス・ファンギ	<i>Rhodeus fangi</i>	100
トンキントゲタナゴ	<i>Acheilognathus tonkinensis</i>	83
アケイログナトウス属の一種	<i>Acheilognathus</i> sp.	23
チャイニーズワンラインペンシル	<i>Sarcocheilichthys parva</i>	46
カラヒガイ	<i>Sarcocheilichthys sinensis sinensis</i>	134
ナマズ科		
コウライギギ	<i>Coreobagrus fulvidraco</i>	40
メダカ科		
ランプリクティス・タンガニカヌス	<i>Lamprichthys tanganicanus</i>	150
カワスズメ科		
キアトファリンクス・フルシファー	<i>Cyathfarynx furcifer</i>	77
レピディオランプログス・アテヌアータス	<i>Lepidolamprologus attenuatus</i>	73
ジュリドクロミス・オルナータス	<i>Julidochromis ornatus</i>	1
クセノティラピア・フラビピンニス	<i>Xenotilapia flavipinnis</i>	31
昆虫類		
タガメ	<i>Lethocerus deyrollei</i>	95
ゲンゴロウ	<i>Cybister japonicus</i>	72

(5) 資料情報の公開

1) データベースの公開

・「民俗資料データベース」の公開(2009年3月10日)

2006年度新規公開以降、2年間に渡って整理を進めてきた民俗資料2,555点を、資料名、地方名、採集時地名などの情報を資料写真とともに新たに追加公開した。これらは琵琶湖博物館資料目録17号「民俗資料3衣食住」および18号「民俗資料4生産生業」(ともに2008年3月発行)に掲載された資料である。

2) 目録の刊行

・琵琶湖博物館資料目録 19 号「民俗資料 5 生産生業（諸職）ほか」の発行(2009 年 3 月)

ここ 3 年ほど民俗資料の整理を精力的に進め、現在収蔵している資料の整理と目録刊行を進めてきた。これまでの目録、琵琶湖博物館資料目録 13 号「民俗資料 1 琵琶湖水系漁撈習俗資料(1)」、14 号「民俗資料 2 琵琶湖水系漁撈習俗資料(2)」(ともに 2006 年 3 月発行)、17 号「民俗資料 3 衣食住」および 18 号「民俗資料 4 生産生業」(ともに 2008 年 3 月発行)に続き、2009 年 3 月には、琵琶湖博物館資料目録第 19 号「民俗資料 5 生産生業（諸職）ほか」を刊行した。これにより、民俗資料目録は完結した。

(6) 資料の活用

1) 資料の貸出 (研究依頼を含む)

月	日	貸出先	資料内容	利用目的
4	1	長澤和也 (広島大学大学院)	ヌマエラビルなどヒル類(ヌマエラビル 10 点、ヒダビル 2 点、コモチサヨリから採集された未同定ヒル 4 点)	学術調査研究 (資料の種同定)
4	8	栗東歴史民俗博物館	滋賀県管下近江国六郡物産図説一 滋賀郡・栗太郡 1 冊	「辻村鋳物師の世界」展での展示
4	15	下村通誉 (北九州市立自然史・歴史博物館)	エビノコバン (180 匹、78 匹、86 匹)	再記載と形態スケッチ作成のため
4	24	倉西良一 (千葉県立中央博物館)	昆虫液浸標本: ムラサキトビケラ属 計 6 点	ムラサキトビケラ属の分類学的再検討のため
5	23	滋賀県立図書館	シロヒレタビラ 10 点	図書館受付での展示
6	13	滋賀県農政水産部農村振興課	ふなずしレプリカ 1 点	魚のゆりかご水田の取り組みを広く知ってもらうために東京で行う PR 展示に活用
7	11	多賀の自然と文化の館	魚類 (ビワコオオナマズなど生体と剥製)、貝類標本 (オグラヌマガイなど乾燥標本、プラスチック包埋標本、写真)、環境資料 (湖魚料理レプリカ)、写真パネルなど 計 76 点	企画展「琵琶湖の生き物大集合!! ~琵琶湖博物館もやってきた~」における展示
7	12	北村 誓	橋本忠太郎氏の手帳・標本ラベルなど 計 11 点	日野町立図書館における植物学者橋本忠太郎氏顕彰事業の展示
8	7	富川 光 (広島大学大学院教育学研究科)	地下水産カイアシ類 (計 2 点 29 匹)	分類学的な研究、特に新種の記載のため
8	7	富川 光 (広島大学大学院教育学研究科)	地下水産ヨコエビ類 (計 2 点 3 匹)	総合研究「分類学」の一環としての分類学的な研究のため
9	6	亀岡市教育委員会	アユモドキ 10 点	亀岡市文化資料館第 24 回特別展「天然記念物アユモドキと保津川水系のサカナたち」にて飼育展示
9	18	滋賀県農政水産部農村振興課	ふなずしレプリカ 1 点	魚のゆりかご水田の取り組みを広く知っていただくために県内で行うイベントにて展示(のべ 8 日間)
10	21	東近江市能登川博物館	伝統食レプリカ・パネル 計 14 点	第 79 回企画展「東近江の地酒」(10/29~11/30) に使用
11	7	栗東歴史民俗博物館	フナズシ箱入りレプリカ・フナズシ皿盛りレプリカ 計 2 点	発掘調査成果展「湖国の「塩」その歴史と民俗」(12/20~2/15) への出陳
12	3	嶋津武	二生吸虫スライドプレパラート 計 132 点	総合研究「分類学」において、分類学的なモノグラフの執筆と学術雑誌での出版のため
12	16	滋賀県立安土城考古博物館	唐橋遺跡出土 タヌキ置物 1 点	第 37 回企画展『大信楽 (Oh! Shigaraki!) 焼展—出土資料を中心に—』での展示および図録等への写真掲載

月	日	貸出先	資料内容	利用目的
12	19	多賀の自然と文化の館	ウシモツゴ 5点	常設展示トピック「今年の干支：丑に関する生き物展」において展示
12	26	東近江市八日市図書館	「私とあなたの琵琶湖アルバム」図録掲載の今昔比較写真パネル 計19点	東近江市八日市図書館にて開催の写真展「水とともに生きる」に利用のため
1	8	滋賀県立近江富士花緑公園	カモシカ・イノシシ・オオカミの頭蓋骨 計3点	企画展示「イノシシは掘る」での展示および森に関する展示を使った学習プログラムでの使用
1	14	長沢環境保全の会・長沢ふなっこの会	ふなずし箱入りレプリカ 1点	農林水産省主催の平成20年度田園自然再生セミナーで行われるポスターセッションで、長沢環境保全の会が実施している「魚のゆりかご水田」の取り組みをわかりやすく説明するため
1	15	文化庁	東寺文書（滋賀県所有本）一括	指定調査のため
1	16	下村通誉（北九州市立自然史・歴史博物館）	エビノコバン（180匹、78匹、86匹）	再記載のための形態スケッチ作成のため
2	5	米原市教育委員会	丸子船模型・筑摩御厨遺跡出土墨書土器など 計8点	米原市近江はにわ館企画展『湊・舟、そして湖底に沈んだ村』（2月20日～4月10日）での展示
3	12	古谷桂信	前野コレクション（「私とあなたの琵琶湖アルバム」から） 計7点	「第3回猪名川を活かしたまちづくりフォーラム 一水辺の暮らしを豊かに」会場展示資料、ディスカッション資料として使用

2) 資料の譲与

【動物】	琵琶湖産淡水貝類	50点	我孫子市鳥の博物館
【水族】	ニゴロブナ	16点	浅虫水族館
	オヤニラミ	10点	名古屋市東山動植物園
	ニッポンバラタナゴ	100点	名古屋市東山動植物園
	ホトケドジョウ	20点	名古屋市東山動植物園
	ネコギギ	20点	名古屋市東山動植物園
	スイゲンゼニタナゴ	30点	名古屋市東山動植物園
	スイゲンゼニタナゴ （尾鰭の一部）	20点	三重大学大学院
	アブラヒガイ	31点	大阪水道総合サービス水道記念館
	ゲンゴロウ	10点	島根県立宍道湖自然館ゴビウス
	パンプキンシード	2点	神戸市立須磨海浜水族園
	カネヒラ	20点	滋賀県立大学
	ホンモロコ	20点	滋賀県立大学
	マゴイ	20点	滋賀県立大学
	ニゴロブナ	17点	滋賀県立大学
	ビワマス	200点	養殖研究所
	デメモロコ	20点	養殖研究所
	ホンモロコ	20点	養殖研究所
	タモロコ	10点	養殖研究所
	ハリヨ	10点	姫路市立水族館
	ヒナモロコ	537点	海の中道海洋生態科学館
	イチモンジタナゴ	100点	宮津エネルギー研究所水族館

3) 特別観覧

<映像資料>

月	日	貸出先	資料内容	使用目的	備考
4	8	岩波書店	前野隆資コレクション 2点、古谷桂信コレクション 2点	岩波ジュニア新書「生活環境主義でいこう！」(嘉田由紀子・古谷桂信)本文中に掲載	静止画
5	10	滋賀県広報課	藤村コレクション 1点	「マザーレイク滋賀ふるさと応援サイト」のホームページに使用	静止画
5	10	産経新聞社	魚類(ホンモロコ・ニゴロブナ)計2点	産経新聞、科学企画「生き物異変 温暖化の足音」に掲載	静止画
5	16	岩波書店	富江家展示 2点	岩波ジュニア新書「生活環境主義でいこう！」(嘉田由紀子・古谷桂信)本文中に掲載	静止画
5	20	水のみぐみ館アクア琵琶	前野コレクション 1点	アクア琵琶発行「ピワズ通信」の表紙に使用	静止画
5	23	滋賀県東京事務所	「琵琶湖&川の魚」ポスター図案 1点	滋賀県東京事務所における琵琶湖コーナーの展示に活用	静止画
5	27	(株)文溪堂	プランクトン(ゾウリムシ)	理科教材「観察・実験ずかん」に掲載	静止画
5	28	滋賀県東京事務所	魚類(ニゴロブナ) 1点	滋賀県東京事務所内展示コーナーに利用	静止画
5	30	(株)雄山閣	松原内湖遺跡直柄鍬 1点	『季刊考古学』第104号に掲載	静止画
6	6	サンライズ(株)	魚類(アブラヒガイ・イワトコナマズなど)計6点	びわ湖検定実行委員会編集・発行「びわ湖検定公式問題解説集」に掲載	静止画
6	6	(財)行方市開発公社	魚類(ドジョウ類)計20点	霞ヶ浦ふれあいランド「水の科学館」におけるパネル展示およびリーフレットに使用	静止画
6	28	びわ湖放送(株)	魚類、貝類、鳥類、シミ、クモ類 計22点	大津商工会議所(源氏物語事業)における資料パネル製作	静止画
7	6	読売テレビ放送(株)	ヘビトンボのサナギ 1点	2008年7月7日(月)9:55-11:18 読売テレビ「なるトモ!」番組内「昆虫特集」企画にて使用	静止画
7	10	琵琶湖・淀川流域圏連携交流会(草津塾)	魚類(カマツカ・カネヒラなど)計16点	Biyoセンターでの自然観察(魚捕り)での配付資料作成のため	静止画
7	29	琵琶湖汽船株式会社	魚類(イワトコナマズ・スゴモロコ・ウツセミカジカなど)計17点	ミシガン船内の魚類解説パネルに使用	静止画
7	30	琵琶湖汽船株式会社	魚類(ピワコオオナマズ) 1点	ミシガン船内での「ピワコオオナマズ」展示に伴うプレスリリースに使用	静止画
8	13	株式会社文溪堂	プランクトン(ミカヅキモ) 1点	文溪堂発行 理科教材「観察・実験ずかん」に掲載	静止画
8	29	株式会社三菱総合研究所	フナズシの作り方 計6点	食品安全委員会5周年記念事業での講演資料および食品安全委員会HPへの掲載	静止画
9	17	滋賀県農政水産部水産課	琵琶湖&川の魚ポスター図案 1点	県内の水産業に関連する情報の提供・知識の普及	静止画
9	23	滋賀県立図書館	滋賀県管下近江国六郡物産図説-滋賀郡栗太郡(上) 1点	滋賀県立図書館編集発行「図書館しが」180号の記事に掲載	静止画
9	28	糸魚川淳二	館内C展示室撮影写真 1点	論文「包括的展示」(瑞浪市化石博物館研究報告35号掲載)への使用	静止画
10	2	滋賀県教育委員会	魚類(ニゴロブナなど)・甲殻類(スジエビ・テナガエビ) 計14点	文化財ガイドブック「湖幸比古(うみさちひこ)・豊湖比咩(とようみひめ)の世界」に掲載	静止画
10	11	滋賀県教育委員会	前野コレクション(舟溜まり・丸子船など) 計4点	文化財ガイドブック「湖幸比古(うみさちひこ)・豊湖比咩(とようみひめ)の世界」に掲載	静止画

月	日	貸出先	資料内容	使用目的	備考
10	16	(社)京都市児童館学童連盟	魚類(メダカ・ギンブナなど) 計8点	京都やんちゃフェスタ 2008(第1部、10/25)における水生生物展示パネルに利用	静止画
10	16	(財)日本水産総合研究所	魚類(メダカ) 1点	農林水産省パンフレットへの掲載	静止画
10	17	(株)アーテファクトリー	琵琶湖岸ヨシ群落 1点	(株)ベネッセコーポレーション「チャレンジ5年生」2月号に掲載	静止画
11	11	栗東歴史民俗博物館	フナズシ皿盛写真 1点	発掘調査成果展「湖国の「塩」その歴史と民俗」図録掲載	静止画
11	11	京都新聞出版センター	オオクチバス 1点	京都新聞折り込みタブロイド『週刊T&T』に「におのうみ」紹介記事の説明として掲載	静止画
11	11	日本テレビ	前野コレクション(瀬田唐橋投網) 1点	BS 日本テレビ「ぶらり途中下車の旅(12/13放送予定)」番組内でホンモロコについて説明するため	静止画
11	18	サンライズ出版	前野コレクション(木浜エリの簾編み・湖南田植え風景) 計2点	淡海文庫42『湖国小宇宙-日本は滋賀から始まった』(高谷好一著)に掲載	静止画
12	3	中日新聞大津支局	魚類(ビワコオオナマズ・ビワマス・ホンモロコ) 計3点	中日新聞新年号に掲載	静止画
12	4	長浜みーな編集室	前野コレクション(舟から車へ) 1点	湖北地域情報誌「みーなびわ湖から」101号への掲載	静止画
12	12	伊香郡高月町雨森区長	災害写真(姉川地震被害写真) 計5点	自主防災組織啓発として、パンフレットやパワーポイントに使用	静止画
12	24	(株)スタジオスポット	プランクトン・軟体類・魚類(ビワクンショウモ・セタジミ・イサザ) 計3点	ベネッセコーポレーション発行の通信教育教材「進研ゼミ 高1授業チャレンジ3月号 生物I」の特集記事に掲載	静止画
1	9	朝倉書店	ヒヌマイトトンボ 1点	「最新応用昆虫学」(田付貞洋編、朝倉書店)への掲載	静止画
1	9	栗東歴史民俗博物館	「滋賀県管下近江国六郡物産図説」うち栗太郡山田郷青花紙取調書部分 1点	栗東歴史民俗博物館通史展示の中で写真パネル化して掲載	静止画
2	6	千葉県東葛飾地域整備センター柏整備事務所	ニッポンバラタナゴ産卵写真 1点	「千葉県生態系活用マニュアル」への掲載	静止画
2	6	セブーンイレブンみどりの基金	筥・鰻筒・簀など民俗資料 計7点	セブーンイレブンみどりの基金広報誌「みどりの風」(2009年春号)の「竹の文化史」企画に掲載	静止画
2	24	栃木県なかがわ水遊園	魚類(イタセンパラ・アユモドキ) 計2点	2009年春の特別展において、天然記念物魚類の解説パネルに使用	静止画
3	6	彦根市教育委員会事務局文化財部市史編纂室	魚類(アユ・イサザ・ギギなど) 計8点	『新彦根市史』(第3巻通史編近代)刊行記念パネル展に使用	静止画
3	12	テレビ朝日編成制作局制作1部	ミカヅキモ・ミドリムシ 計2点	テレビ朝日番組「超タイムショック」内での利用	静止画
3	13	東近江地域振興局建設管理部	伊勢湾台風による被害 計2点	水害に対する意識啓発パンフレット「仁保橋」に使用	静止画
3	13	滋賀県農政水産部水産課	魚類(アユ・ヒウオ・ホンモロコなど) 計14点	普及啓発用パンフレット「私たちの琵琶湖と魚たち」に掲載	静止画
3	24	安土町役場事業課	魚類・貝類 計25点	西の湖パンフレットに使用	静止画

<館内閲覧・撮影>

月	日	利用者	閲覧内容	閲覧目的
4	21	近藤隆二郎 (NPO 五環生活)	フナズシオケなど桶製品 計10点	桶風呂の制作行程の記録 DVD 制作のため
4	23	小林はくどう (成安造形 大学デザイン科)	館内展示物全般	博物館における視聴覚メディアの実例紹介教材づくり
6	30	滋賀県立大学	民俗収蔵庫内資料 一式	滋賀県立大学・大学広報用DVDの撮影 (卒業生インタビュー)
7	18	杉浦和子 (京都大学大学 院文学研究科)	小牧家資料 (京都帝国大学文学部地理学 教室『地理学談話会会報』4号・5号) 2点	地理学教室の活動歴についての資料 収集
8	8	滋賀県立堅田高等学校	船模型 (木之浜の田船・堅田の漁船) 計2点	堅田の昔話「堅田の大水」スライド作 製のため
8	21	松木綾子 (富山大学)	松原内湖遺跡へラ状木製品 2点	卒業論文の資料調査
10	6	京都新聞滋賀本社	C 展示室・生活実験工房展示民具 計15点	京都新聞連載記事「滋賀の言葉」に掲 載
10	24	(株)滋賀民報社	唐橋遺跡 (調査状況・出土無文銀銭) 計2点	『滋賀民報』で掲載中の「近江の歴史 舞台を訪ねて」に資料として掲載
11	20	落合雪野 (鹿児島大学総 合研究博物館)	滋賀県管下近江国六郡物産図説一 滋賀 郡・栗太郡 1冊	アオバナと青花紙に関する研究
11	27	狩山俊悟 (倉敷市立自然 史博物館)	オオバメギ・オオバクロモジさく葉標本 計41点	岡山県版レッドデータブック改訂に ともなう研究に関する利用
12	13	杉浦和子 (京都大学大学 院文学研究科)	小牧家資料 (京都帝国大学文学部地理学 教室『地理学談話会会報』4号・5号) 2点	地理学教室の活動歴についての資料 収集のため
12	19	佐原雄二	カイツブリ 1点	採餌行動の観察・研究

4) 資料の活用状況の公開

収集された資料は、琵琶湖博物館内だけでなく、県内外の博物館など他機関へも貸し出され、展示されている。他機関の展示への貸出状況についてはインターネットページにて順次公開しており、2007年度までは歴史資料と水族資料の2分野の公開を行っていた。2008年度は、これに環境資料の貸出状況を追加し、計3分野の資料の貸出状況の公開を行っている。

5) 資料の利用による成果

さまざまな形で資料は利用されるが、そのことによって多岐にわたる成果があがる。2008年度は、琵琶湖博物館の資料を活用した下記の論文が公表された。

- ・長澤和也・山内健生・海野徹也 (2008) 日本産ウオビル科およびエラビル科の目録 (1895～2008年). 日本生物地理学会会報 63: 151-171.

利用した資料: 動物標本 (ヒダビル1点、カザリビル属1点、ヌマエラビル2点) 計4点

- ・糸魚川淳二 (2009) 包括的展示論. 瑞浪市化石博物館研究報告 35(Supplement): 37-51.

利用した資料: 琵琶湖博物館C展示室撮影写真 計4点

(7) 資料保管

整理された資料を保管する際には、ガス燻蒸、冷凍処理および二酸化炭素処理など、防虫・防かび対策を行った後に収蔵庫へ収納している。また、収蔵資料が長期間にわたり安全で良好な状態保てるよう、目視による資料チェックや保存液の補充などを行うほか、収蔵庫の適切な保存環境を維持するため、収蔵庫内の温湿度管理や定期的な清掃とトラップ調査など、総合的有害生物防除管理 (IPM) を行っている。

2008年度には、8月、9月に、館内でのブンガノン処理に併せて効果測定のための生物環境調査を実施した。2009年

3月には、全館での空中真菌の調査を実施し、館内環境維持への基礎調査を行った。また、IPM 基準値以下の保存環境を保つため、定期清掃や臨時的清掃(トラックヤードなど)を行った。さらに、害虫の侵入防止を目的として、収蔵庫内の内履きや粘着マットの整備、扉の隙間の防虫対策や排水口に害虫防止用のネットを設置するなどの取り組みを行った。

温湿度管理	各収蔵庫定点観測を実施 ・時間ごとに計測し、全データを保存。 ・温湿度の変化を年間通して把握し、環境の基準を設定する。
定期清掃	・収蔵庫の清掃：月1回原則として第1金曜日に実施 ・収蔵庫前廊下の清掃：当番で割り振られた範囲を週1回実施
特別清掃	年9回の特別清掃の実施
生物環境調査	年3回の生物環境調査 ・2008年6月27日～7月11日 空中真菌調査6カ所・昆虫トラップ調査 226カ所 (設置・回収・分析) ・2008年10月31日～11月14日 空中真菌調査6カ所・昆虫トラップ調査 226カ所 (設置・回収・分析) ・2008年2月20日～3月6日 空中真菌調査6カ所・昆虫トラップ調査 226カ所 (設置・回収・分析) 収蔵庫空間・研究棟でのブンガノン処理に伴う生物環境調査 ・2008年8月22日～9月5日 昆虫トラップ事前調査 44ヶ所(設置・回収・分析) ・2008年9月16日～9月30日 昆虫トラップ事後調査 44ヶ所(設置・回収・分析) 全館での空中真菌調査 ・2009年3月2日、3日 空中真菌調査61カ所) *当館のIPM基準値 ・虫：非誘因性トラップで1日につき捕獲される指標種(チャタテムシ)の個体数(捕獲指数)が1 ・空中菌：空気衝突法により採取した菌を7日間培養させた場合のコロニー数が20

(8) 燻蒸・処理

琵琶湖博物館では、資料を安全に長期間保管し活用していくために、収集した資料や活用後の資料については収蔵庫への搬入の前に、燻蒸庫での燻蒸を随時行っている。琵琶湖博物館には、大型・小型の2台の燻蒸庫がある。大型燻蒸庫では、ヨウ化メチル(アイオガード)と炭酸ガスによる燻蒸、処理を行うことができる。小型燻蒸庫では、炭酸ガスによる処理を行うことができる。併せて、資料によっては冷凍庫による冷凍処理および脱酸素処理を実施している。

2008年度は、収蔵庫でのガス燻蒸を中止したことに伴い、小規模な液化炭酸ガス製剤(ブンガノン)を用いた殺虫処理を年2回実施した。加えて、虫損のあった展示資料に、酸化エチレン(エキフェームS)を用いたテント燻蒸を実施した。

- 大型燻蒸庫燻蒸
 - ・実施回数：6回
 - 内訳 アイオガード2回、炭酸ガス4回
- 小型燻蒸庫燻蒸
 - ・実施回数：0回
- 冷凍処理 随時
- 脱酸素処理 随時
- 収蔵庫空間と研究棟での殺虫処理
 - ・実施回数：2回
- 虫損展示資料のテント燻蒸
 - ・実施回数：1回

2 研究を進めて活かせる博物館

研究調査活動

琵琶湖博物館の事業は、研究事業、交流サービス事業、情報事業、資料整備事業、展示事業という五つを総合的に行ない、特にその中でも研究活動が全ての博物館活動の基礎となる。すなわち、研究の成果の発信として、交流、情報、資料、展示が行なわれ、研究の成果とその発信が魅力的であれば有るほど、博物館の他の事業も魅力的なものとなる。

これまで琵琶湖博物館の研究事業では、「生命文化複合体」としての琵琶湖の「価値」を明らかにすることを目標に、学際的な総合研究やテーマをしぼった共同研究、ならびに個々の学芸員の資質を高める専門研究に取り組んできた。総合研究と共同研究については、研究審査委員会に対して研究計画書を提出し、その審査を受けて、2008年度は、以下の研究課題が審査を通過して実施された。なお、専門研究については、申請金額の多い研究は申請専門研究として、同じく研究審査会での審査を受けた。また、それ以外の専門研究については、研究部代表者会議において審査を実施した。

(1) 総合研究

琵琶湖博物館の設立理念を実現することに直接結びつく研究として、総合研究を行った。総合研究のテーマは次の2件であった。

- ・琵琶湖およびその集水域の生物学的探査：分類学、形態と分子に基づく系統学
代表者：マーク・ジョセフ・グライガー、研究期間：2006～2010年度
- ・湖に隣接する水田地帯の特性の解明－ニゴロブナを媒体として－
代表者：前畑政善、研究期間：2007～2011年度

(2) 共同研究

琵琶湖博物館のテーマにしたがった研究として共同研究を以下のテーマで行った。

- ・河川残留型を含むビワマス地域個体群存在の可能性
代表者：桑原雅之、研究期間：2006～2008年度
- ・「魚が確認できない」データに基づく魚類が脅威にさらされている地域の特定と要因の解明
代表者：水野敏明、研究期間：2006～2008年度
- ・北半球の多様な水辺に生息する双翅目昆虫の進化学的研究
代表者：榊永一宏、研究期間：2007～2011年度
- ・近畿地方におけるオオオサムシ亜属の歴史生物地理
代表者：八尋克郎、研究期間：2007～2009年度
- ・カワウ営巣林における森林衰退－回復過程の解明：異地性流入モデル構築のための調査方法の検討
代表者：亀田佳代子、研究期間：2007～2009年度
- ・日本列島の旧石器時代における環境変動と人間活動の関係性解明のための研究
代表者：高橋啓一、研究期間：2007～2010年度
- ・琵琶湖周辺のボーリングコアから見た琵琶湖の成立
代表者：里口保文、研究期間：2008～2010年度
- ・琵琶湖の過去5万年間の自然環境史解析
代表者：井内美郎、研究期間：2008～2010年度

(3) 専門研究

各学芸職員が、自らの専門分野の研究をおこなった。専門研究は特別な経費を要求した申請専門研究と、通常の経費で研究をしたものとに区別している。

<申請専門研究>

- ・琵琶湖をめぐる水と山の歴史にかかわる考古学的研究（用田政晴）
- ・琵琶湖北西部の中期更新世前半の化石林に基づく古環境の復元（山川千代美）
- ・日本中世における内水面の環境史研究—その環境と生業—（橋本道範）

<専門研究>

環境史研究担当

- ・コイ科魚類の咽頭歯に関する研究 個体発生に基づく類型化（中島経夫）
- ・奥山コレクションの整理と古生物学的意義付け（高橋啓一）
- ・安曇川周辺地域の古琵琶湖層群の層序と年代（里口保文）
- ・土地開発史の復原（宮本真二）
- ・朝鮮人街道沿いの民家と集落景観（老 文子）

生態系研究担当

- ・水田地帯、内湖の魚類の生態（前畑政善）
- ・鯰脚類、顎脚類および等脚類（甲殻類）の分類学や形態学および個体発生学に関する研究（マーク・ジョセフ・グライガー）
- ・農村地域の環境保全活動組織の形成手法について（小川雅広）
- ・博物館収蔵資料のDNA解析による外国産シジミ侵入時期の推定（松田征也）
- ・琵琶湖におけるビワマスの遊泳層解明のための予備的研究（桑原雅之）
- ・琵琶湖およびその集水域におけるゴミムシ類の分類学的研究（八尋克郎）
- ・鳥類による異地性流入が陸域の生態系に与える影響の検討（亀田佳代子）
- ・農村環境問題についての環境社会学的研究（牧野厚史）
- ・新規研究課題の探索ならびに南湖の沈水植物のモニタリング（芳賀裕樹）
- ・河道内の伐採竹におけるゼロエミッション型地域モデルの構築に関する研究（臼井 学）
- ・アタックに強い食害防護柵の設置と仕様の調査（西村知記）
- ・森林伐採後の硝酸形成に影響する環境条件の解明と斜面での硝酸流出過程の探求（草加伸吾）
- ・魚類・貝類の保全に関する基礎的研究（中井克樹）
- ・滋賀県内ミズゴケ湿原の珪藻植生研究（大塚泰介）
- ・水生双翅目昆虫アシナガバエ属 *Dolichopus* の分類学的研究（栴永一宏）
- ・シベリアの淡水カイミジンコの分類（国際湖沼学）と日本のカイミジンコの生態と分類（ロビン・ジェームス・スミス）
- ・ニゴロブナ水田育成種苗の流下後の行動（礪田能年）
- ・集水域における自然利用と生活とのかかわりに関する環境社会学的研究（楊 平）

博物館学研究担当

- ・琵琶湖博物館の博物館学的中間総括（布谷和夫）
- ・琵琶湖集水域における人や生き物の活動の映像記録（写真撮影、録音など）に関する研究ならびに博物館的表現・伝達方法・利用に関する研究（秋山廣光）
- ・共生藻類をもつ繊毛虫 *Didinium* sp. の形態および生態について（楠岡 泰）
- ・地球物理学を手がかりとする博物館学の展開（戸田 孝）
- ・水生植物の繁殖と成長の研究（芦谷美奈子）
- ・博物館における民具資料の存在意義と利用価値の再発見（中藤容子）
- ・琵琶湖博物館と学校の交流・連携に関わる実践的研究Ⅲ（中野正俊）
- ・琵琶湖博物館を利用した学習プログラムの開発（飯住達也）

琵琶湖博物館総合研究・共同研究審査委員会 委員

氏名	現職
鳥越皓之	早稲田大学人間科学学術院 教授
原田英司	京都大学名誉教授
藤井譲治	京都大学大学院文学研究科 教授
宮崎信之	東京大学海洋研究所海洋科学国際共同研究センター 教授
竹村恵二	京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設長 教授
三田村緒佐武	滋賀県立大学環境科学部環境生態学科 教授
篠原 徹	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 理事
西川 朗	滋賀県教育委員会事務局学校教育課 指導主事
川那部浩哉	滋賀県立琵琶湖博物館 館長
阪口 榮	滋賀県立琵琶湖博物館 副館長

(4) 公表された主な研究業績

学芸職員が公表した研究に関する著作物のうち、学術雑誌や書籍などで公表されたオリジナルな論文あるいはそれと同等なものをあげた。研究業績全体については、琵琶湖博物館インターネットページ (<http://www.lbm.go.jp/active/kenkyu/>) に掲載した。

大高明史・Grygier, M. J.・市田忠夫・斉藤仁志・川瀬莉奈 (2008) カイエビ (甲殻綱、鯰脚亜綱、カイエビ目、カイエビ科) の青森県と宮城県からの初記録. *青森自然誌研究*, 13 : 47-50.

Moravec, F., Scholz, T., Kuchta, R. and Grygier, M. J. (2008) Female morphology of *Philometra parasiluri* (Nematoda, Philometridae), an ocular parasite of the Amur catfish *Silurus asotus* in Japan. *Acta Parasitologica*, 53 (2) : 153-157.

Glenner, H., Hoeg, J. T., Grygier, M. J. and Fujita, Y. (2008) Induced metamorphosis in crustacean y-larvae: Towards a solution to a 100-year-old riddle. *BMC Biology*, 6 : 21.

Kolbasov, G. A., Grygier, M. J., Hoeg, J. T. and Klepal, W. (2008) External morphology of the two cypridiform ascothoracid-larva instars of *Dendrogaster*: the evolutionary significance of the two-step metamorphosis and comparison of lattice organs between larvae and adult males (Crustacea, Thecostraca, Ascothoracida). *Zoologischer Anzeiger*, 247 : 159-183.

Foissner, W., Kusuoka, Y. and Shimano, S. (2008) Morphology and Gene Sequence of *Levicoleps biwae* n. gen., n. sp. (Ciliophora, Prostomatida), a Proposed Endemic from the Ancient Lake Biwa, Japan. *Journal of Eukaryotic microbiology*, 55 (3) : 185-200.

Ji, D. and Kusuoka, Y. (2009) A description of *Apocarchesium rosettum* n. gen., n. sp. and a redescription of *Ophrydium eichornii* Ehrenberg, 1838, two freshwater peritrichous ciliates from Japan. *European Journal of Protistology*, 45 : 21-28.

Kikko, T., Kuwahara, M., Iguchi, K., Kurumi, S., Yamamoto, S., Kai, Y. and Nakayama, K. (2008) Mitochondrial DNA population structure of the White-Spotted Charr (*Salvelinus leucomaenis*) in the Lake Biwa water system. *Zoological Science*, 25 : 146-153.

Kikko, T., Kai, Y., Kuwahara, M. and Nakayama, K. (2008) Genetic diversity and population structure of white-spotted charr, *Salvelinus leucomaenis*, in the Lake Biwa water system inferred from AFLP analysis. *Ichthyological Research*, 55 : 141-147.

Yang, D., Saigusa, T. and Masunaga, K. (2008) Species of *Chrysotimus* Loew from Nepal (Diptera: Empidoidea, Dolichopodidae). *Zootaxa*, 1917 : 29-37.

- Wang, M., Yang, K. and Masunaga, K. (2009) Species of the genus Chaetogonopteron (Diptera:Dolichopodidae) from Taiwan. *Journal of Natural History*, 43 (9-10) : 609-617.
- 米山和良・光永 靖・松田征也・平石智徳・國宗義雄・山根 猛 (2008) 琵琶湖南湖における超音波テレメトリーを用いたニゴロブナの成魚の行動測定 (短報). *日本水産学会誌*, 74 (5) : 864-866.
- 宮本真二 (2008) ヒマラヤ地域、高所山岳地域の自然災害問題. *ヒマラヤ学誌*, 9 : 49-53.
- 宮本真二・安藤和雄・アバニィ・クマール・バガバティ (2009) ヒマラヤ地域における民族移動と土地開発過程. *ヒマラヤ学誌*, 10 : 1-9.
- 宮本真二・内田晴夫・安藤和雄・ムハマッド・セリム (2009) 洪水の環境史—バングラデッシュ中央部、ジャムナ川中流域における地形環境変遷と屋敷地の形成過程—. *京都歴史災害研究*, 10 : 27-34.
- 中島経夫・中島美智代・孫 国平 (2008) 田螺山遺址魚骨坑内の鯉科魚類咽歯. *田螺山遺址*, 科学出版社, 中国.
- 中野正俊・千原孝司 (2007) 児童生徒の環境配慮行動が規定する要因の検討. *滋賀大学教育学部紀要 I 教育科学*, 57 : 153-160.
- 中野正俊 (2008) 環境配慮行動にいたる要因の関係性. *滋賀大学教育学部教育実践総合センター紀要*, 16 : 61-66.
- 中野正俊 (2008) 博物館のサテライト化による理科・環境学習. *滋賀大学教育学部紀要 I 教育科学*, 58 : 101-112.
- 中井大介・大塚泰介・中原紘之・中野伸一 (2008) 人工水路において添加された微細粒子の堆積が付着藻類の群落構造に与える影響. *陸水学雑誌*, 69 : 193-205.
- 有田重彦・大塚泰介 (2008) *Eunotia serra* Ehrenb. のサイズ減少に伴う殻形態の変化、特に波形の変化について. *Diatom*, 24 : 42-50.
- 木原靖郎・佐橋保司・大塚泰介 (2008) 比良山系小女郎ヶ池の珪藻. *Diatom*, 24 : 73-79.
- 金尾滋史・大塚泰介・前畑政善・鈴木規慈・澤田裕一 (2009) ニゴロブナ *Carassius auratus grandoculis* の初期成長の場としての水田の有効性. *日本水産学会誌*, 75 (2) : 191-197.
- Satoguchi, Y., Nagahashi, Y., Furusawa, A., Yoshikawa, S., and Inouchi, Y. (2008) The Middle Pleistocene to Holocene tephrostratigraphy of the Takashima-oki core from Lake Biwa, central Japan. *Journal of Geosciences*, 51 : 47-58.
- 黒川勝巳・長橋良隆・吉川周作・里口保文 (2008) 大阪層群の朝代テフラ層と新潟地域の Tzw テフラ層の対比. *第四紀研究*, 47 (2) : 93-99.
- Okada, R., Tsukagoshi, A., Smith, R. J. and Horne, D. J. (2008) The ontogeny of the platycopid *Keijicyoidea infralittoralis* (Ostracoda: Podocopa). *Zoological Journal of the Linnean Society*, 153 : 213-237.
- Smith, R. J., Janz, H. (2008) Recent species of the family candonidae (Ostracoda, Crustacea) from the ancient Lake Biwa, Central Japan. *Journal of Natural history*, 42 : 2865-2922.
- Smith, R. J. and Matzke-Karasz, R. (2008) The oragon on the first segment of the cypridoidean (Ostracoda, Crustacea) antennule: morphology and phylogenetic significance. *Senckenbergiana lethaea*, 88 (1) : 127-140.
- Kamiya, T., Fujinami, Y. and Smith, R. J. (2008) Morphological analysis of the male carapace of the darwinulid ostracode *Vestalenua cornelia* Smith, Kamiya and Horne, 2006 (Crustacea). *Senckenbergiana lethaea*, 88 (1) : 113-119.
- Smith, R. J., and Kamiya, T. (2008) The ontogeny of two species of Darwinuloidea (Ostracoda, Crustacea). *Zoologischer Anzeiger*, 247 : 275-302.
- 林 成多・八尋克郎・北林栄一 (2009) 大分県九重町の野上層から産出した中期更新世の昆虫化石. *瑞浪市化石博物館研究報告*, 35 : 105-110.
- 高橋啓一・北川博道・添田雄二・小田寛貴 (2008) 北海道 忠類産ナウマンゾウの再検討. *化石*, 84 : 74-80.
- 岡村喜明・高橋啓一 (2009) 新生代からの足跡化石研究の現状. *化石研究会誌*, 2 (41) : 82-88.
- 戸田 孝 (2009) 地域の博物館連携組織を主体とする「展示活動」—滋賀県博物館協議会 25 周年記念事業を例として—. *博物館研究*, 2 (44) : 21-24.

- 橋本道範 (2008) 鎌倉幕府の裁判. *中世裁許状の研究*, 塙書房 : 57-69.
- 橋本道範 (2008) 鎌倉幕府裁許状の歴史的位罫—対問・勘判を引用する裁許状の広がり—to注目して—. *中世裁許状の研究*, 塙書房 : 165-225.
- 橋本道範 (2008) 東寺の裁許と裁許状—権門における鎌倉幕府裁許状の構成の受容—. *中世裁許状の研究*, 塙書房 : 487-506.
- 橋本道範 (2009) 日本中世における水辺の環境と生業—河川と湖沼の漁撈から—. *史林*, 1 (92) : 4-35.
- 橋本道範 (2009) 琵琶湖の寺辺殺生禁断論—「現代化」論に向けて—. *NEOMAP Interim Report 2008 Research Institute for Humanity and Nature* : 163-169.
- Yamakawa, C., Momohara, A., Nunotani, T., Matsumoto, M. and Watano, Y. (2008) Paleovegetation reconstruction of fossil forests dominated by *Metasequoia* and *Glyptostrobus* from the late Pliocene Kobiwako Group, Central Japan. *Paleontological Research*, 12 (2) : 167-180.
- 南澤 修・松本みどり・百原 新・山川千代美 (2008) 古琵琶湖層群畑層から産出した前期更新世末の大型植物化石. *植生史研究*, 16 (2) : 49-55.
- Yang, P. (2008) Community-Based water resources management in Rural Areas of Japan : a Case History of Environmental protection Involving the Resuscitation of irrigation Tanks in Shiga Prefecture, The international Symposium on East asian Environmental Sociology : Problems, movements and policies. *Japanese Association for Environmental Sociology Center for Environmental Initiatives, Hosei University* : 69-75.

(5) 研究助成を受けた研究

学芸職員が受けた外部研究助成のうち、主なものをあげた。

布谷知夫

- ・国立民族学博物館「博物館のネットワーク研究会」共同研究者 (2005～2008 年度)
- ・文部科学省科学研究費補助金「中近世建築遺構の放射性炭素を用いた年代判定」研究分担者 (2006～2008 年度)
- ・国立歴史民俗博物館共同研究「博物館におけるコミュニケーションデザインに関する研究」共同研究者 (2006～2008 年度)
- ・国立歴史民俗博物館共同研究「表象型展示システムの構築に関する総合研究」共同研究者 (2008～2010 年度)
- ・文部科学省科学研究費補助金 (基盤 C)「博物館におけるボランティアの“協働モデル”再構築にむけた実証的研究」研究分担者 (2007～2008 年度)

中島経夫

- ・総合地球環境学研究所研究プロジェクト「東アジア内海の新石器化と現代化—景観の形成史」プロジェクトメンバー (2005～2011 年度)
- ・文部科学省科学研究費補助金 (基盤 A) 海外「河姆渡文化研究の再構築—余姚田螺山遺跡の学際的総合調査—」研究分担者 (2006～2009 年度)

用田政晴

- ・文部科学省科学研究費補助金 (基盤 C)「琵琶湖地域民具資料を用いた考古民俗学的方法論の開発研究と展示への試み」研究代表者 (2008～2011 年度)

松田征也

- ・文部科学省科学研究費補助金 (基盤 C)「博物館のサテライト化による学校再生と地域文化振興に関わる研究」研究分担者 (2007～2008 年度)
- ・(社) 日本動物園水族館協会 「平成 20 年度 環境省生息外保全モデル事業」研究代表者 (2008～2009 年度)

橋本道範

- ・総合地球環境学研究所研究プロジェクト「東アジア内海の新石器化と現代化ー景観の形成史」プロジェクトメンバー（2005～2011年度）
- ・文部科学省科学研究費補助金（基盤C）「日本中世における内水面の環境史的研究」研究代表者（2007～2008年度）

大塚泰介

- ・文部科学省科学研究費補助金（基盤C）「珪藻同定支援システムの開発」研究代表者（2006～2008年度）
- ・財団法人醗酵研究所「琵琶湖のヨシ帯が水質および環境浄化に果たす役割の解明ー有用微生物の探索と応用」研究分担者（2007～2009年度）

亀田佳代子

- ・National Science Foundation(NSF), Research Coordination Networks in Biological Sciences (RCN) 「Seapre:Seabird Island and Introduced Predators:Impacts of Presence and Eradication on Island Function」研究分担者（2007～2009年度）

牧野厚史

- ・文部科学省科学研究費補助金（基盤B）「琵琶湖の歴史的環境と人間の関わりに関する総合的研究」研究分担者（2006～2009年度）
- ・独立行政法人科学技術振興機構社会技術研究開発センター(JST) 研究開発プログラム科学技術と社会の相互作用「地域主導型科学者コミュニティの創生」研究分担者（2008年度）
- ・関西学院大学 21世紀COEプログラム「人類の幸福に資する社会調査」の研究「幸福のフィールドワークー実存と実践の比較社会学的方法の確立をめざしてー」研究分担者（2003～2008年度）

宮本真二

- ・文部科学省科学研究費補助金（基盤A）「南部アフリカにおける『自然環境ー人間活動』の歴史的変遷と現問題の解明」研究分担者（2005～2008年度）
- ・文部科学省科学研究費補助金（基盤A）「ブラマプトラ川流域地域における農業生態系と開発ー持続的発展の可能性ー」研究協力者（2005～2008年度）
- ・総合地球環境学研究所研究プロジェクト「東アジア内海の新石器化と現代化ー景観の形成史ー」プロジェクトメンバー（2005～2011年度）
- ・文部科学省科学研究費補助金（基盤B）「琵琶湖の歴史的環境と人間の関わりに関する総合的研究」研究分担者（2006～2009年度）
- ・総合地球環境学研究所研究プロジェクト「人間の生老病死と高所環境ー3大「高地文明」における医学生理・生態・文化適応ー」研究分担者（2005～2011年度）

高橋啓一

- ・総合地球環境学研究所研究プロジェクト「日本列島における人間ー自然相互関係の歴史的・文化的検討」プロジェクトメンバー（2006～2010年度）
- ・財団法人日本科学協会「博物館資料を使った地球温暖期における日本列島の脊椎動物化石相の実体解明」研究代表者（2008年度）

榊永一宏

- ・文部科学省科学研究費補助金（若手B）「海洋性双翅目昆虫の起源と進化」研究代表者（2006～2008年度）

中井克樹

- ・財団法人ダム水源地環境整備センターWEC 応用生態研究助成「ダム貯水池における水位操作と人工産卵床を利用した特定外来魚の生息抑制に関する研究」研究代表者（2007～2009年度）

ロビン・ジェームス・スミス

- ・文部科学省科学研究費補助金（基盤B）「地下水のカイミジンコ」研究分担者（2008年度）

中野正俊

- ・文部科学省科学研究費補助金（基盤C）「博物館のサテライト化による学校再生と地域文化振興に関わる研究」研究代表者（2007～2008年度）
- ・JST日本学技術振興機構「理科系教員指導力向上に関する特色ある活動」研究代表者（2008年度）
- ・中部電力（株）「滋賀県東部地区における博物館サテライト化」研究代表者（2008年度）

老 文子

- ・文部科学省科学研究費補助金（基盤C）「琵琶湖地域民具資料を用いた考古民俗学的方法論の開発研究と展示への試み」研究分担者（2008～2011年度）

辻川智代

- ・文部科学省科学研究費補助金（基盤C）「琵琶湖地域民具資料を用いた考古民俗学的方法論の開発研究と展示への試み」研究分担者（2008～2011年度）

青木伸子

- ・文部科学省科学研究費補助金（基盤C）「博物館におけるボランティアの“協働モデル”再構築にむけた実証的研究」研究代表者（2007～2008年度）
- ・文部科学省科学研究費補助金（基盤C）「博物館のサテライト化による学校再生と地域文化振興に関わる研究」研究分担者（2007～2008年度）

<研究調査業務受託>

亀田佳代子

- ・独立行政法人水産総合研究センター 中央水産研究所 平成20年度 先端技術を活用した農林水産研究高度化事業「カワウによる漁業被害防除技術の開発」（2007～2009年度）

中井克樹

- ・独立行政法人水産総合研究センター 平成20年度 健全な内水面生態系復元等推進委託事業「外来魚抑制管理技術開発」（2006～2008年度）

(6) 琵琶湖博物館研究発表会

第14回 琵琶湖博物館研究発表会

- ・テーマ : 琵琶湖畔の水田をニゴロブナの目線から見る
- ・開催日時 : 平成20(2008)年10月5日(日) 午後1時30分～午後5時15分
- ・会場 : 琵琶湖博物館 ホール
- ・開催趣旨 : 琵琶湖博物館では、2006年度から「湖に隣接する水田地帯の特性の解明」と題した総合研究を行っています。この研究では、琵琶湖を代表する魚・ニゴロブナを通じて、湖畔にある水田の意義や機能を生き物と人とのかかわりから明らかにすることをめざしています。今回は、これまでの調査で明らかにされたニゴロブナをめぐる水田、水路、琵琶湖に関わるいくつかの知見、そして人の水田利用にかかわる特徴的な事例を紹介し、琵琶湖畔の水田をあらためて見直します。

【プログラム】

- 13:30～13:35 開会あいさつ 川那部浩哉（琵琶湖博物館長）
- 13:35～13:50 「今、なぜ水田なのか」 前畑政善（琵琶湖博物館）
- 13:50～14:15 (1) ニゴロブナ親魚の接岸と水路への遡上
「ニゴロブナの接岸と農業用水路への遡上要因の検討」
水野敏明（琵琶湖博物館特別研究員）
- 14:15～14:30 (2) 魚を水田に遡上させる試み—魚のゆりかご水田—
小川雅広（琵琶湖博物館）・堀 明弘（農村振興課）
- 14:30～15:15 (3) ニゴロブナが生まれ、育った水田でおこること

「ニゴロブナ仔魚を放流した水田で何がおこるか」

- 1) 「微小動物への影響」 山崎真嗣 (名古屋大学生命農学研究科)
 2) 「さらに小さな生物への影響」 大塚泰介 (琵琶湖博物館)
 3) 「土壌・水質の変化と水稻の生育・収量」 柴原藤善 (農業技術振興センター)

15:15～15:30 休憩

15:30～15:45 (4) 水田で育ったニゴロブナ稚魚は、いつ、水田のどこから出ていくのか?

「ニゴロブナ稚魚はいつ、水田のどこから出ていくのか？」

前畑政善 (琵琶湖博物館)

15:45～16:10 (5) 琵琶湖へ下ったニゴロブナ若魚の動き

「水田で育ったニゴロブナ稚魚の放流効果」

根本守仁・藤岡康弘 (水産試験場)

16:10～16:35 (6) 水田と人とのかかわりを考える

「共同利用空間としての水田地帯」

牧野厚史 (琵琶湖博物館)

16:35～17:10 <全体質疑>

17:10～17:15 閉会挨拶

用田政晴 (琵琶湖博物館研究部長)

(7) 新琵琶湖学入門セミナー

琵琶湖博物館で『世界古代湖会議』を開催してから10年余がたち、また、開館5周年記念として、入門セミナー『湖と人間』を実施してから、早くも6年の年月がたっている。この間、琵琶湖、社会情勢、ならびに私たちの生活や価値観にもいくつかの変化の兆候がみられ、琵琶湖の自然、歴史、人々の暮らしなどに関する新たな知見も蓄積されている。そこで、2008年12月から2009年3月の土曜日に、一般の方々を対象として「新琵琶湖学入門セミナー」を開催した。

今回の新琵琶湖学入門セミナーでは、川那部館長も含めた当館学芸員を中心に、県内の試験研究機関の専門職員が、琵琶湖とその流域の自然、歴史、人びとの暮らし等について、最新の研究成果を取り入れた知見をわかり易く解説した。各回ともに多くの参加者があり、延べ約770名の参加者があった。最終日には受講生と講師との交流会を開催した。

	テーマ	開催日	タイトル	講師	参加者
第1回	湖と人間	12月6日	湖と人間	川那部浩哉	78
			琵琶湖再生に向けての取り組み	小松直樹 (滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖再生課)	
第2回	琵琶湖の生い立ちをさぐる	12月13日	古琵琶湖のゾウ化石が教える地球のリズム	高橋啓一	53
			古琵琶湖層の化石林が語ること	山川千代美	
第3回	集水域と琵琶湖(1)	12月20日	湖と森林	草加伸吾	70
			湖と河川を結ぶ魚・ビワマス	桑原雅之	
第4回	集水域と琵琶湖(2)	1月10日	魚はなぜ田んぼをめざすのか	前畑政善	64
			魚のゆりかご水田	小川雅広	
第5回	琵琶湖の生き物(1)	1月17日	プランクトンの長期変遷と異常発生	一瀬諭 (琵琶湖環境科学研究センター)	65
			琵琶湖産希少魚の保全を考える	松田征也	

	テーマ	開催日	タイトル	講師	参加者
第6回	琵琶湖の生き物(2)	1月24日	琵琶湖の魚の現状を考える	秋山 廣光	63
			水生植物の多様性	芦谷美奈子	
第7回	湖と人間(1) ヨシ帯	1月31日	ヨシと人間	布谷 知夫	68
			ヨシ帯における魚類の産卵に配慮した瀬田川洗堰の水位操作	藤井 節生 (国土交通省近畿地方整備局 琵琶湖河川事務所)	
第8回	湖と人間(2) 琵琶湖の漁業	2月7日	琵琶湖の漁業を知っていますか?	藤岡 康弘 (滋賀県水産試験場)	64
			ニゴロブナを増やす	磯田 能年	
第9回	湖と人間(3) 諸問題	2月14日	琵琶湖のブルーギルの現状	中尾 博行 (水のめぐみ館 アクア琵琶)	68
			琵琶湖の外来種問題の本質を問う	中井 克樹	
第10回	湖と人間(4) 諸問題	2月21日	南湖でふえた水草	芳賀 裕樹	58
			カワウの被害とは何か	亀田佳代子	
第11回	湖と人間(5) 歴史	2月28日	湖上交通史の再検討	用田 政晴	61
			湖の城	木戸 雅寿 ((財)滋賀県文化財保護協会)	
第12回	湖と人間(6) 水辺利用	3月7日	中国・太湖の水辺利用	楊 平	58
			琵琶湖における水辺利用の過去、現在、そして未来は?	牧野 厚史	

(8) 特別研究セミナー

第50回 2008年8月30日(土) 14:00~17:00 琵琶湖博物館 会議室

講演：今田美穂 (国立環境研究所研究員)

「外来魚駆除対策としての池干し慣行再開の論理と実現可能性

—兵庫県東播磨・北播磨地域を事例に—

第51回 2008年12月18日(木) 13:00~15:00 琵琶湖博物館 セミナー室

講演：キャロル・スタップ博士 (米・ジョージ・ワシントン大学教授)

「だれのために、何をする？博物館の教育活動」

第52回 2009年2月2日(月)・3日(火) 琵琶湖博物館 会議室

「博物館ボランティアとそのコーディネーターの役割」

2月2日(月) 小テーマ「博物館ボランティアとは」

9:30~10:00 趣旨説明と問題提起

布谷知夫 (琵琶湖博物館)

10:00~11:00 文化ボランティアの役割と博物館

津屋結唱子 (しが文化芸術学習支援センター・トータルコーディネーター)

11:00~12:00 欧米のミュージアムボランティアの活動と運営

黒岩啓子 (Learning Innovation Network・琵琶湖博物館)

昼休憩

13:00~14:00 組織化されたボランティアの活動

永田香織・上野知彦（九州国立博物館）

14:00～15:00 萩まちじゅう博物館の中のボランティア 樋口尚樹（萩博物館）

15:00～16:00 美術館の教育活動でおこなう知のインフラ整備とは何か 端山聡子（平塚美術館）

16:00～17:00 総合討論

2月3日(火) 小テーマ「博物館を楽しむためのボランティア」

9:30～10:00 趣旨説明と問題提起 北村美香（琵琶湖博物館）

10:00～11:00 動物園を支えるボランティア 小林正和（須坂市動物園）

11:00～12:00 多摩六都科学館とボランティア組織 神田正彦（多摩六都科学館）

13:00～15:00 びわたんの活動と展示室での「すごろく」の実施

北村美香・びわたん（琵琶湖博物館）

15:00～16:30 コメント

総合討論

第53回 2009年3月27日(金) 15:00～17:00 琵琶湖博物館 セミナー室

「資源が循環するこれからの住まいと暮らしーこれをテーマに博物館と何ができるかー」

話題提供

1 「どうして琵琶湖博物館と協働なのか」 岩波 正（建築士）

2 『『現代の住まいと暮らし』の課題とその解決のための実践』

川村勝美（大工棟梁）・宮内寿和（大工棟梁）・川端 眞（建築士）

3 「滋賀における家づくりグループ」 岩波 正（建築士）

4 「博物館とともにやっていきたいこと」 鈴木 有（木構造研究者）

討論会

(9) 研究セミナー

毎月第3金曜日 13:15～15:15 に、以下の研究セミナーを開催した。

第1回 2008年4月18日(金) 参加者 31名

橋本道範 日本中世における水辺の環境と生業についてー河川と湖沼の漁撈からー

中藤容子 民具の動態研究の試みとその社会的意義

ー博物館における地域住民との協働実践と今後の可能性ー

桑原雅之・井口恵一朗・亀甲武志・高橋 洋・来見誠二

琵琶湖内で漁獲されるビワマスとサツキマスにおける遺伝子浸透の現状Ⅱ

第2回 2008年5月16日(金) 参加者 26名

秋山廣光 回想法と写真療法ー博物館における映像資料の収集と利用についての可能性ー

用田政晴 上平寺城・山岳寺院論の提唱

老 文子 桶風呂の形態と使用域

第3回 2008年6月20日(金) 参加者 21名

楊 平 自然再生をめぐる「自然」の位置づけ

山川千代美・百原 新 北海道忠類ナウマンゾウ化石包含層から産出した大型植物化石

上中央子・大庭重信・宮本真二

花粉・種実分析からみた耕地の利用

ー大阪市長原遺跡(NG02-8次調査)における奈良時代の畝状遺構を例としてー

第4回 2008年7月18日(金) 参加者 24名

草加伸吾 森林伐採に伴う硝化促進と下流域への窒素の負荷

ー植物によるコントロールをどう発揮させるかー

- 中野正俊 琵琶湖博物館と学校の交流・連携に関わる実践的研究 III
…学校教育における昆虫学習の実際…
- 中井大介 ヨシのシュートに付着した珪藻群落の二次遷移
- 第5回 2008年8月22日(金) 参加者 21名
高橋啓一 どのように研究が進展してナウマンゾウからマンモスゾウをみつけたのか
水野敏明 琵琶湖におけるニゴロブナの農業水路への遡上要因の検討
- 第6回 2008年9月19日(金) 参加者 25名
楠岡 泰・山崎真嗣・大塚泰介・前畑政善
水田におけるフナの摂餌およびその微小生物群集への影響
布谷知夫 博物館学史の中の琵琶湖博物館とその今後
北村美香 博物館のキャリア形成支援機能に関する博物館学的研究
- 第7回 2008年10月17日(金) 参加者 34名
前畑政善・鈴木規慈・細谷和海 雌性発生魚ギンブナがつがう相手種(雄)
松田征也・布施幸江 カワバタモロコの人工繁殖・系統保存
中尾博行 サカナのタマゴに配慮した瀬田川洗堰操作に向けての課題
- 第8回 2008年11月21日(金) 参加者 23名
戸田 孝 県博協25周年記念事業から見えてきたこと
芳賀裕樹 2007年の南湖の水草繁茂状況について～定量調査の結果～
八尋克郎 滋賀県のゴミムシ相
- 第9回 2008年12月19日(金) 参加者 35名
中井克樹 ブルーギルの効果的な捕獲方法：繁殖コロニー単位での捕獲
白井 学・井上太樹・横川昌史・森 小夜子・野間直彦
間伐による下層植生の変化からみた竹林の維持管理指標の検討について
中島経夫 咽頭歯からわかること 人と魚と米の関係の始まりを探る
川那部浩哉 2007～08年度に出席した3つの博物館会議から
- 第10回 2009年1月16日(金) 参加者 33名
宮本真二・安藤和雄
バングラデシュ中央部、ジャムナ川中流域平野に分布する屋敷地の形成過程
芦谷美奈子 博物館のミッションと地域連携～シカゴの4園館の事例から考える～
野嶋宏二 キンブナとギンブナ・ニゴロブナ・ゲンゴロウブナ・オオキンブナ・ナガブナの鰓蓋骨の形態比較
- 第11回 2009年2月20日(金) 参加者 28名
亀田佳代子 海鳥類の営巣が森林生態系に与える影響
西村知記 侵入に強い食害防護柵設置にかかるコスト～従来型との比較
小川雅広 琵琶湖南部の農業排水路で採捕されたカメ類
- 第12回 2009年3月20日(金) 参加者 20名
飯住達也 琵琶湖博物館を利用した学習プログラムの開発
磯田能年 ニゴロブナの種苗放流と初期生活史
青木伸子 博物館におけるボランティアの“協働モデル”再構築に向けた研究

(10) 特別研究員の受け入れ

- ・北村美香 2008年1月4日～2010年1月3日
テーマ：利用者から見た、日本のミュージアム活用についての研究

- ・水野敏明 2008年3月1日～2010年2月28日
テーマ：市民参加による魚類分布情報を指標とした淡水生態系の統合的なリスク評価
- ・上中央子 2008年4月1日～2009年3月31日
テーマ：花粉および種実分析を用いた弥生時代以降の古環境と農耕の復元
- ・野嶋宏二 2008年4月1日～2009年3月31日
テーマ：骨の形態に基づく谷下産化石フナと現生日本列島産フナの種類と系統
- ・中尾博行 2008年4月1日～2009年2月28日
テーマ：琵琶湖沿岸における在来魚の産卵特性の比較生態学的研究
- ・中井大介 2008年5月1日～2009年4月31日
テーマ：河川における珪藻群落と水質の関係
- ・青木伸子 2008年4月1日～2009年3月31日
テーマ：博物館におけるボランティアの“協働モデル”再構築に向けた実証的研究
- ・黒岩啓子 2008年8月16日～2010年3月31日
テーマ：博物館におけるコミュニケーションと学びについて：もの、情報、人との相互関係に関する研究
- ・植田文雄 2008年1月10日～2013年3月31日
テーマ：琵琶湖地域における内水面漁業の史的研究—考古資料と民俗資料の比較検討を中心に—
- ・天野一葉 2008年4月1日～2009年3月31日
テーマ：湿地を利用する渡り鳥のフライウェイ・生息地環境の解明
- ・大西 拓 2008年6月1日～2009年5月31日
テーマ：カエル類における近縁種共存機構の解明について

(11) 海外交流活動

1) 研究に関する国際用務

川那部浩哉

2008年10月27日～11月1日，台湾，台湾国立博物館設立100周年記念国際会議—Challenges and Perspectives, New Roles of the Natural History Museum in Response to Global Changes における発表及び台湾生物多様性相談

中島経夫

2008年5月12日～18日，中華人民共和国湖北省武漢市中国科学院水生生物研究所，田螺山遺跡出土の咽頭歯遺存体同定のための現生コイ科魚類の調査

2008年6月2日～10日，中華人民共和国北京市中国社会科学院考古研究所，第4回東アジア考古学会での発表

2009年3月15日～3月24日，中華人民共和国湖北省武漢市中国科学院水生生物研究所および湖南省文物考古研究所，田螺山遺跡出土の咽頭歯遺存体同定のための現生コイ科魚類の調査および湖南省新石器時代遺跡から出土する咽頭歯遺存体の調査

用田政晴

2008年7月28日～8月3日，マレーシア，博物館・遺跡・民俗調査

2008年10月10日～10月13日，韓国，博物館・遺跡調査・研究交流

高橋啓一

2008年7月28日～8月5日，台湾台南県菜寮地区，台南県，台湾省博物館（台北），笹川研究助成に係る調査

2009年1月21日～1月28日，インドネシア生物科学センター（ボゴール），動物学博物館，笹川研究助成に係る調査

戸田 孝

2009年3月1日～5日, アメリカ合衆国カリフォルニア州サンフランシスコおよびバークレー, 学校と科学館との連携に関する現地調査

宮本真二

2008年8月5日～9月4日, チュニジア共和国・ナミビア共和国, 学会発表・現地調査・資料収集

2008年9月8日～9月25日, インド共和国, 現地調査・資料収集

2008年11月18日～11月29日, バングラデシュ共和国, 現地調査・資料収集

2008年12月3日～12月14日, ペルー共和国, 現地調査・資料収集

2008年12月16日～12月25日, インド共和国, 学会発表・資料収集

2009年2月10日～2月25日, バングラデシュ共和国, 現地調査・資料収集

2009年3月13日～3月25日, インド共和国, 現地調査・資料収集

枘永一宏

2008年6月23日～7月8日, スイス・イタリア, 琵琶湖博物館共同研究「北半球の多様な水辺に生息する双翅目昆虫の進化学的研究」の調査

2009年1月25日～2月12日, 南アフリカ・シンガポール, 科学研究費補助金「海洋性双翅目昆虫の起源と進化」の調査

芦谷美奈子

2008年11月17日～11月27日, アメリカ合衆国・シカゴ, 博物館学調査

3 新たな参加と発見ができる博物館

展示活動

2008年度は、財政構造改革プログラムの影響により、展示交流員の人数を削減せざるを得ず、A展示室「コレクションギャラリー」、C展示室「回転実験室」および水族展示室「ふれあい体験室」の運用を休止した。さらには、昨年度まで行ってきた展示関係の活動も縮小せざるを得ない状況であった。その中で、次のような展示活動を行うとともに、「集う・使う・創る 新空間」において、地域住民の活動紹介を行った。

(1) 常設展示の主な更新

1) A展示室

「コレクションギャラリー」

「地域の人々による展示コーナー」を新設した。常設展示室における地域の人々による展示の試みとして、以前からギャラリー展示を共同で行ってきた「湖国もぐらの会」の協力により試験的に始めたものである。貝類標本および魚類標本の展示5ケース分を2ケースに整理し、残りの3ケースを展示スペースとして用いた。また、展示制作者である地域の人たち自らが、コレクションギャラリーカウンターでの展示解説・交流を不定期に行った(2008/7/1より)

2) B展示室

特になし

3) C展示室

「琵琶湖の様々な環境と生き物」フレキシブルに情報の更新ができるように変更

4) 水族展示室

ふれあい体験室の閉鎖期間のうち後期について、「旬のさかなたち」と題し季節替え展示を行った

5) 屋外展示

駐車場からの遊歩道沿いに琵琶湖検定の問題を提示

6) ディスカバリールーム(芦谷、山田、藤岡、角野)

- ・「音の部屋」の展示
 - アジアの楽器 (2008/4/1~2008/11/9)
 - ザンビアの楽器 (2008/4/1~2009/3/31)
 - アフリカの楽器 (2008/11/11~2009/3/31)
- ・「おばあちゃんの台所」の展示
 - こどもの日 (2008/4/18~5/5)
 - 七夕 (2008/6/24~7/6)
 - お正月 (2009/1/3~1/12)
 - 節分 (2009/1/27~2/3)
 - ひなまつり (2009/2/17~3/3)
- ・「世界のこどもたち」の展示
 - ザンビア (2008/4/1~2009/3/31)
- ・生物の展示：カウンターにて
 - ホタルの幼虫 (2008/4/1~4/18)
 - イモリの幼生 (2008/4/1~5/4, 2009/1/10~3/31)
 - ヤママユガ (2008/5/8~7/29)
 - カイコ (2008/5/4~9/7)
 - コイの稚魚 (2008/5/12~5/18)
 - ヤモリ (2008/9/13~11/30)

秋の虫 (2008/10/9～11/30)
ヤゴ (2009/1/10～3/31)
キアゲハ (2008/10/1～10/20, 2009/3/21～3/31)

(2) 企画展示

1) 第16回企画展示「『昆虫記』刊行100年記念日仏共同企画『ファーブルにまなぶ』」

①概要

期 間：2008年4月29日(祝)～8月31日(日)

場 所：琵琶湖博物館企画展示室

観 覧 料：大人400円(320円)、高校生・大学生320円(250円)、小学生・中学生200円(160円)

(カッコ内は20人以上の団体料金)

観覧者数：55,039人

博物館担当者：主担当者 布谷知夫

副担当者 八尋克郎・榊永一宏

展示設計・工事業者：乃村工藝社

②展示の経過と特徴

琵琶湖博物館とフランス国立自然史博物館とは、1998年に相互協力の締結を行っており、写真展示や研究者の受け入れなどの事業を行ってきたが、2003年、5年が終わって協力協定の更新の際に新たな共同事業として、ファーブルに関する展示会が提起された。2007年がファーブルが「昆虫記」10巻を刊行して100年に当たるため、その年にファーブルに関する企画展示を行うことにし、その基本的なテーマは、ファーブルの「昆虫記」以後、日本に入ってきたファーブルの昆虫観察は、日本の昆虫研究や観察に、どのような影響を与えたのか、という点に絞ることになった。

日本国内では、琵琶湖博物館からの呼びかけによって、国内の自然系展示を持つ博物館5館が協力して展示を作り巡回することになり、日本側実行委員会（実行委員長：琵琶湖博物館館長 川那部浩哉、実行委員：各館の館長）と企画運営委員会（委員長：国立科学博物館動物部長 友国雅章、副委員長：琵琶湖博物館 布谷知夫、委員：各館の学芸員と担当事務職員）を作り、フランス側でも実行委員会を作り、全6館の共同作業として展示つくりと巡回を行うことになった。日本側実行委員会及び企画運営委員会では、2004年から会議を持ち、この展示会はファーブルを紹介する企画展示ではなく、ファーブル以後の昆虫研究や日本への影響を展示することとし、そのためには、フランスからたくさんのファーブルの資料を展示してもらうのではなく、また昆虫の展示もフランスからの展示品にはせず、日本側の5館でそれぞれがフランスに採集に行き、その昆虫を展示すること、タイトルは「ファーブルにまなぶ」とし、日本側5館が協力して作り、その展示を巡回するという形とすることなどを決めた。また巡回展示に対して、各博物館ごとに特に強調したい話題などについては各館で考えて展示をし、5館のそのような展示も含めてすべてが一つの巡回展示という考え方で進めていくこととした。

また2008年は日仏友好150年の年に当たるために、この巡回企画展示を日仏友好150年記念事業に位置付けるとともに、記念のシンポジウムなども行った。

日本側5館とその巡回展示期間は、下記のとおりである。

北海道大学総合博物館	2007年7月1日(日)～9月17日(月)
国立科学博物館	2007年10月6日(土)～12月2日(日)
北九州市いのちのたび博物館	2007年12月22日(土)～2008年2月22日(月)
滋賀県立琵琶湖博物館	2008年4月29日(祝・火)～8月31日(日)
兵庫県立人と自然の博物館	2008年9月20日(土)～11月30日(日)
フランス国立自然史博物館	2009年度以後

③展示内容

A プロローグ

昆虫記をめぐる景色
メガネサナエ大型模型

B 「昆虫記」の世界

タマオシコガネ
オオクジャクガ
カリバチ
昆虫記を彩る虫たち

C ファーブルの時代と日本

ファーブルの生涯
フランス展示品
ファーブルと南仏アルマス(映像)
昆虫記の日本への紹介
日本と昆虫
日本でのファーブル著書
日本のファーブル・名和靖
日本のアマチュアリズム

D 100年後の昆虫記

害虫との戦い
役に立つ昆虫
日本のファーブルたち
林冠プロジェクトの実際
蜂の繁栄の秘密
花と昆虫の関係

E 参加型展示

滋賀県の昆虫研究グループ
個人参加型展示
昆虫折り紙
昆虫スケッチ
昆虫になってみよう
仮面ライダーと昆虫
世界の昆虫

F エピローグ

昆虫観察のテーマ
ファーブルへのメッセージ
昆虫に関する質問と回答



入口風景



ファーブルに関する展示資料



花と昆虫の関係



個人参加型展示



昆虫観察のテーマ

2) 企画展示関連シンポジウム

日仏友好百五十年記念国際シンポジウム『ジャン・アンリ=ファーブル』

① シンポジウムの目的

フランスの昆虫学者ジャン・アンリ=ファーブル (Jean・Henri=Fabre; 1823-1915) の『昆虫記 (Souvenirs entomologiques)』の出版は1879年に始まり、最後の第10巻が刊行 (1907年) されてから 100年がたったことを記念し、また、2008年は、日仏修好通商条約締結150年の記念の年でもあり、日仏両国の科学的文化交流を振り返り、今後の相互理解と友好をさらに深めるシンポジウムである。

「自然離れ」、「理科離れ」が社会問題化している我が国にあって、ファーブルの業績を今一度振り返るとともに、『昆虫記』後の100年間になされた昆虫学並びにその関連分野の研究の進展と現状を概観することは、この分野に専門的な関心のある人々は言うに及ばず、博物館の使命の一つである一般の人々に対する自然科学の啓発と普及の面でも大いに貢献することが期待できる。

② シンポジウムの内容

滋賀会場第 1日 開催日 2008年7月20日(日) 10:00-17:00

会場 琵琶湖博物館ホール

参加者 200名

司会 原田英司 (京都大学名誉教授)・用田政晴 (琵琶湖博物館)

挨拶 GALEY, Bertrand Pierre (フランス国立自然史博物館総館長; 日仏合同展実行委フランス側代表)

挨拶 ARMAN, Jean-Louis (フランス大使館科学技術部科学技術参事官)

挨拶 嘉田由紀子 (滋賀県知事)

■ファーブルからアリ類の化学生態学へ 山岡亮平 (京都工芸繊維大学大学院)

■昆虫における「捕食寄生」 RASPLUS, Jean-Yves (フランス国立農業研究所)

■植物と送粉昆虫の共進化 加藤 真 (京都大学大学院人間・環境学研究科)

◆ヨシ笛コンサート (日本ヨシ笛協会)

■熱帯の樹冠帯における昆虫と植物 ーボルネオのフタバガキ林から 酒井章子 (国立人間文化研究機構総合地球環境学研究所)

■植物とむしと時間: 共進化の観点から OUVARD, David (フランス国立自然史博物館)

■琵琶湖の昆虫誌 西野麻知子 (琵琶湖環境科学研究センター)

■写真家として見たファーブル 今森光彦 (写真家)

■ジャン=アンリ=ファーブルとヨーロッパ・日本における自然の哲学 DROUIN, Jean-Marc (フランス国立自然史博物館)

■幕末から明治初期の日仏科学交流 西川輝昭 (名古屋大学博物館)

■昆虫をめぐる日本の文化: 人の内外、細部の「むし」をめぐること 遠藤 彰 (立命館大学)

滋賀会場第 2日 開催日 2008年7月21日(月・祝) 9:45-12:30

(午前の部) 会場 琵琶湖博物館ホール

参加者 130名

■むしと本能とファーブル 日高敏隆 (元滋賀県立大学学長・京都大学名誉教授)

■理科の好きな子どもたちを育てる科学教育 QUERE, Yves (フランスアカデミー会員)

■「市民科学」に対する博物館の役割: チョウの観察を例として JULLIARD, Romain (フランス国立自然史博物館)

■アマチュア県民による琵琶湖周辺の昆虫 (トンボ) の調査 澤田弘行 (トンボ研究会会員)

■学校教育における昆虫学習の実際 中野正俊 (琵琶湖博物館)

挨拶 NECHAD, Myriam (フランス国立自然史博物館)

挨拶 川那部浩哉（琵琶湖博物館館長・日仏合同展実行委日本側代表）

滋賀会場第 2日 開催日 2008年7月21日(月・祝) 13:30-16:30
(午後の部) 会場 琵琶湖博物館セミナー室・屋外展示
参加者 60名

●国際交流会（野外実験観察会）

東京会場 開催日 2008年7月26日(土) 10:00-17:00
会場 東京大学安田講堂
参加者 160名

司会：篠原 徹（人間文化研究機構）・林 良博（東京大学総合研究博物館）

挨拶：GALEY, Bertrand Pierre（フランス国立自然史博物館総館長；日仏合同展実行委フランス側代表）

挨拶：ARMAN, Jean-Louis（フランス大使館科学技術部科学技術参事官）

■狩りバチのたどったみち 郷右近勝夫（東北学院大学工学部）

■昆虫から見た自然保護と生態系管理 RASPLUS, Jean-Yves（フランス国立農業研究所）

■昆虫をめぐる日本の文化：小西正泰（生物文化史家）

■「市民科学」に対する博物館の役割 チョウの観察を例として JULLIARD, Romain（フランス国立自然史博物館）

■昆虫少年による『昆虫記』の新訳：奥本大三郎（埼玉大学教養学部）

■フランスの科学と文化におけるフェアブルの位置 DROUIN, Jean-Marc（フランス国立自然史博物館）

■日仏科学交流の夜明け：三宅コレクションを中心 西野嘉章（東京大学総合研究博物館）

■理科の好きな子どもたちを育てる科学教育 QUERE, Yves（フランスアカデミー会員）

挨拶：川那部浩哉（琵琶湖博物館館長・日仏合同展実行委日本側代表）

挨拶：NECHAD, Myriam（フランス国立自然史博物館国際部長）

3) 企画展示関連イベント

◆オープニング・セレモニー

日時：2008年4月29日(祝・火)

場所：琵琶湖博物館アトリウム・企画展示室前

挨拶：滋賀県知事 嘉田 由紀子 氏

フランス大使館科学技術部科学技術参事官 ARMAN, Jean-Louis 氏

琵琶湖博物館館長 川那部 浩哉

◆ヨシ笛コンサート「親しみのある名曲とフェアブルの曲をヨシ笛で」

日時：5月4日(日)、8月2日(土)

場所：琵琶湖博物館ホール

演奏：日本よし笛協会

参加者：180人、270人

◆人形劇「不思議な庭～不思議な庭で出会った少年とフェアブル～」

日時：5月11日(HI)、6月15日(日)、7月13日(日) 各日とも11:00、13:00、15:00

場所：琵琶湖博物館会議室

上演：人形劇団「おまけのおまけ」

参加者：280名、325名、280名

◆紙芝居「ボンジュール フェアブル先生」

日時：5月25日(日)、6月29日(日) 各日とも、13:00、15:00

場所：琵琶湖博物館会議室

上演：紙芝居ユニット「ランデブー・カセット(Rendez-vous K7)」

参加者：180人、230人

◆野外観察会「希望が丘自然観察会（植物）」

日時：5月17日（土）

場所：希望が丘文化公園

共催：希望が丘文化公園

参加人数：26人

◆野外観察会「川虫観察」

日時：5月17日（土）

場所：大津市

参加人数：32人

◆野外観察会「ホタルを観察しよう」

日時：6月8日（土）

場所：大津市千丈川

共催：荒井紀子（ホタルの学校）

参加人数：25人

◆野外観察会「希望が丘自然観察会（昆虫）」

日時：7月5日（日）

場所：希望が丘文化公園

共催：希望が丘文化公園

参加人数：30人

◆野外観察会「からすま半島でトンボを観察」

日時：6月28日（土）

場所：烏丸半島

共催：澤田弘行（トンボ研究会）

参加人数：29人

◆ワークショップ「ゆめみる昆虫 ～むしたちのファッションショー～」

日時：6月22日（日）

場所：琵琶湖博物館セミナー室

実施：はしかけグループ「びわたん」、滋賀県立近代美術館学芸員 平田健生

参加者：25人

◆夏休み自由研究講座

日時：7月27日（日）

場所：実習室（昆虫コース）、セミナー室（地学・化石コース）、生活実験工房（植物コース）

参加者：77人

4) 参加型個人発表展示

フェアブルに学んで、個人でもできる観察の例を募集し、カラーボックスに展示した。展示したテーマは以下の30であった。

近江の子守歌	日吉大社での昆虫採集	ペルーの昆虫
カマキリの卵	ヨシの植栽と川	フェアブルを読んで
昆虫の絵本と切手など	カブトムシの幼虫	草木染め

織りと素材の植物	昆虫の観察 1	昆虫の観察 2
お茶碗 1 杯にお米は何粒	ヨシのチマキ	ヨシで染めたスカーフ
いろいろなよし笛	蜂の巣ができる場所は決まっている	春は落葉の季節
つくしがいっぱい	自然の中のいろいろ	蟬の抜け殻
ママの公園観察	博物館内の害虫	舌癌初期の経過
ハーブとアロマ	フェアブル弁当	琵琶湖博物館で見られる昆虫 (ゴカイ、ムカデ)

<滋賀県の昆虫研究会>

昆虫にかかわるグループから、自分たちの観察、研究の結果を展示していただいた。

- ・トンボ研究会
- ・滋賀オサムシ研究会
- ・フィールドレポーター
- ・ホタルの学校
- ・滋賀むしの会
- ・草津でホタルを楽しむ会

5) その他

受付アルバイト：5人でローテーション、毎日2人受け付けおよび展示室内巡回

折り紙：6月より土日を中心に展示室で指導対応、夏休みは日数を増やして対応

スタンプラリー：展示室内に6か所のスタンプを設置

スタンプ用紙：20000枚をカラー印刷、8月19日になくなり、内部で追加印刷(合計2700枚)

メッセージ用パンチ：4個常在させたが約3ヶ月でそれぞれが故障、新品と入れ替える

折り紙：約15,000枚を使用

仮面ライダーとバルタン星人展示：昆虫をモチーフとした仮面ライダーとバルタン星人の人形やお面などを一般募集した。仮面ライダーは4人、バルタン星人は1人からの展示提供があり、展示コーナーは好評であった

質問に対する回答：75件を掲示板に貼りだし

アンケート枚数：およそ700枚

(3) 水族企画展示

1) 第21回「ぼくらのフェアブル昆虫記」

①概要

期 間：2008年7月19日(土)～8月31日(日)

場 所：琵琶湖博物館 水族企画展示室

観覧者数：計69,765人(電子カウンターによる)

主 催：滋賀県立琵琶湖博物館

担 当 者：秋山 廣光

②内容・特徴

この展示では、本館企画展示「フェアブルにまなぶ」と関連を持ちながら、水族企画展示室の特性を生かした展示を行った。展示のおよそ半分は、フェアブルが観察対象としなかったヤゴやゲンゴロウ、タガメなどの水生昆虫を生体展示し、残りの部分は館内で異なる業務を行いながらも昆虫に関連のある仕事を持つ職員ある

いは関係者による展示とした。それらは「食用昆虫」「虫偏の生き物」「鳴く虫」「蛍を愛でる」「昆虫の標本製作」「きのあなほりむし」「ゴキブリと文化財害虫」といった特色あるテーマの展示となった。また、はしかけの協力による「虫偏の生き物と昆虫写真」の展示や、来館者による書き込み「虫への想い」のパネル展示などを行った。

③展示内容

○生物

中央水槽 = オニヤンマ幼虫、コオニヤンマなどサナエトンボ類幼虫、カワトンボ類幼虫、イトトンボ類幼虫、など

壁面水槽 = ガムシ、シマゲンゴロウ、ゲンゴロウ、タガメ、コオイムシ、ミズカマキリ、タイコウチ、トビズムカデ、スジエビ、ミミズ(ハッタミミズ)、シバズ、マダラスズ、キリギリス、ケラ、ゲンジボタル幼虫、カワムツ、ホシベニカミキリ、キボシカミキリ、ゴマダラカミキリ、カミキリムシ幼虫

○標本

壁面水槽 = 食用昆虫類 (カンボジア産：ガムシ唐揚げ、ツチグモ唐揚げ、コオロギ唐揚げ
タイ産：ケラ煮付け、食材用タガメ、コガネムシ煮付け、タケヅトムシ
日本産：ザザムシ佃煮、蜂の子瓶入り、カイコ幼虫唐揚げ)
カイガラムシを利用した製品 (LP レコード、ワックス、胃腸薬、チョコレート、帽子など)
セラック、コチニール色素など
標本の作り方 (スズメバチ、キボシカミキリほか)
文化財害虫 (ヤマトゴキブリ、チャタテムシ、タバコシバンムシ)

○パネル

文化財害虫解説

入館者による「ムシの思い出」

虫偏の生き物写真

○ショーケース

バッタキリギリス図鑑紹介

同人誌「ばったりぎす」紹介

虫の声研究家「松浦一郎」紹介

世界の虫グッズコレクション紹介

④協力を戴いた団体個人： (敬称省略)

<館外> ○(株)岐阜セラック製造所 尾木 大

○日本直翅類研究会「ばったりぎす」 河合直人

○環境音響研究所 松浦 肇

○「蛍の学校」 荒井紀子

○東京都文化財研究所 山野勝次

○ぼてじゃこトラスト 武田 繁ほか

○はしかけ「温故写新」 久保明夫ほか

<館内> ○水族飼育委託員：中央水槽・ゲンゴロウ水槽・ガムシ水槽・タガメ水槽・ミズカマキリ水槽・
ホテル水槽の維持管理

○高橋和征：昆虫標本の作り方

○西村知記：木の穴ほり虫コーナー

○太田佳恵：ゴキブリ・文化財害虫コーナー



入口正面のアクアテラリウム展示



テーマごとに展開した壁面水槽

(4) ギャラリー展示

1) うるわしき琵琶湖よ永遠に～父子の見た湖国～

①概要

期 間：2008年9月20日(土)～11月16日(日)
 場 所：琵琶湖博物館企画展示室
 観覧者数：3,663人以上(初日、日曜祭日のみのカウント)
 主 催：滋賀県立琵琶湖博物館
 担 当 者：主担当者 秋山 廣光 副担当者 揚 平

② 内容・特徴

この展示は、昭和から平成にかけ彦根を中心に活躍したアマチュア写真家で彦根写真連盟、滋賀県写真連盟の会長を務めた大橋宇三郎氏が撮り貯めた、琵琶湖とその周辺の様々な人の営みや風景の写真に対して、平成の時代の変貌をご子息の洋氏が撮影した親子二代の写真による記録比較展。大橋宇三郎氏の写真群は、まだ整理途中で、少しでも多くの情報提供を期待して展覧会を計画した。この展覧会では、情報の収集ばかりでなく展示を通して人と人の交流がどのように行われるか実験の意味合いも込めて参加型展示とした。写真パネルの周囲に入館者がそれぞれの思いを紙に書いて貼り付けるという初めての試みであった。とても老人受けする展示であり、特に彦根出身の人たちの会話が弾んでいた。写真回想の素材として注目できるものといえる。また、写真の内容により、子供達の意外な反応もあり、老人と子供をつなぐ会話のきっかけ作りにも有効であることが伺われた。C展示室「富江家」同様の交流活動が期待できるものといえる。

また、11月20日から12月7日までイオンモールにおいて新旧写真60セット余りを展示した。



ニュースキャスターと大橋 洋氏
BBC取材 9月28日



遊びをテーマとした「昭和の子どもたち」
多くのメッセージが貼られた



昔と今を比較するパネルに多くの
お年寄りが見入っていた

2) 細密画で見る琵琶湖の水鳥たち—鳥の羽根に想いをこめて—

①概要

開催期間：2008年12月13日(土)～2009年2月15日(日) 48日間
 開催場所：琵琶湖博物館 企画展示室
 観 覧 料：無料
 観覧者数：7,782人(1日平均162人, 最高532人)

主 催：滋賀県立琵琶湖博物館

館外協力者：今森洋輔 氏

担 当 者：桑原雅之

②特徴

琵琶湖には、毎年冬期に多くの水鳥が飛来し、その数は、約 140 種、おおよそ 10 万羽に達し、国内でも有数の飛来地になっている。そのため、琵琶湖は平成 5 年(1993 年)6 月 10 日に、日本国内では 9 番目のラムサール条約湿地に登録された。

そこで、本ギャラリー展示では、琵琶湖の水鳥の細密画を見ていただくことにより、どのような水鳥が琵琶湖に飛来しているのかを来館者に知っていただくことを目的とした。今回展示した細密画の作者は今森洋輔氏である。今森氏は、生物を描いた細密画の作者として定評があり、数々の作品を発表されている。

併せて、関連イベントとして、烏丸半島における水鳥の観察会や、今森氏による絵画教室などを行うことによって、琵琶湖に多数飛来する水鳥を身近に感じていただくことを期待した。

③展示内容

- ・今森洋輔氏による琵琶湖の水鳥の原画(デッサンを含む)約 90 点
- ・今森氏の紹介および、絵画を志す人向けに今森氏のこれまでの業績約 20 点と原画のできるまでのパネルをあわせて展示した

④関連イベント

- ・烏丸半島の水鳥を観察してみよう
開催日：2008 年 12 月 21 日(日)
開催時間：9 時 30 分から 15 時
開催場所：烏丸半島とその周辺、セミナー室
- ・今森洋輔絵画教室「水鳥の羽根を描いてみよう」
開催日：2009 年 1 月 11 日、18 日
開催時間：13 時 30 分から 15 時 30 分
開催場所：実習室
対象：小学 3 年生から小学 6 年生 各日 12 人
- ・今森洋輔絵画教室「水鳥の羽根を描いてみよう」参加者作品展
開催日：2009 年 1 月 20 日～2 月 15 日
開催場所：集う・使う・創る 新空間
- ・ディスカバリーイベント「水鳥の絵を描いてみよう」
開催日：ギャラリー展示開催期間中随時
対象：小学 2 年生以下

*今森洋輔絵画教室「水鳥の羽根を描いてみよう」には、延べ 24 人の子どもたちとその家族に参加していただき、今森さんから丁寧な指導をいただいた。ここで描かれた作品については、全て参加者作品展において展示した。作品展を開催するに当たって、今森さんの発案により今森洋輔賞と琵琶湖博物館賞を設定し、今森さんによって各 3 点ずつを選定していただき、2 月 11 日(水)に集う・使う・創る 新空間において表彰式を行った。



ギャラリー展入口



原画ができるまで

(5) トピックス展示

1) アトリウム

トピック展示「うし ～ウシいっぱい モーいっぱい!?!～」

期間：2009年1月3日(土)～2月15日(日)

*魚類展示のみ2009年1月3日(土)～1月25日(日)

場所：琵琶湖博物館アトリウム(ディスカバリー・ルーム前)およびB展示室、
水族展示室(ふれあい体験室付近)

料金：アトリウムの展示は無料(ただし、B展示室、水族展示室については常設展示観覧料が必要)

展示責任者：松田征也

展示担当者：石田未基・太田佳恵・亀田佳代子・柴山弘史・高橋和征・高橋啓一
中井克樹・中藤容子・橋本道範・榊永一宏・八尋克郎

内容：2009年の干支「うし」にちなんだ展示。ウシ科の化石をはじめ、牛にまつわる古文書や民具、名前にウシのつく植物・魚類など、当館が所蔵している資料や標本を紹介した。

2) B展示室

「むしとこもんじょー資料保存と防虫対策ー」

期間：2008年5月13日(火)～8月31日(日)

担当者：太田佳恵・橋本道範

内容・特徴：企画展示「フェアブルにまなぶ」の関連企画として、防虫対策に焦点をあてて琵琶湖博物館の資料保存環境整備活動を紹介した。

3) 水族展示

①トピック展示

水族展示室内のふれあい体験室前に設置した小型展示水槽をつかって、生まれたばかりの稚魚や話題性のある魚など、常設展示では観察することの難しい水生生物を展示した。内容と期間は以下のとおりであった。

- ・「イサザ」(桑原2008年4月15日(火)～5月6日(火))
- ・「ムサシトミヨの稚魚」(松田2008年5月7日(水)～5月25日(日))
- ・「田んぼの生き物(エビ)」(楠岡2008年5月27日(火)～6月8日(日))
- ・「カゼトゲタナゴの稚魚」(松田2008年6月10日(火)～6月29日(日))
- ・「ホンモロコの稚魚」(松田2008年7月1日(火)～7月27日(日))
- ・「ズナガニゴイの稚魚」(松田2008年7月29日(火)～9月7日(日))
- ・「コウライギギの稚魚」(松田2008年9月13日(土)～10月13日(月))
- ・「産卵期を迎えたカネヒラ」(松田2008年10月15日(水)～11月3日(日))
- ・「産卵期を迎えたゼニタナゴ」(松田2008年11月5日(水)から11月30日(日))
- ・「ビワマスの卵」(桑原2008年12月2日(火)～12月24日(水))
- ・「ウシモツゴ『ウシいっぱい モーいっぱい!?!』」(松田2009年1月3日(土)～1月25日(日))
- ・「ビワマスの稚魚」(桑原2009年1月27日(火)～3月22日(日))
- ・「ハツタミズ」(松田2009年3月24日(火)～4月12日(日))

②季節替え展示「旬のさかなたち」

ふれあい体験室が閉鎖されていた期間の後期に、ふれあい体験室前を使って季節を代表する旬のさかなたちの紹介を行った。

- ・「アメノウオ」(桑原2008年11月18日(火)～12月14日(日))
- ・「ヒウオ」(磯田2008年12月16日(火)～2009年2月1日(日))
- ・「ギンブナ」(楊2009年2月3日(火)～3月31日(火))

(6) 集う・使う・創る 新空間

2008年度は11件の利用があった。

期 間	タイトル	主催者
3月28日～4月13日	生きる葦	糸乗政治
4月15日～5月18日	はしかけ「温故写新」紹介展	はしかけ「温故写新」
5月29日～6月29日	ILEC世界湖沼環境デー関連パネル展示	(財)国際湖沼環境委員会 (ILEC)
7月18日～7月28日	最近変な水草見ませんか？～特定外来生物に指定された水草3種の駆除報告～	近江ウエットランド研究会
7月30日～8月31日	魚拓でみる琵琶湖と日本の淡水魚	松永正津
10月2日～10月30日	自然の心を人の心へ	NPO法人「地域と自然」
11月3日～11月14日	里山デジカメ選手権	近畿中国森林管理局 箕面森林資源保全ふれあいセンター
11月15日～11月30日	学校エコ活動巡回展	滋賀県環境学習支援センター
1月20日～2月15日	今森洋輔絵画教室作品展	琵琶湖博物館展示グループ
2月19日～3月16日	烏丸半島に集う！！弥生時代の人・物・情報	(財)滋賀県文化財保護協会
3月17日～3月31日	たんぼのご壁新聞コンクール作品展示	滋賀県農政水産部農政課

(7) ディスカバリールームのイベント

・おちゃめなカボチャ

2008年11月1日～11月30日の土・日・祝(計12日) 参加者延べ 336名

・水鳥の絵を描いてみよう～水鳥って色トリドリ！

2008年12月13日～2009年2月15日の土・日・祝(計21日) 参加者延べ 743名

展示交流事業

(1) 展示交流員と話そう

展示交流員は、琵琶湖博物館の案内だけではなく、展示を通して来館者と交流し、来館者に身近な自然や生活へ目を向けていただく「かけはし」となっている。展示交流員は、普段から展示室での交流を行っているが、さらなる交流業務の充実をはかるため、昨年度に引き続き、「展示交流員と話そう」を実施した。

本事業を実施するに際しては、展示交流員が各自でテーマを設定し、担当学芸員のアドバイスを受けながら、知識の習得、交流方法の検討、資料作成等の準備を行った。

本事業は、普段の交流から「きっかけ」をつかみ、できるだけ自然なスタイルで臨めるよう努力した。展示交流員は各自のテーマに沿って、展示だけの交流ではなく、資料に触ってもらう・自作の資料を見せてもらう等、来館者の興味を引き出す工夫も行った。

本事業の詳細は以下のとおりである。

1. 実施期間：2008年12月1日(月)～2009年2月28日(土)
(期間内で各自のシフトにより実施)
2. 実施人数：展示交流員 20名
3. 実施回数：「通常業務の延長線上に各々のテーマがある」という主旨のもとに今回は実施した為、回数・人数等は確認していない。

「展示交流員と話そう」の内容

展示室	名 前	実施テーマ	実施場所
A	池畑慎吾	顕微鏡を覗いてみよう	自然史研究室
	初田幸穂	ゾウのいる森へ ONE DAY TRIP	ゾウのいる森
	前川桂子	ミエゾウとコウガゾウ	コレクションギャラリー
	杉本和子	メタセコイア	植物化石の研究
	斉藤文子	化石と話そう	コレクションギャラリー
C	井出範子	疎水を歩こう	治水・利水への取り組み
	奥村恵子	沖島の暮らし	沖島の伝統食
	今泉美保	チャレンジしてみよう！オピニオン展示	オピニオンコーナー
	愛須美由起	おいしい水を作るのはだあれ？	水をはぐくむ森林
	本田幸子	目見不（ミミズ）	水をはぐくむ森林
	木下睦司	富江家にみる伝統民家	富江家
水族	岩見 勉	農村の暮らし	富江家
	森 智美	オオサンショウウオ	川に上流の生き物
	田中 綾	ヨシ原と魚たち	内湖・ヨシ原の魚たち
	林 克子	水辺の鳥	水辺の鳥
	中江美知子	カイツブリ	水辺の鳥
	弓削宣子	カイツブリとユリカモメ	水辺の鳥
ディスカバリー ルーム	齊藤滋子	オオサンショウウオ	川の上流の生き物
	北田昌子	オサムシ（マイマイカブリ）のフィギュアをつくろう	くらしとむすびついた自然

4 体験と交流を促す博物館

一般利用者へのサービス事業

(1) 観察会・見学会等

2008年度は、博物館内や県内とその周辺で行う博物館観察会等19件の事業を企画した。当該年度も他団体との協働・連携事業を多くすることをめざした。観察会・見学会に限ってながめると、協働できた事業は16件(84%)と昨年(17件うち13:76%)よりやや割合が増加した。

観察会・見学会に対する参加者の評判はおおむねよかった。各事業のタイトル、開催日、定員、参加者数等を下表に示した。

観察会・見学会等の実施結果一覧表

	開催日		曜日	事業名	定員 (人数)	参加者 (人数)	共催関係
	月	日					
1	5	4	日	※よし笛コンサート 親しみのある名曲とフェアブルの作曲をヨシ笛で	当日受付	200	日本よし笛協会
	8	2	土			270	
2	5	11	日	※人形劇「ふしぎな庭」 ふしぎな庭で出会った少年とフェアブル	当日受付	280	人形劇団「おまけのおまけ」
	6	15				325	
	7	13				280	
3	5	17	土	※希望が丘自然観察会(植物)	30	26	(財)滋賀県文化振興事業団 〈滋賀県希望が丘文化公園〉
4	5	18	日	※川虫探検	30	32	
5	5	25	日	※紙芝居「ボンジュール・フェアブル先生」	当日受付	204	ランデブーカセット
	6	29				185	
6	6	8	土	※ホテルを観察しよう	30	25	荒井紀子(ホテルの学校)
7	6	21	土	不耕起栽培の水田で、生き物を観察しよう	30	18	朽木いきものふれあいの里
8	9	23	日	※博物館にアート博士がやってくる! 「ゆめみる昆虫」ーむしたちのファッションショーー	15	16	はしかけ「びわたん」 平田健生(県立近代美術館)
9	6	28	土	※からすま半島でトンボを観察	30	29	澤田弘行(トンボ研究会)
10	7	5	日	※希望が丘自然観察会(昆虫)	30	30	(財)滋賀県文化振興事業団 〈滋賀県希望が丘文化公園〉
11	7	20	日	※【企画展示関連】日仏友好150年フェアブル100年記念シンポジウム(国際シンポジウム)、交流会議・野外観察会(子ども向け)	シンポ 200	シンポ:150名	
	7	21	月		交流会・ 観察会 20	シンポ:120名 交流会・観察会:60名	
12	7	26	土	漁船に乗ってビワマス漁をみてみよう	30	18	朝日漁業協同組合
13	9	21	日	アユ産卵用の人工河川を知っていますか?	20	7	(財)水産振興協会・水産課
14	9	21	日	古い民家のおけ風呂を見にいこう	15	8	
15	10	4	土	地層の見方講座ー野洲川を例にしてー	20	8	みなくち子どもの森自然館
16	10	19	日	化石の観察会	30	31	岡村喜明
17	10	26	日	ビワマスの採卵現場を見学してみませんか	30	18	百瀬漁協, 滋賀県漁連高島事業場
18	10	8	土	マキノの里山を歩こう	30	18	カワセミ自然の会
19	10	21	日	からすま半島の水鳥を観察してみよう	30	58	日本野鳥の会滋賀支部・ はしかけ「びわたん」

※2008年度企画展「フェアブルにまなぶ」の関連事業



漁船に乗ってピワマス漁をみてみよう



下物の水鳥を観察してみよう

(2) 講座

講座は、①当該年度の企画展示に関連した講座（企画展示関連講座）、②研究部が主体となって実施する講座（研究部の講座）、③学芸員が専門テーマについて解説する講座（入門・専門講座）、④ 教員や地域の指導者等を対象とした講座（指導者向け講座）、⑤子どもたちを対象に行う夏休み自由研究講座の5つに区分できる。

2008 年度には、特に①の企画展示関連イベントの一つとしてヨシ笛コンサート、人形劇、紙芝居が行われ、参加者に好評を博した（観察会・見学会の項参照）。2008 度に開催した講座の実績を以下に記した。

1) 入門・専門講座

2008 年度は、以下に示した 3 件の事業を実施した。個々の講座の内容を以下に記す。

回	内 容	開催日	曜日	募集数(名)	参加者(名)	講 師
1	回転実験室で水槽実験を！	8月5日	火	15	18	戸田 孝
2	アート魚拓講座	8月10日	日	18	13	松永正津
3	新琵琶湖学入門セミナー 「湖と人間」	12月6日 ～3月7日	土	各回 70	のべ 770	

○回転実験室で水槽実験を！

本館C展示室の回転実験室で、準備に時間を要するため日常の展示室運営では実施できない、水槽を使った実験を行った。具体的には、水槽中央の排水口にできる渦が必ず実験室の回転の向きになることを確かめる実験と、水槽に牛乳などを垂らすとカーテン状になる実験（テラー柱の実験）を行った。

○アート魚拓講座

新空間の展示「魚拓でみる琵琶湖と日本の淡水魚」に関連したイベントとして開催された。魚拓製作45年の技で作成された絵画では表現できない精密なアート魚拓の世界を楽しんだ。

○ 新琵琶湖学入門セミナー「湖と人間」

詳細は研究調査活動(7)新琵琶湖学入門セミナー (p. 23) 参照

2) 指導者向け講座（担当：中野正俊・飯住達也）

2008 年度は、本講座を昨年以上に充実させる形で、以下6件の講座を企画した。いずれの講座も参加者にはたいへん好評であった。

○植物図鑑の読み方講座

サンプルの植物と図鑑を使って、植物図鑑の使い方を解説した。また、子どもたちとできる採集の方法や標本づくりについての話しをした。

開催日	タイトル	定員(名)	参加者(名)	担当者	共催・後援
8月19日(火)	植物図鑑の読み方講座	10	12	布谷・中野	滋賀県総合教育センター

○生き物飼いや講座

本年度は、琵琶湖博物館で幼稚園・保育園、小学校の教師を主な対象に、魚、ザリガニ、水生昆虫などについて、それぞれの生き物の特徴や飼いや、増やし方について、実物と資料を提示しながら学芸員が解説した。実物に触れられることがたいへん好評であった。

開催日	内容	定員(名)	参加者(名)	担当者	共催・後援
8月6日(水)	外来生物、ザリガニの飼いや、水生昆虫の飼いや	30	19	中井・前畑 榊永・中野	滋賀県教育委員会・ 総合教育センター

○指導者のための博物館活用講座

琵琶湖博物館は「湖と人間」をテーマとした、環境学習や体験学習の絶好の場である。学校の先生や地域活動のリーダーなど、子どもたちをつれて博物館に来られる方々を対象に、団体向けの体験学習を、まず指導者にしてもらい、博物館のよりよい活用の方法を提案し、子どもたちとともに学びたいポイントを博物館教員が紹介した。

開催日	内容	定員(名)	参加者	担当者	共催・後援
10月7日(火)	湖沼学の基礎	各10	のべ 39名	芳賀・小川 野間・中藤 西村・秋山 中野・飯住	滋賀県総合教育センター 滋賀県教育委員会
10月9日(木)	昔の農家のくらし ー脱穀等の体験ー				
11月18日(火)	地域の財産に気づく				
11月20日(木)	外来魚の調理				



博物館活用講座の様相

3) 夏休み自由研究講座 (担当：上田康之・八尋克郎)

子どもたちを対象に、夏休みに入って間もない7月下旬に自由研究のテーマの決め方や研究の進め方、標本の作り方などについて指導する「夏休み自由研究講座」を開催した。本年度は初回から数えて7回目となった。本講座の日程、参加者数、講師等は下表のとおり、地学・化石コース、昆虫コースで定員を上回る多数の応募あった。

開催日	コース名	定員(名)	参加者(名)	会場	講師
7月27日(日) 10:00~15:00	昆虫	各30	32	実習室Ⅰ	八尋、榊永、(武田)、(南)、
	植物		15	生活実験工房	布谷
	地学・化石		30	実習室Ⅱ	高橋・里口・(北田)

※ () 内は外部講師



植物コース



地学・化石コース

(3) 体験教室

2008 年度も、昨年同様に里山体験教室を開催した。

○里山体験教室（担当：西村知記・小川雅広）

「里山」という言葉は知っているが、行ったこと触れたことがない。子どものころに行ったっきり久しく行ったことがない。このような里山初心者の方々に、里山へ訪れるきっかけを提供するために、里山体験教室を実施している。季節の連続性、時間の流れを感じるために、春夏秋冬の四季を通じて年 4 回実施し、人里の外側に広がる田畑、草はら、林といった里山の空間的広がりを感じてもらうために、借地している林 1 箇所に留まらず、各回周辺を歩いて、里山の魅力を探している。

春は、「いのち」の萌え出ずる季節を感じながら、個々にあるいは家族などのグループごとに「素敵なもの探し」をして歩いた。また里山の会による山菜の「いのち」の差し入れに舌鼓を打った。

夏は、「フェアブルにまなぶ」展とのコラボ企画で、フェアブルが使ったものと同じタイプのトラップを仕掛けて、虫採りを行った。集合場所のお寺の水路では、タモ網を使い、ヤゴなどの水生昆虫も採取した。

秋は、いのちの終焉を飾る「実り」に着目して、参加者単位ごとに、里山の実や種を集め、ビンゴ形式でその数を競った。また秋には里山を維持していく上で欠かせない「手入れ」の作業も実施した。灌木をノコギリで間引くだけでなく、小さな子どもたちも落ち葉かきをして、林床に陽光を取り入れ、新しいいのちの季節の到来を願った。

冬は、里山の会が企画する「たき火」のプログラムを実施した。安全なたき火の仕方やその火を利用したお花炭（鑑賞炭）、料理をつくってゆったりとした時間の流れを感じた。

回	開催日	内容	参加人数	担当者
1	4 月 20 日	春の里山歩き	26	西村、楠岡
2	7 月 26 日	夏のフェアブル式虫さがし	28	西村、小川、楠岡
3	10 月 19 日	秋の実りビンゴ	29	西村、小川、楠岡
4	1 月 18 日	冬の里山とたき火	28	西村、小川、楠岡



トトロの葉っぱ☆



このトラップに虫入る？



冬のたき火

学校連携事業および体験学習

(1) 教職員等研修（担当：中野正俊、飯住達也）

中長期目標である指導者向け講座年間受講者数1,000人の突破をめざして2008年度をスタートした。結果として、1,096名の受講があった。この中には、博物館内で行った講座、湖北町や甲賀市への出前講座、県総合教育センターなどと連携した講座、科学教育振興機構からの支援金を受けた研修講座など多岐にわたった。「一人の教師の向こうに40人の子どもたちがいる。」を合い言葉に、中長期目標を達成することができた。こうした多様な講座を開講できたのは、ひとえに学芸職員全員の共通理解の賜である。特に、平成20年12月26日に国立科学博物館で行われた「教員のための博物館」研究大会では、国内の博物館で年間1,000名を超える教員研修を実施したのは、滋賀県立琵琶湖博物館が初めてであろう（岩崎誠司学芸員：博物館学教育普及担当）という評価を得ることができた。しかし、ただ受講人数だけを増やせばよいというわけではなく、あくまで学芸職員一人一人の専門性と受講者である教員や地域で活躍する環境保全リーダーの求めるものが近くなってきたことが本成果につながったものとする。その例として、幼稚園教員研修を中心として、先方からの依頼講演が多くなっていることが挙げられる。

実施日	曜日	講座名	受講者数	共催・後援
6月3日	火	草津市教育委員会新任研修	7	草津市教育委員会
6月10日	火	初任者研修	63	滋賀県総合教育センター
6月12日	木	初任者研修	58	滋賀県総合教育センター
6月17日	火	初任者研修	59	滋賀県総合教育センター
6月19日	木	初任者研修	56	滋賀県総合教育センター
6月24日	火	環境教育委員会	5	滋賀県中学校理科部会
6月27日	金	理科実習助手講座	15	滋賀県総合教育センター
7月28日	月	草津市職員研修講座	19	草津市教育委員会
7月29日	火	川をたどろう講座	20	科学教育振興機構
7月30日	水	幼稚園教員研修	72	彦根市教育委員会
7月31日	木	自然調査ゼミナール研修	7	滋賀県中学校理科部会
8月4日	月	甲賀の足跡化石研修講座（甲賀市）	19	科学教育振興機構
8月6日	水	環境教育実技講座	22	大津市教育研究所
8月7日	木	生き物飼い方講座	19	滋賀県総合教育センター
8月8日	金	綿花から綿繰り研修講座（湖北町）	25	科学教育振興機構
8月8日	金	咽頭歯標本作製研修講座（湖北町）	19	科学教育振興機構
8月12日	火	環境教育研究協議会	241	滋賀県教育委員会
8月13日	水	理科実習講座	7	茨木市教育委員会
8月14日	木	理科実習講座	7	茨木市教育委員会
8月15日	金	理科実習講座	7	茨木市教育委員会
8月19日	火	キャリア型理数教育研修	6	草津市教育委員会
8月19日	火	植物図鑑の読み方講座	12	科学教育振興機構
8月25日	月	理科実習助手講座	9	滋賀県総合教育センター
10月7日	火	指導者のために博物館活用講座①	7	滋賀県総合教育センター
10月9日	木	指導者のために博物館活用講座②	12	滋賀県総合教育センター

実施日	曜日	講座名	受講者数	共催・後援
10月23日	木	環境教育研修会	18	野洲市教育委員会
10月29日	水	近畿地区教育研究所所長連盟研修	45	滋賀県総合教育センター
11月4日	火	矢倉幼稚園研修	35	草津市教育委員会
11月18日	火	指導者のための博物館活用講座③	11	滋賀県総合教育センター
11月20日	木	指導者のための博物館活用講座④	9	滋賀県総合教育センター
11月28日	金	公開研究会（幼稚園教員研修）	80	滋賀大学附属幼稚園
2月21日	土	環境教育研修	29	大阪市教育委員会
2月24日	火	環境教育研修	10	奈良十津川村教育委員会
2月26日	木	理科支援員研修	66	滋賀県教育委員会
合計			1,096	



初任者研修の様相

(2) 視察対応（担当：中野正俊、飯住達也）

2008年度に受け入れた、学校連携・教育普及活動に関する視察は、合計6件96名であった。

月日	研 修	人数
7月26日	JTB 東日本管内教育旅行担当者研修会	26
9月4日	静岡大学	2
10月30日	ビジターズビューロー韓国視察団	12
11月15日	びわこ成蹊スポーツ大学 野外活動コース	15
2月1日	韓国環境財団	32
2月25日	台湾学校長視察団	9

(3) 学校団体向け体験学習（担当：中野正俊、飯住達也、上田康之、福森弘二、長澤京子）

博物館と学校とが連携を保ちながら活動を進めていくことができるよう、学校のカリキュラムに沿った社会見学への対応のほか、各種体験学習、フローティングスクール等の受け入れを行った。特に、体験学習として下記のような活動を実習室、セミナー室、生活実験工房等を利用して行った。

また、展示見学学習を支援する「サポートシート（22種類）」の利用を、教員研修や下見受付を通して学校へ呼びかけた。

校 種	主 な 活 動 内 容
小学校	講義（琵琶湖と環境、琵琶湖の魚、琵琶湖の生き物、博物館の展示について等）、ヨシ笛、化石のレプリカ、プランクトン採集と観察、昔の暮らし体験（石臼、脱穀、手押しポンプ）、わら細工、魚に触れる、魚の採集（釣り）と解剖、野外観察（ヨシ群落）、野外植物観察、水鳥観察、火山灰の観察、大地のつくり、質問対応

校 種	主 な 活 動 内 容
中学校	講義（琵琶湖と環境、琵琶湖の魚、琵琶湖の生き物、博物館の展示について等）、ヨシ笛、化石のレプリカ、水質検査、プランクトンの採集と観察、プランクトン模型作り、わら細工、魚の採集（釣り）と解剖、外来魚の調理、昆虫の観察、水生昆虫の観察、昆虫の調査、野外観察（ヨシ群落）、野外植物観察、貝の観察、水の汚れの測定、水鳥の観察、火山灰の観察、大地のつくり、学芸員の仕事体験、質問対応
高等学校	講義（琵琶湖と環境、琵琶湖の魚類、博物館の展示について等）、プランクトンの採集と観察、魚の採集（釣り）と解剖、水質調査、珪藻化石の観察、湖岸調査（地形、植生他）、火山灰の観察、大地のつくり、展示利用学習、課題研究、質問対応

体験学習実施数

校 種	県 内		県 外		合 計	
	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数
小学校	39	3,015	29	1,851	68	4,866
中学校	20	2,136	12	944	32	3,080
高等学校	14	365	10	1,033	24	1,398
特別支援学校	3	43	0	0	3	43
合 計	76	5,559	51	3,828	127	9,387



プランクトンの観察



昔の暮らし体験

(4) 一般団体向け体験学習（担当：中野正俊、飯住達也、上田康之、福森弘二、長澤京子）

子どもたちの自然や文化への興味関心を高めるとともに、地域連携のあり方を探るため、子ども会やスポーツ少年団、障害者団体などの一般団体に対して体験活動を行った。

実施数	内 容
団体 31 件 (1,703 名)	講義（琵琶湖と環境、琵琶湖の生き物）、ヨシ笛、外来魚調理、プランクトンの採集と観察、魚の解剖、昔の暮らし体験 等

(5) 学校サテライト博物館事業（担当：中野正俊、飯住達也）

2007 年度から始まった本事業では、次のことを目的に進められている。

- 1, 博物館機能の地域化
- 2, 学校余裕教室の有効活用
- 3, 標本、資料や展示物の再利用
- 4, 実物提示による学習の充実
- 5, 学校教員への研修機会提供

6, 地域住民への生涯学習機会提供

7, 児童や地域住民による学習発表の場の提供（琵琶湖博物館での発表を含む）

これらは、中長期目標「地域だれでも・どこでも博物館」を具現化する方向と一致している。本年度は、昨年度からつづく湖北町立朝日小学校での事業展開の継続と甲賀市立佐山小学校での事業新規開設を行った。両会場合わせて、年間4,000名を超える来場者ならびに授業における児童参加や教員研修における受講者があった。

○指導者のための足跡化石講座・・・甲賀会場

甲賀市立甲南中学校を会場として、滋賀県東部地区の教員や地域住民を対象とした講座を開催した。岡村喜明氏の指導によって、甲賀に産出する足跡化石についての紹介があった。その後、モデル化石からシリコン樹脂枠の作製実習を行った。

○指導者のための昔の暮らし研修講座・・・湖北会場

湖北町役場大会議室を会場として、滋賀県北部地区の教員や地域住民を対象とした講座を開催した。琵琶湖博物館内富江家展示と湖北町文化とのつながりを解説し、その後、近江はたおり探検隊の活動の紹介、ならびに綿からの糸紡ぎの体験研修を実施した。

○指導者のためのコイ・フナの生態研修講座・・・湖北会場

湖北町立湖北中学校を会場として、滋賀県北部地区の教員や地域住民を対象とした講座を開催した。コイ・フナの生態を学芸員が解説し、続いて、北村美香氏、肥山陽子氏の指導によって、咽頭歯の標本づくりに取り組んでもらった。



児童による展示見学の様子（佐山小学校）



「ファーブルにまなぶ」展の出前展示（朝日小学校）



学校教員向けの研修会（甲賀市内）



滋賀県教育委員会による本事業への表彰（滋賀県庁）

(6) 「琵琶湖博物館わくわく探検隊（体験学習の日）」の活動

当館を訪れる小・中学生を対象に、自然・環境・歴史・民俗への興味や関心を高めるための体験活動を、「琵琶湖博物館わくわく探検隊」として実施した。子ども向けではあるが、広く来館者に体験学習を楽しんでもらうよう、保護者の付き添いのある幼児や大人のみでも参加可能にした。基本的には、第2・第4土曜日の午後1時より受付、プログラム実施は午後1時半～3時までとした。大変好評で、年間542名の参加者があり、プログラムの内容上、定員オーバーで参加をお断りするものもあった。

回	月 日	タイトル	参加人数
1	5月10日	プラばらープランクトンでばらばらまんがー	23
2	5月14日	プラばらープランクトンでばらばらまんがー	22
3	9月27日	くるくるキラキラ☆偏光スコープ	34
4	10月11日	光とかげで写真をとろう	20
5	10月25日	光とかげで写真をとろう	13
6	11月8日	回転実験室リターンズ	85
7	11月22日	草木染めをしよう	15
8	12月13日	水鳥を観察しよう …色とりどりの冬鳥たち…	18
9	1月10日	C展示室でスゴロクをしよう	38
10	1月24日	C展示室でスゴロクをしよう	34
11	2月14日	オオサンショウウオ GETだぜ☆	27
12	2月28日	オオサンショウウオ GETだぜ☆	41
13	3月14日	くるくる☆カラフル種とばし	69
14	3月28日	くるくる☆カラフル種とばし	103
合計			542



オオサンショウウオ GETだぜ☆



くるくる☆カラフル種とばし

(7) 職場体験実習

滋賀県立ろう話学校中学2年生の職場体験実習を受け入れた。

学校名	月 日	受入人数	内 容
滋賀県立ろう話学校	11月13日	4	学芸員研究体験・体験学習教材準備等

(8) 博物館実習（期間：8月1日（金）～8月8日（金）；ただし4日は休み）

国内15大学、28名の学生を対象に、琵琶湖博物館の基本理念・活動方針と、それにもとづく交流、資料整備、展示などの活動について、講義および実習を行った。今年度は初めての試みとしてグループに分かれて企画展示プランの作成を行い、最終日プランの発表を行った。発表会では博物館職員との意見交換も行われた。実際の交流事業の体験として、自然調査ゼミナールへ実習スタッフとしての参加も行った。なお、8日以上の実習が必要な、2名は最長1日および5日の追加実習を行った。

実習の日程および内容

月日（曜日）	実習内容（午前）	実習内容（午後）
8月1日（金）	<ul style="list-style-type: none"> 全体オリエンテーション 講義「琵琶湖博物館について」 館内案内 	<ul style="list-style-type: none"> 講義「展示計画案の作成について」 企画展示の背景および見学

月日（曜日）	実習内容（午前）	実習内容（午後）
8月2日（土）	<ul style="list-style-type: none"> ・講義「常設展示室の概要と戦略および展示ビデオ視聴」 ・常設展示の見学 	・実習「企画展示案作り」
8月3日（日）	<ul style="list-style-type: none"> ・講義「博物館の資料整理」 ・資料保存のDVD視聴 ・講義「琵琶湖博物館の資料の保存・管理の状況」 ・講義「琵琶湖博物館の資料データベース」 	・実習「資料整備実習」
8月4日（月）	＜休 み＞	
8月5日（火）	<ul style="list-style-type: none"> ・講義「企画調整課の事業について」 ・講義「UD(ユニバーサル・デザイン)とは」 ・実習「UD調査」 	・実習「UD調査」
8月6日（水）	<ul style="list-style-type: none"> ・講義「交流事業の概要」 ・ガイダンス「自然調査ゼミナール」 ・自然調査ゼミナールに合流して実習 	・自然調査ゼミナールに合流して実習
8月7日（木）	・実習「企画展プラン作成」	・実習「企画展プラン作成」
8月8日（金）	・実習「企画展プラン作成」	<ul style="list-style-type: none"> ・実習成果発表会 ・修了式

実習生：11大学，20名（内訳）

所 属	人 数	所 属	人 数
成安造形大学	5	立命館大学	1
近畿大学	5	高知大学	1
滋賀県立大学	3	九州東海大学	1
京都教育大学	3	静岡大学	1
琉球大学	2	東海大学	1
京都文教大学	1	東京学芸大学	1
京都橘大学	1	帝京科学大学	1
京都府立大学	1		
合 計			28

国際交流活動

(1) 「JICA 博物館集中コース」の実施

国際協力機構（JICA）からの委託事業として、国立民族学博物館と共に、「博物館集中コース」を実施した。国立民族学博物館が事務局を持ち、琵琶湖博物館は企画委員2名を出して、全体の運営にかかわると共に、5カ国9名の研修員を受け入れた。

なお、このJICAの研修は当初10年間にわたり国立民俗学博物館が「博物館技術コース」として行ってきたもので、琵琶湖博物館も研修生を受け入れて協力してきたが、2004年度から名称と研修内容を変更し、琵琶湖博物館が共催して行っているものである。

1) 研修員

バックロ・カストロ・カーラ・カタリナ（コロンビア・ゴールド博物館）
マンソワール・サハル（ヨルダン・民俗博物館）

ヴィラコルタ・ブラボ・リア・メリサ（ペルー・リマ美術館）
メンドザ・カストロ・クラウディオ・マーティン（ペルー・大衆芸術および伝統博物館）
ドゥオン・シ・ハン（ベトナム・婦人博物館）
ル・シ・サイ・ホアン（ベトナム・革命博物館）
ムベウエ・メアリー（ザンビア・モトモト博物館）
ムナルラ・カワナ（ザンビア・リビングストーン博物館）
シアトントラ・ムランガンドゥ（ザンビア・コッパーベルト博物館）

2) スケジュール

2008年4月1日 来日

4月14日 開講式（国立民族学博物館）
4月15日 カントリーレポート（琵琶湖博物館）
7月11日 閉講式
7月12日 帰国

琵琶湖博物館での研修

5月8日 琵琶湖博物館の概要および設立経緯（楠岡）
展示見学（スミス、楠岡）
5月9日 展示の計画および作製（乃村工藝社 鮫島）
学校との連携（中野、飯住）
企画展示の計画および作製（布谷）
博物館と研究（用田）
5月10日 フィールドレポーターおよびはしかけとの話し合い（楠岡、スミス）
体験学習プログラム見学および体験（楠岡、中村、中野）
琵琶湖博物館スタッフとの交流
5月11日 草津本陣見学（楠岡、スミス）
フェアブル人形劇の見学（布谷）
地域博物館の運営（布谷）
5月12日 琵琶湖博物館の交流活動とは（八尋）
各国博物館における教育プログラム（JICA 研修員）
ディスカバリールームの考え方と運営（芦谷、山田、角野）
情報の利用とのための施設（戸田）
5月13日 資料整理と利用（中藤）
展示評価（布谷）
展示評価の実践（布谷、楠岡、スミス）
琵琶湖博物館の学芸員とのディスカッション

3) 個別研修

選択の個別研修には、研修員9名のうち、5名が琵琶湖博物館で研修した。

- ・個別研修期間 6月23日～27日
- ・参加研修員 バックロ・カストロ・カーラ・カタリナ（コロンビア）
ドゥオン・シ・ハン（ベトナム）
ル・シ・サイ・ホアン（ベトナム）
ムベウエ・メアリー（ザンビア）
ムナルラ・カワナ（ザンビア）

また、個別研修の折、博物館運営について研修に来ていたタイの高校教諭2名もオブザーバーとして参加した。

・研修内容（テーマ・地域と博物館）

- 6月23日 ディスカバリールーム七夕飾りの準備（芦谷、山田、布谷、楠岡、スミス）
ディスカバリールーム国際コーナーを計画する（芦谷、山田、布谷、楠岡、スミス）
- 6月24日 学校向け体験学習プログラムの見学および体験（飯住、楠岡、スミス）
プランクトンの模型作り（楠岡、スミス）
- 6月25日 地域との交流（布谷）
うおの会の活動およびWWFの博物館への支援（水野）
- 6月26日 ヨシ博物館見学（布谷、楠岡、スミス）
能登川博物館見学（布谷、楠岡、スミス）
- 6月27日 琵琶湖博物館学芸員との話し合い
教員研修の見学

(2) 海外からの視察

月	日	視察団体名	活動内容	人数	担当
4	17	National Inst. Biological Resources, 韓国	展示案内、事業説明	1	楠岡
4	30	JICA イラン国湿原管理コース	展示案内、事業説明	4	楠岡
5	8	順천시視察団、韓国	展示案内	6	高橋
5	17	ミンガン州立大学ビジネススクール、米国	展示案内	39	グライガー
5	20	タイ国国際政治団	展示案内	10	グライガー
6	3	JICA 閉鎖性海域の水環境管理コース	展示案内	6	楠岡
6	10	昌原市視察団、韓国	展示案内	23	高橋
6	11	JICA 水産増養殖コース	事業説明	6	松田
6	17	順천시視察団 II、韓国	展示案内	10	高橋、楠岡
6	19-28	Mahidol Wittayanusorn School の教員、タイ国	博物館研修	2	楠岡ほか
7	1	貴州市販大学、中国	展示案内	17	臼井
7	3	トップマネジメントセミナー、ブラジル	展示案内	3	楠岡
7	3	JICA 環境中の有害汚染物質対策コース	展示案内	7	グライガー
7	3	京都インターナショナル・スクール	展示案内	13	グライガー
7	8	唐津郡庁、韓国	展示案内	9	中島
7	19	ミンガン州立大学、米国	展示案内	3	グライガー
7	24	JICA 国別特設フィリピン環境管理コース	展示案内	12	グライガー
7	29	JICA フセインサガール湖沼管理保全コース	展示案内、講義	7	楠岡
7	30	Wonju Hoeng Sung 文化情報センター	展示案内、事業説明	6	楠岡
9	2	イラク環境大臣一行、イラク	展示案内	6	グライガー
9	2	JICA 水辺を中心とする自然体験を通じた環境教育コース	展示案内、講義	11	楠岡、中野
9	12	JICA 水環境を主題とする環境教育コース	展示案内、講義	6	楠岡
10	2	アジア協力対話第5回環境教育推進対話	展示案内	20	楠岡
10	16	南原市庁、韓国	展示案内	7	楠岡
10	29	JICA 第3回イラク南部湿地帯保全コース	展示案内、講義	11	楠岡

月	日	視察団体名	活動内容	人数	担当
10	30	訪日教育旅行誘致視察団、韓国	展示案内、事業説明	13	中野、飯住
11	12	JICA 産業排水処理技術コース	展示案内	7	スミス
11	13	江蘇省からの研修員、中国	展示案内	6	芳賀
11	18	JICA 青年研修 中央アジア・アゼルバイジャン 環境保全グループ	展示案内、講義	27	前畑
11	21	JICA 生活排水対策コース	展示案内、事業説明	12	スミス
11	22	世界学生湖沼会議 2008	展示案内	17	グライガー
12	5	JICA 青年研修 アフリカ英語圏環境/環境保全グ ループ	展示案内	23	スミス
12	6	Euro Asia Management Studies Association	展示案内	20	グライガー
1	7	湖南省訪問団、中国	展示案内	10	布谷
1	21	訪日教育旅行誘致視察団、オーストラリア	展示案内	9	グライガー
2	1	韓国環境財団、韓国	展示案内	32	飯住
2	3	JICA 湖沼環境保全のための総合的流域管理コー ス	展示案内、講義	10	楠岡
2	6	アロイズ財団一行	展示案内	4	芳賀、グライガー
2	11	JICA 中東地域博物館研修コース	展示案内、講義	8	楠岡、布谷
2	14	日中ハイレベル交流	展示案内	12	楊
2	18	北京世紀彩虹展覽展示公社	展示案内	9	用田
2	19	Mahidol Wittayanusorn School、タイ国	展示案内	6	楠岡
2	19	JICA 中国環境教育施設計画1 コース	展示案内		布谷
2	25	訪日教育旅行誘致視察団、台湾	展示案内	9	飯住
3	15	国立慶州博物館、韓国	展示案内	2	松田

5 対話と応援ができる博物館

利用者主体の事業

(1) フィールドレポーター

フィールドレポーター制度とは、県内を中心に身近な自然、生き物、生活等に関する情報を定期的に報告してもらい、得られた情報を博物館の資料として保存し、展示や交流の中でいかしていくとともに、情報のやりとりを通して博物館とレポーター同士をつなぐ制度である。登録者数は157名（2008年度）となり、前年より35名増加した。

活動としては、博物館とフィールドレポーターが相談してテーマを設定し、年数回行うアンケート型調査と、自由な内容で身近な情報を随時報告する自由回答調査の2種類を実施している。調査の結果はフィールドレポータースタッフにより「フィールドレポーターだより」にまとめられ、フィールドレポーター交流会でも発表される。調査に先駆けての勉強会や観察会を適宜実施している。

2008年度は春から夏にかけて「みちしるべ今昔調査」を実施し、年末・年始にかけては「年末年始の食調査」を実施した。なお、今年度は「ボタンウキクサ分布調査（2007年度）」や野外観察会「アカトンボ（アキアカネ）のふるさと探し」を広報したところ、一部新聞に掲載され、話題を呼んだ。その他の活動としては、フィールドレポーターのニュースレター「フィールドレポーター掲示板」を5回（通巻50-54号）発行し、調査報告書「フィールドレポーター便り」を2回発行した。また、当館C展示室の参加型調査コーナーにアンケート調査結果を掲示した。

フィールドレポーター同士の交流会を、特に2008年度は“フィールドレポーター祭り”として、一般登録者が参加しやすいようにした。ただし、参加数は思うほどには伸びなかった。また、スタッフの勉強会も兼ねて、昨年度同様に8月には伊丹市昆虫館友の会とともに「アサギマダラ観察会（マーキング調査）」（於；びわ湖パレ）と当館独自の取り組みである「アカトンボ（アキアカネ）のふるさと探し」観察会を開催した。また、草津市で開かれた“第8回パワフル交流・市民の日”（11月1日）、大阪市立自然史博物館で開催された“かんさい自然フェスタ”（11月15～16日）、当館にて開催されたびわ湖・まるエコ・DAY2008（11月29～30日）にも参加した。特に、パワフル交流・市民の日においては、ポスター出展のほか子供向けのゲームを実施し好評を得た。

それ以外の活動として、2008年3月に博物館アトリムで開催された「はしかけ・フィールドレポーター活動紹介」にも出展した。スタッフのみなさんが“ヤマユガ”をそれぞれの自宅で飼育し、当館の企画展示「ファーブルにまなぶ」において、展示室にてその幼虫を展示し、解説をおこなった。

2007年2月から「フィールドレポーター掲示板」および「フィールドレポーター便り」の電子化をフィールドレポータースタッフの協力で実施し、2008年度には、過去に発行したすべての印刷物（掲示板、たより）を当館HPのウェブサイトから閲覧できるようにした。

フィールドレポーターの調査内容等一覧（2008年度）

内 容	実施月	報告数(件)
1) みちしるべ今昔調査	7～9	330
2) 年末年始の食調査	12～1	取りまとめ中
3) 自由形調査(フィールドレポーター掲示板)	通年	28



“みちしるべ”の勉強会



企画展「ファーブルにまなぶ」の展示室におけるフィールドレポータースタッフによる解説
(2008年7月5日)

フィールドレポーター活動の記録（2008年度）

月 日	曜日	内 容
4月5日	土	定例会：レポーター祭の打ち合わせ
4月11日	金	外来種・ボタンウキクサの駆除作業(守山市内)
4月19日	土	定例会：掲示板の印刷作業（リソグラフの故障で中断）
4月22日	火	「道標調査」の予備調査（石山～瀬田）
4月26日	土	定例会：掲示板の発送作業
5月10日	土	定例会：レポーター日より発送作業
5月22日	木	「道標調査」アンケート発送作業
5月24日	土	定例会：フィールドレポーター祭の準備
5月25日	日	フィールドレポーター祭（交流会）（於：生活実験工房）
6月7日	土	定例会：アカトンボ調査打ち合わせ・ヤママユ飼育分担
6月21日	土	定例会：アカトンボ調査打ち合わせ
7月5日	土	定例会：「アカトンボのふるさと探し」観察会打ち合わせほか
7月29日	日	アサギマダラ観察会下見(於：箱館山)
8月2日	土	定例会：「アカトンボのふるさと探し」観察会打ち合わせ：調査票作成
8月9日	土	定例会：「アカトンボのふるさと探し」観察会；アサギマダラ観察会(於：箱館山)
8月23日	土	定例会：「アカトンボのふるさと探し」観察会等の反省会など
9月6日	日	定例会：道標調査結果中間報告会
9月27日	土	定例会：道標調査結果の検討
10月11日	土	定例会：道標調査結果の検討、第2回調査の内容の検討
10月24日	金	レポーター日より（道標調査結果）印刷準備作業
10月25日	土	定例会：レポーター日より（道標調査の結果）発送作業
11月1日	土	定例会：「草津パワフル交流市民の日」展示準備作業
11月8日	土	草津市パワフル市民展示参加:ボタンウキクサ調査結果などポスター展示
11月15-16日		かんさい自然フェスタ：ボタンウキクサ調査結果のポスター出展
11月29-30日		びわ湖・まるエコ・DAY2008：ボタンウキクサ調査結果のポスター出展
12月6日	土	定例会：冬の調査「年末年始の食調査」について内容の検討作業
12月20日	土	定例会：「年末年始の食調査」アンケートの印刷、発送
1月10日	土	定例会
1月31日	土	定例会：「年末年始の食調査」まとめなど
2月7日	土	定例会：「道しるべ」展示準備、「年末年始の食調査」まとめなど
2月21日	土	定例会：「道しるべ」展示準備、新年度の調査内容について
3月7日	土	定例会：はしかけ活動発表会の展示準備作業およびC展示「道しるべ」準備
3月8日	日	はしかけ活動発表会
3月28日	土	定例会：掲示板印刷、発送作業

(2) はしかけ制度

はしかけ制度は、展示の見学や交流イベントへの参加など、いわゆる受け身的な博物館の利用にとどまらず、博物館の事業や活動にさまざまな形で自主的にかかわりたいとする人たちに対し、そのきっかけの場、さらには新しい活動を発想・展開するための環境を提供するための参加型制度で、2000年8月に設置された。はしかけ制度のもとでの活動は、年度単位で登録・更新の手続きを経たはしかけ会員が、個別のテーマをもつはしかけグループの活動に参加する形で主として行われる。はしかけグループの活動は多岐にわたり、活動の場所や対象を博物館内やその周辺におくグループもあれば、県内の各地域へ活動範囲を広げているグループもある。このようにして、はしかけ会員には、琵琶湖博物館の中長期基本計画に掲げられている「地域だれでも・どこでも博物館」の実現に向けて、博物館と地域あるいは地域に住む人たちとの間の、文字通り「はしかけ」としての役割も期待されている。

はしかけ制度は、参加者の側が自主的に企画・提案を行い、博物館とともに活動を具体化していく形へと移行していくことが望まれる。はしかけグループやはしかけ会員が核となり、各地で新たな活動が生まれ、すでに活動しているグループと連携をとりながら、博物館と連携した活動のネットワークが広がっていく方向へと発展していくことが、はしかけ制度の将来的な目標のひとつであり、「地域だれでも・どこでも博物館」構想を実現するひとつの有効な手段となりうるものと考えられる。

はしかけ会員になるうえでの受講が必修である登録講座を例年とおおり7月、11月、3月の3回実施した。2008年度の新規登録者は、120名にのぼるが、更新せずに退会する者も多く、年度末での会員数は27名の増加で、374名にとどまっている。活動グループ数は前年からの変化はなく15である。登録講座開催日にあわせ、はしかけ交流会、はしかけ発表会を開催し、会員同士の親睦をはかるとともに、新しく会員なったはしかけさんに活動グループの紹介を行った。

	開催日	会場	講師	参加者数
第1回	7月6日(日)	琵琶湖博物館セミナー室 等	全体進行：中島・宮本 各グループの説明は、世話人やはしかけ会員による	32
第2回	11月9日(日)			27
第3回	3月8日(土)			61

各グループの活動

○ザ！ディスカバはしかけ

担当者：角野真梨（2007/12/1～2008/6/30）

藤岡千裕（2008/7/1～）、山田陽子（2007/7/1～） 会員数：3名

[設立の趣旨]子どもからお年寄りまでディスカバリールームを訪れる方々に展示のメッセージがよりよく伝わるように分かりやすく楽しい空間を創ることをめざしている。

[活動の概要]「ザ！ディスカバはしかけ」は2005年度の秋に発足した団体である。これまでは個人ごとの活動が中心となり、イラストや裁縫・人形劇など展示物の作成および補修を中心に活動した。そして、展示室のイベントで他のはしかけさんにも協力していただき、今後の目標でもある“ディスカバリーをもっと楽しくするイベント”にも挑戦できた。

「ザ！ディスカバはしかけ」のおもな活動

活動月日	行事名	場所
2008年4月12日	BOX「カブトムシのおはなし」の中に入っている立体型絵本のカブトムシをリニューアル	琵琶湖博物館 (ディスカバリールーム)
通年	BOX「新・カロム」企画	琵琶湖博物館 (ディスカバリールーム)

活動月日	行事名	場所
通年	人形劇場「パペットのカエル」修繕中	琵琶湖博物館 (ディスカバリールーム)
通年	人形劇場「パペットのウリボウ」修繕中	琵琶湖博物館 (ディスカバリールーム)
	展示室内「ソファ」のカバー作成	琵琶湖博物館 (ディスカバリールーム)
2009年2月17日	<おばあちゃんの台所> のコーナーの障子の張替え	琵琶湖博物館 (ディスカバリールーム)

○近江昔くらし倶楽部（「展示室を楽しくする会」から2009年1月より刷新）

担当：中藤容子 会員数：15名

[設立の趣旨]「生活実験工房に集う会」「展示室を楽しくする会」の活動を続ける中で、博物館の屋外展示・生活実験工房を活用する魅力が引き出され、継続して参加する人々が少しずつ増え、新しい活動提案が出てきている。そこで、常設展示「農村のくらし」など近江の伝統的な暮らしから学ぶ「小地域循環的な暮らし」を、実際に屋外展示の森・田畑・工房の中で実験的に創造していくことを目標に、ボランティアな力をあわせて屋外展示空間を積極的に活用し創造する取り組みを行っていくため、グループ名を変更し刷新することとなった。

[活動の概要]年間を通じ、「工房田んぼの作業・行事」への協力と屋外展示、生活実験工房を拠点とする昔くらし体験の活動を行っている。平成20年度は、ミュージアムセラピーとしてデイサービスラポール（守山市）との昔くらし体験を行ったり、おうみ未来塾のしゃくなげ学校（日野町）での民具整理活動に協力したり、滋賀の食事文化研究会と共同例会を開いたり、木考塾との協働を目指すセミナーを開いたりなど、外部との連携に広がりを見せた。

「近江昔くらし倶楽部（旧展示室を楽しくする会）」のおもな活動

活動月日	行事名	場所
4月20日	苗代づくり	琵琶湖博物館（生活実験工房）
5月18日	わら草履作り・炭焼き	琵琶湖博物館（生活実験工房）
5月23日	第3回ミュージアムセラピー研究会	琵琶湖博物館（生活実験工房）
6月4日	第4回ミュージアムセラピー研究会	琵琶湖博物館（生活実験工房）
6月22日	草取り・田んぼの生き物かんさつ	琵琶湖博物館（生活実験工房）
7月10日	第5回ミュージアムセラピー研究会	琵琶湖博物館（生活実験工房）
7月13日	滋賀県食事文化研究会・学習会への参加	
7月19日	しゃくなげ学校の民具整理協力	日野町鎌掛
7月23日	ブルーギル釣り・竹細工	琵琶湖博物館（生活実験工房）
8月3日	笹焼き・虫送り	琵琶湖博物館（生活実験工房）
8月17日	かかしづくり	琵琶湖博物館（生活実験工房）
8月23日	第6回ミュージアムセラピー研究会・ミーティング	琵琶湖博物館（生活実験工房）
9月23・24日	お蔵探検	安土町下豊浦
9月25日	第7回ミュージアムセラピー研究会	琵琶湖博物館（生活実験工房）
9月28日	稲刈り（シシクワズ・羽二重モチ）、ハサ掛け、竹の伐採	琵琶湖博物館（生活実験工房）

活動月日	行事名	場所
10月26日	脱穀（シシクワズ）	琵琶湖博物館（生活実験工房）
11月30日	脱穀（羽二重餅）、どんぐり試食	琵琶湖博物館（生活実験工房）
12月21日	餅つき	琵琶湖博物館（生活実験工房）
12月23日	餅つき、門松・しめ縄づくり	琵琶湖博物館（生活実験工房）
1月6～8日	ヤナギの伐採、綿くり	琵琶湖博物館（生活実験工房）
1月10日	しが子ども文化芸術祭 「アートと子どもたちとの出会い」への参加	草津市しが県民芸術創造館
1月12日	どんど焼き	琵琶湖博物館（生活実験工房）
1月26日	「ほんがら」上映会・ヨシ笛づくり	琵琶湖博物館（生活実験工房）
1月27～29日	綿くり、原始機づくり、糸紡ぎ	琵琶湖博物館（生活実験工房）
1月31日	わら草履づくり、紙すきのための楮炊き・叩き	琵琶湖博物館（生活実験工房）
1月31日	しゃくなげ学校 箱膳体験協力	日野町鎌掛
2月8日	ミツマタを使った紙すき	琵琶湖博物館（生活実験工房）
2月8日	わら草履づくり、きのこの植菌	琵琶湖博物館（生活実験工房）
2月12日	わら草履づくり、炭火で暖をとる	琵琶湖博物館（生活実験工房）
2月21日・22日	「気軽にどこでもアート交流事業」への協力	滋賀県立文化産業交流会館
2月28日	滋賀の食事文化研究会 企画会議	琵琶湖博物館（生活実験工房）
3月8日	こんにゃくづくり	琵琶湖博物館（生活実験工房）
3月10日	お蔵探検	彦根市石寺
3月11・12日	綿の種とり作業	琵琶湖博物館（生活実験工房）
3月27日	特別研究セミナー 「資源が循環するこれからの住まいと暮らし」	琵琶湖博物館

○近江はたおり探検隊

担当：中藤容子（2009年1月～辻川智代） 記録・ホームページ担当：辻川智代 会員数：20名

[設立の趣旨] 2004年度、民俗資料展「糸を紡いで布を織る」での機織り体験講座がきっかけとなり、展示終了後、結成。「地域に残された人とモノから近江の機織り文化を探究し、現在、失われてしまった近江の良さを再発見し、地域の人々とともにその良さを伝えていく」ことを目的に活動している。

[活動の概要] 博物館に収蔵される機織り用具の調査を通じ、地域に残る機織りの技を再現することを目標とし、織姫の会、研究会、はたおり探検などの活動を行っている。平成18年度から「野良着部会」で琵琶湖南部特有の縞柄の藍染木綿の復元を進めている。平成20年度は、龍谷大学里山学 ORC や源氏物語千年紀 in 大津、草津養護学校など、地域と連携する活動に広がりを見せた。

「近江はたおり探検隊」のおもな活動

活動月日	行事名	場所
4月10日～3月28日(24回)	織姫の会	琵琶湖博物館
4月3日～8月1日(6回)	はたおり探検	田上郷土資料館・米原市甲津原ふるさと伝承館など
5月17日・5月22日(2回)	龍谷大学「暮らしの中の造形展」への協力	龍谷大学瀬田学舎 REC ホール
7月12日	「源氏物語千年紀 in 湖都大津」に協力	琵琶湖博物館（生活実験工房）
8月26～28日	黒田京北はたおり合宿	京都市右京区京北黒田地区 黒田基幹集落センター

活動月日	行事名	場所
9月9日	天秤腰機の撤収	京都市右京区京北黒田地区 黒田基幹集落センター
9月18日	草津養護学校での草木染め体験	草津養護学校
9月26日	伯州棉を囲む交流の宴	彦根市本庄町 田舎体験旅館みずほの郷
11月23・24日	「もりやま市民活動屋台村」への協力	守山市民交流センター
3月14日	研究会	琵琶湖博物館会議室

○温故写新

代表連絡係：久保明彦 担当者：秋山廣光 会員数：29名

[設立の趣旨]写真とカメラを愛し、撮影を楽しむことを主旨とする。

生命の活動、人の生活や自然の移りゆく様を記録し後世に伝える。

感動的に、そして美しく。

時の流れと共に変化するこの世界の一瞬を切り取り、命や自然、人の営みを考察する一助とする。

[活動の概要] 撮影会と勉強会を開催。2008年度は、5月に新空間を利用して活動発表会を開催。2年間の撮影で蓄えた作品を各自宅プリンターで仕上げて展示しました。開催期間中は、出品者全員が当番で作品の説明を致しました。勉強会が少な目ですが、草津市みずの森などでの撮影会を行いました。琵琶湖博物館のギャラリー一展をきっかけに別動班「古写真探検隊」を結成し、写真片手の聞き取り調査と写真による環境や景観の変遷の記録を始めます。

「温故写新」のおもな活動

活動月日	行事名	場所
4月5・12日	活動紹介展示の打ち合わせ	琵琶湖博物館
6月7日	撮影会	草津市立水生植物公園みずの森
7月27日	撮影会	伊吹山
10月18日	勉強会	琵琶湖博物館
11月23日	鶏足寺紅葉撮影会	滋賀県木ノ本町鶏足寺
1月11日	相談会	琵琶湖博物館
2月14日	相談会	琵琶湖博物館
2月15日	打ち合わせ	琵琶湖博物館
3月7日	撮影会	大津市仰木

○湖（こ）をつなぐ会

代表：中山法子 会員数：7名

[設立の趣旨]「うた」を通じて、琵琶湖の文化的・社会的価値を再発見することをめざしている。

[活動の概要] 2008年度は2ヶ月に1回の割合で、博物館アトリウムで紙芝居を上演するというペースで活動を続けた。9月には、久しぶりに加藤登紀子さんと一緒に、当初から「生きている琵琶湖」を歌い継いでくれた子ども達が、滋賀会館の閉館コンサートに参加した。大勢の観客の前で気持ちよく歌うことができ、良い思い出ができた。このコンサートで「生きている琵琶湖」を知った小学校の先生から問い合わせがあり、環境学習と歌をあわせて授業に取り組んでくださることになった。11月からはメンバーが増え、活動がスムーズに運ぶようになった。

「湖（こ）をつなぐ会」のおもな活動

活動月日	内 容	場 所
6月8日	紙芝居「びわこの旅」上演	琵琶湖博物館アトリウム
7月6日	紙芝居「びわこの旅」上演	琵琶湖博物館アトリウム
9月15日	滋賀会館 OKINI コンサート	滋賀会館
11月9日	はしかけ交流会に参加	琵琶湖博物館セミナー室
1月17日	紙芝居「びわこの旅」上演	琵琶湖博物館アトリウム
3月8日	はしかけ発表会に参加	琵琶湖博物館

○ほねほねくらぶ

会長：山中裕子 広報担当：永野まやこ 担当学芸員：高橋啓一

会員数：大人19名、子ども9名 計28名

[設立の趣旨]現生あるいは化石の骨に関係した活動を通じて、琵琶湖博物館の研究や交流活動の支援を行い、その楽しさを広く博物館外の人々に伝えることを目的としている。

[活動の概要]2002年7月に発足。骨に魅せられた仲間が集まり、現生動物の解剖、骨格標本の作製などを毎月1～2回の例会を中心に行っている。

今年度もたくさんの資料をみんなで手がけた。メスさばきの腕前や骨格組立の技術も上がり、四肢の肉球を残した皮剥や脊椎・肋骨並べを資料なしでできるようになってきた。手根・足根骨の組立は、動物ごとにずいぶん骨の形が違うのでまだまだ難解だが、骨を通じてその生き物の生きてきた軌跡をかいま見るようで、毎回多くの発見があった。

◇みんなで取り組んだこと

イタチ、カモシカ、ヌートリアの解剖。ヤギ、イノシシ、シカ、ヌートリアの骨磨き。ツキノワグマ、ヤギの組立。カモシカ、タヌキ、キツネ、ウサギの皮なめし。水鳥の翼標本づくり。

◇メンバー各自が取り組んだこと

企画展示出展に向け、メンバー各自が標本作りに挑戦し、「走れじろう：イヌ」「きれい好き：ネコ」「ヤンキーの強烈キック：シャモ」など今にも動き出しそうなほねほね流組立標本が完成した。

◇しみながら取り組んだこと

「フライドチキンで標本作り・・・食べて・作って・・・」「企画展示アイデアミーティング」

「ほねほねくらぶ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月例会	タヌキの解剖、チュウサギの足の組み立て完成、肋骨並べ、キツネの手根骨、足根骨の組み立てなど（5日、27日）	琵琶湖博物館
5月例会	カモシカの皮剥・除肉（4日） 来年の骨の企画展に向けての話し合い（25日）	琵琶湖博物館
6月例会	トカラヤギの水洗、ホネの組立（8日） 来年の企画展に向けての標本製作（29日）	琵琶湖博物館
7月例会	タヌキの肋骨並べ、ネコの脊椎並べなど（13日） トカラヤギの組立、キツネの四肢と肋骨の接着（27日）	琵琶湖博物館
8月例会	ヤンキーの組立、ネコの組立（2日） ヌートリアとテンの解剖（30日）	琵琶湖博物館
9月例会	イノシシの骨のブラシング、クマの指骨の接着など（6日） ヌートリアのブラシング、ネコの組立など（21日）	琵琶湖博物館

活動日	内 容	場 所
10月例会	シカのクリーニング、イノシシの指骨の接着など(5日) キツネの脊椎ワイヤー固定、ヌートリアの臼歯の接着、 イノシシの椎骨並べなど(23日)	琵琶湖博物館
11月例会	タヌキの骨格並べ、はしかけ交流会に参加(9日) タヌキの皮なめし、クマの脊椎固定、イノシシの指骨の接着、ク マの脊椎・前肢の接着など(23日)	琵琶湖博物館
12月20日	2009年度企画展に向けての打ち合わせ	琵琶湖博物館
1月例会	フライドチキン de 標本づくりのテスト(11日) 各標本の脊椎・肋骨並べ(25日)	琵琶湖博物館
2月例会	イノシシ・タヌキの組立、クマの立体組立(1日) クマの肋骨接着、仔シカ並べ、サルクリーニング(22日)	琵琶湖博物館
3月例会	イタチ肋骨接着、アナグマ脊椎固定、クマ肋骨固定(8日) ツキノワグマの標本完成(22日)	琵琶湖博物館

○たんさいぼうの会

会長：有田重彦 会長補佐：中井大介 担当(影の会長)：大塚泰介 会員数：約20名

[設立の趣旨] 珪藻を中心に、微小生物のハイ・アマチュア研究者の育成を目指す。

[活動の概要] 2002年5月に「珪藻の会」として発足し、研究対象の拡大をねらって「たんさいぼう(単細胞)の会」と改名した。発足以来、珪藻など微小生物の調査・観察・研究を行い、学会発表や研究論文として成果を公表してきた。活動によって得られた標本および成果物は、琵琶湖博物館に寄贈あるいは提供される。

前年に続き2008年度も、日本珪藻学会誌 *Diatom* に2本の論文が掲載された。

有田重彦・大塚泰介(2008) *Eunotia serra* Ehrenb. のサイズ減少に伴う殻形態の変化、特に波型の変化について、*Diatom*, 24: 42-50.

木原靖郎・佐橋保司・大塚泰介(2008) 比良山系小女郎ヶ池の珪藻. *Diatom*, 24: 73-79.

2008年度も「たんさいぼうの小さな旅」で新たに珪藻試料を採集するとともに、過去の旅で採集した珪藻試料の写真撮影と整理を進めた。たんさいぼうの会でこれまでに採集した珪藻の標本は既に1,000本を超え、撮影した珪藻の写真は20,000枚近くに達している。

そして現在も、複数の会員が論文の執筆を進めている。

「たんさいぼうの会」のおもな活動

活動月日	内 容	場 所	担当者・参加者
4月6日	第20回総会	琵琶湖博物館	担当：木原靖郎 参加者：9名
5月10日	たんさいぼうの小さな旅 IX 中池見湿地(春期調査)	敦賀市	担当：大塚泰介 参加者：6名
5月24日	「琵琶湖博物館わくわく探検隊」の企画運営行事「プラぱら」に協力	琵琶湖博物館	担当：大塚泰介 参加者：4名
9月23日	第21回総会	琵琶湖博物館	担当：石井千津 参加者：6名
11月22日	たんさいぼうの小さな旅 IX 中池見湿地(秋期調査)	敦賀市	担当：大塚泰介 参加者：6名

活動月日	内 容	場 所	担当者・参加者
12 月	日本珪藻学会誌 Diatom に 2 本の論文が掲載される		主著者：有田重彦・木原靖郎
1 月 14 日	第 22 回総会	琵琶湖博物館	担当：大塚泰介 参加者：7 名
3 月 8 日	はしかけ・フィールドレポーター発表会で発表	琵琶湖博物館	担当：大塚泰介 参加者：3 名

○植物観察の会

代表者：不在 担当者：布谷 知夫 会員数：名簿なし

[設立の趣旨] 2004 年度に行った企画展示「のびる・ひらく・ひろがる」を準備している時期に、一つには植物の情報を収集し、植物を好きになる人を増やすために、同時にはしかけという制度の中で、どのグループにとっても、植物に関する話題は関係がするのために、はしかけ全体の中野植物の研修会の位置づけで始まった。

[活動の概要] ニュースレターの発行に合わせて、野外での植物観察会を継続してきた。博物館での主催行事とは異なり、集合場所と解散場所を決めるだけで、かなり気ままに里山を歩き、目についた植物について観察をするという形式で行った。年度の最後には、タンポポ調査西日本 2010 の調査に参加して、その滋賀県での調査の準備も行った。

「植物観察の会」の主な活動

活動月日	内容	場所	参加者
6 月 1 日	観察会	近江八幡市 円山神社周辺	19 名
8 月 24 日	観察会	甲賀市 水口子どもの森	19 名
11 月 30 日	観察会	蒲生郡日野町 日野川ダム湖畔	11 名
2 月 8 日	観察会	滋賀県立近江富士花緑公園	16 名
3 月 15 日	タンポポ調査西日本 2010 の勉強会	琵琶湖博物館会議室	

○里山の会

世話役：飯田俊宏、前田博美、柳原徳子、桑垣瑞、吉井 隆 担当：楠岡 泰、西村知記

[設立の趣旨] 交流事業「里山体験教室」の卒業生が中心となり、2001 年から活動している。里山体験教室のホスト役を通して里山をより深め、会独自に現代における里山の「利用法」と「楽しみ」を模索している。

[活動の概要] 里山体験教室の活動フィールドが、昨年度より野洲市大篠原になった。当初このフィールドは、林縁部がマント群落に覆われ、枯アカマツが点在し、亜高木のソヨゴやヒサカキに埋め尽くされた暗い林であったが、3 年にわたり、小径木、灌木を伐採し、落ち葉をかくことで、少しずつ明るさを取り戻し、林床には芽生えが確認されるようになった。伐採した木々は、里山の燃料としてお花炭づくりや竹ご飯・竹ケーキづくりに利用され、参加者は里山の燃料を使うことから里山の恵みを感じることができた。この冬の体験教室は昨年と同様に、里山の会のプロデュースによって実施された。

「里山の会」のおもな活動

活動月日	内容	場所
4 月 12 日	春の里山の下見、山菜&鳥笛作り	野洲市大篠原
4 月 20 日	里山体験教室（春）「春の里山歩き」	野洲市大篠原
5 月 31 日	ホテルの森 オカリナ演奏会	守山市ホテルの森資料館

活動月日	内容	場所
7月13日	夏の里山の下見、次フィールド候補さがし	野洲市大篠原
7月26日	里山体験教室(夏)「夏のフェアブル式・虫さがし」	野洲市大篠原
8月24日	なまず笛づくり	湖南市
9月7日	土笛の焼成	湖南市
9月21日	たかしま市民活動屋台村参加	高島市マキノ町
10月11日	秋の里山下見	野洲市大篠原
10月19日	里山体験教室(秋)「秋の実りビンゴ」	野洲市大篠原
10月25日	前フィールド再訪	日野町上駒月
11月29日	十二坊山登山	湖南市岩根山
1月11日	冬の里山下見	野洲市大篠原
1月18日	里山体験教室(冬)「冬の里山とたき火」 (里山の会によるプロデュース)	野洲市大篠原
3月8日	里山の会総会	琵琶湖博物館

○田んぼの生き物調査グループ

担当：楠岡泰、マーク J. グライガー 会員数 20名

[設立の趣旨]滋賀県に住む人にとって最も身近な水環境である水田に目を向けて、その生物の分布や生態を調査する。

[活動の概要]当グループは、フィールドレポーター制度で行った田んぼの生き物調査に興味を持った有志で結成された。水田に生息する生物、特に大型鰻脚類(カブトエビやホウネンエビ、カイエビなど)の分布および生活史を明らかにすることが現在の研究テーマである。このため大型鰻脚類の出現状況を県内各地の水田で調べ、分布マップを作成するとともに、分布の違いを生み出す要因を明らかにするため水温や水質などのデータとの比較を行っている。

はしかけそれぞれが自分のペースで自宅近くの定点観察および広域分布調査を行っている。また、合同調査として近江八幡市を中心に同じ水田で夏のエビ類の分布と冬の泥の様子を調べた。

「田んぼの生き物調査グループ」のおもな活動

活動月日	内 容	場 所	備 考
4月13日	総会および結果発表会	琵琶湖博物館	12名
5月24日	第1回田んぼの生き物調査	近江八幡市周辺	7名
6月1日	第2回田んぼの生き物調査	大津市田上周辺	15名
6月8日	第3回田んぼの生き物調査	近江八幡市周辺	9名
11月9日	同定会および結果発表会	琵琶湖博物館	8名
11月29日	田んぼ土壌水分計測	近江八幡市周辺	3名
11月30日	田んぼ土壌水分計測	近江八幡市周辺	3名
1月25日	冬の田んぼ土壌調査	長浜市周辺	6名
3月14日	総会および結果発表会	琵琶湖博物館	11名
通 年	田んぼの生き物調査	滋賀県周辺	それぞれが随時調査
12月～2月	冬季田んぼの状態調査	滋賀県周辺	それぞれが随時調査

○うおの会

会長：村上靖昭 担当：中島経夫 会員数：105名

[設立の趣旨]「魚を愛し、魚採りを楽しもう。魚とその棲息環境を将来にのこそう。魚とその棲息環境の現状を調査し、その姿を証拠として記録しておこう」という目標をたて、お魚とりが大好きな人々が集まって、魚つかみを楽しみながら、共に調査を実施し、身近な環境を見つめなおすことを目的にしている。2000年の発足から、お魚とりが大好きな皆さんに、博物館を利用した活動の場を提供しながら、調査によって得られた成果を活用し、身近な環境に棲息している魚たちの情報を21世紀初頭の記録として貴重な博物館資料とすることを目指している。

[活動の概要]2000年の発足から2004年5月までは、滋賀県内の魚類分布調査や、法竜川での定点調査などの調査と分析を行ってきた（成果報告は、琵琶湖博物館研究調査報告第23号「みんなで楽しんだうおの会ー身近な環境の魚たち」にまとめられている）。

2005年度より、琵琶湖流域を対象に、NPO、団体、機関、学校、企業や個人をつなぐ「琵琶湖お魚ネットワーク」の指導員として出向き、流域各地で分布調査や地域の観察会で指導を行ってきた。2007年2月には、その成果として「琵琶湖お魚ネットワーク報告書」を発行した。2008年度から「だれでも・どこでも琵琶湖お魚調査隊」の活動を展開し、会員外に広く調査を呼びかけている。会員の調査活動として、会員同士の交流やスキルアップのための月1回の定例調査を琵琶湖流域各地で開催するとともに、各会員が日常的に調査活動を実施している。うおの会では、このように魚つかみを楽しみながら、得られたデータをもとにして環境の保全や回帰に役立てたいと願っている。

「うおの会」のおもな活動

活動月日	内 容	参加人数
4月20日	第52回うおの会定例調査 大同川、栗田新田近辺	42名
5月18日	第53回うおの会定例調査 湖北湖岸の産卵調査	21名
5月24日	第15回うおの会運営会議	8名
6月7日	大阪自然観察指導員連絡会主催 投網教室に講師を派遣	1名
6月8日	第54回うおの会定例調査の下見	1名
6月15日	第54回うおの会定例調査 安曇川周辺の水路調査	37名
7月27日	第16回うおの会運営会議	8名
7月6日	琵琶湖博物館はしかけ認定講座に参加	1名
7月26日	農村まるごと保全技術研修会に講師として参加	1名
8月3日	「もりやま・びわ湖・ブルーギル撲滅釣り大会」に協賛	
8月3日	琵琶湖の魚の親しむ会	29名
9月6日	第17回うおの会運営会議	9名
9月21日	第55回うおの会定例調査 高島市マキノ町周辺	33名
10月4日	第18回うおの会運営会議	10名
10月19日	第56回うおの会定例調査 午前：野洲川上流部周辺 午後：琵琶湖博物館生活実験工房	30名
11月9日	琵琶湖博物館はしかけ交流会に参加	11名
11月16日	第57回うおの会定例調査 守山市法竜川	32名
11月30日	第19回うおの会運営会議	12名
12月14日	第58回うおの会定例調査 大津市大戸川	40名
12月14日	第9回うおの会臨時総会	30名
1月17日	第20回うおの会運営会議	9名
1月31日	第21回うおの会運営会議	9名
2月28日	第22回うおの会運営会議	8名
3月29日	第59回うおの会定例調査 烏丸半島から大津にかけての産卵調査	28名
3月29日	第10回うおの会総会	40名

○咽頭歯倶楽部

会長：村上靖昭 担当：中島経夫 会員数3名

[設立の趣旨] 2003年1月末に発足した。その趣旨はコイ科魚類の咽頭歯に興味を持つ人が集い、互いに研鑽しながら魚やコイ科魚類に関する知識を深めることにある。

[活動の概要] コイ科魚類の咽頭歯を見分ける能力を磨き、遺跡からの遺体や地層からの化石咽頭歯を同定する。そのことによって、コイ科魚類の進化の道筋や人の営みを知る。咽頭歯標本の製作、遺跡からの咽頭歯遺体の検出、化石の調査などを行っている。

「咽頭歯倶楽部」のおもな活動

活動月日	内容	場所	参加者
4月12・15・16・18・22・23・25・26・30日	カワムツ、フナ属の咽頭骨の摘出と咽頭歯のクリーニング	琵琶湖博物館 動物標本製作室	各1名
5月2・6・9・11・20・21・23・24・25・27・28・30・31日	ホンモロコ、タカハヤ、カワムツ、フナ属の咽頭骨の摘出と咽頭歯のクリーニング	琵琶湖博物館 動物標本製作室	各1～3名
6月14・29日	ホンモロコ、タカハヤ、カワムツの咽頭歯のクリーニング。コイの咽頭骨の摘出と咽頭歯のクリーニング。下之郷遺跡の泥の水洗選別	琵琶湖博物館 動物標本製作室	各1～3名
7月6・20・21・27日	コイ、アブラハヤの咽頭骨の摘出と咽頭歯のクリーニング。下之郷遺跡の水洗選別した泥からの咽頭歯の検出	琵琶湖博物館 動物標本製作室	各1～3名
8月17日	フナ属の咽頭骨の摘出と咽頭歯のクリーニング。下之郷遺跡の水洗選別した泥からの咽頭歯の検出	琵琶湖博物館 動物標本製作室	3名
9月13日	カワムツ、ウグイ、フナ属の咽頭骨の摘出と咽頭歯のクリーニング。下之郷遺跡の水洗選別した泥からの咽頭歯の検出。	琵琶湖博物館 動物標本製作室	4名
10月4・5・11日	カワムツ、ウグイ、フナ属の咽頭骨の摘出と咽頭歯のクリーニング。下之郷遺跡の水洗選別した泥からの咽頭歯の検出	琵琶湖博物館 動物標本製作室	1名
11月9日	はしかけ交流会に参加	琵琶湖博物館 セミナー室	1名
11月16日	フナ属の咽頭歯のクリーニング	琵琶湖博物館 動物標本製作室	1名
12月9・20・23日	ウグイ、ギンブナの咽頭骨の摘出と咽頭歯のクリーニング。下之郷遺跡の水洗選別した泥からの咽頭歯の検出	琵琶湖博物館 動物標本製作室	各1～3名
1月17・24・31日	ニゴロブナ、タカハヤ、カワムツ、オオクチバス、ギンブナの咽頭骨の摘出と咽頭歯のクリーニング。下之郷遺跡の水洗選別した泥からの咽頭歯の検出。	琵琶湖博物館 動物標本製作室	各1～3名
2月7・15日	タカハヤ、カワムツ、オオクチバスの咽頭歯のクリーニングと乾燥。下之郷遺跡の水洗選別した泥からの咽頭歯の検出。	琵琶湖博物館 動物標本製作室	各1～3名

活動月日	内容	場所	参加者
3月2・8日	タカハヤ、カワムツ、オオクチバスの咽頭歯のクリーニング。下之郷遺跡の水洗選別した泥からの咽頭歯の検出	琵琶湖博物館 動物標本製作室	各1~3名
3月6日	はしかけ発表会パネルなどの準備	琵琶湖博物館 動物標本製作室	2名
3月8日	はしかけ発表会に参加	琵琶湖博物館 企画展示室	3名

〇びわたん

担当 飯住達也・中野正俊 会員数：23名

[設立の趣旨]「琵琶湖博物館わくわく探検隊」の事業を博物館職員とともに運営し、同事業がめざす「フィールドへの誘い」「展示室のより深い理解」を来館者に届ける。

[活動の概要]「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業は、概ね第2、4土曜日の午後に行われている。この事業は、来館者に滋賀県の人々の暮らしや身のまわりの自然に対しての興味・関心を深めてもらうことをねらいに行っている。「びわたん」のメンバーは、この事業におけるプログラム開発や事業当日の参加者との交流などに積極的に関わっている。また、それぞれの興味・関心に応じて、琵琶湖博物館内での展示、その他公共施設や学校、博物館に出かけての展示ならびに体験学習を行うほか、スキルアップのための自己研修も行っている。

「びわたん」のおもな活動

「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業（館内）		
月日	プログラム	担当
5月10日	プラぱらープランクトンでぱらぱらまんがー	企画・運営・実施
5月14日	プラぱらープランクトンでぱらぱらまんがー	企画・運営・実施
9月27日	くるくるキラキラ☆偏光スコープ	企画・運営・実施
10月11日	光とかげで写真をとろう	企画・運営・実施
10月27日	光とかげで写真をとろう	企画・運営・実施
11月8日	回転実験室リターンズ	企画・運営・実施
11月22日	草木染めをしよう	企画・運営・実施
12月13日	水鳥を観察しよう …色とりどりの冬鳥たち…	企画・運営・実施
1月10日	C展示室でスゴロクをしよう	企画・運営・実施
1月24日	C展示室でスゴロクをしよう	企画・運営・実施
2月14日	オオサンショウウオ GETだけ☆	企画・運営・実施
2月28日	オオサンショウウオ GETだけ☆	企画・運営・実施
3月14日	くるくる☆カラフル種とばし	企画・運営・実施
3月28日	くるくる☆カラフル種とばし	企画・運営・実施

館外・博物館イベント			
月日	イベント名	場所	担当
6月22日	企画展関連イベント「博物館にアート博士がやって来る！「ゆめみる昆虫」ーこんちゅうたちのファッションショーー	琵琶湖博物館	企画・運営・実施

月日	イベント名	場所	担当
8月3日	環境と科学のフェスティバル 「キラキラ☆偏光スコープをつくろう」	彦根市	実行委員会 企画・運営・実施
8月7日	自然調査ゼミナール 「偏光万華鏡をつくろう」	琵琶湖博物館	講師 企画・運営・実施
8月16日	教員研修 「咽頭歯の標本をつくろう」	湖北町 湖北中学校	講師 企画・運営・実施
9月9日	花緑フェスティバル 「年輪でポン！」	近江富士花緑公園	講師 企画・運営・実施
10月29日 11月7,10日	理数大好き事業 「化石のレプリカづくり」	大津市 瀬田中学校	講師 企画・運営・実施
11月29,30日	びわ湖・まるエコ・DAY 2008	琵琶湖博物館	出展
2月1日	BYQ ネットワークの集い 「水のなかの景色をつくろう」	ウォーターステー ション琵琶	講師 企画・運営・実施
2月2,3日	ボランティアコーディネーターセミナー 「C 展示室ですごろくをしよう」	琵琶湖博物館	講師 企画・運営・実施
2月17,24日	甲賀市立佐山小学校 「化石のレプリカをつくろう」	甲賀市 佐山小学校	講師 企画・運営・実施
3月29日	淡海の川づくりフォーラム	コラボ滋賀21	出展

○展示交流倶楽部

代表者：不在 担当者：布谷 知夫 会員数：6人

[設立の趣旨] 展示交流員の有志およびその経験者が、自分たちが行ってきた展示室でのお客との交流という行為が、博物館にとって、あるいは博物館の展示を楽しもうとするお客にとってどのような意味があるのかを考え、「展示交流」の再確認の議論をしようとして設立した。

[活動の概要] 何度も集まって議論をする事ができないために、まとめの内容についての目次を作り、大きな分担を決めて、それぞれが相談をしながら、文書を書き、相互に意見を聞きながら、まとめを進めていく事している。

「展示交流倶楽部」のおもな活動

2001年に発効した「展示交流員って知ってる？」に続いて、その後の自分たちの体験や考えてきたことを議論し、記録することを目指して、何度かの議論を行い、分担して原稿を書き、年度末には、なんとか印刷物を刊行することができた。当初の目的を達成したことから、「はしかけグループ」としてはこの発行を契機として解散をした。

○水はしかけ

担当者：里口保文・芳賀裕樹 会員数：13人

[設立の趣旨] 琵琶湖淀川水系の、特に水質について、実際に自分たちで採取をしたりすることで、どういう事がおきているのかを調査してみる事。

[活動の概要] 2010年までは、大阪市立自然史博物館が開催しているプロジェクトY・淀川水系調査グループの水質班と合流して、琵琶湖～淀川水系の調査を行います。各メンバーが分担した場所で、調査、採水を行い、水系全体の事を考えます。

また最近、月に一回程度、水についての勉強会を行っています。また、今後の活動について検討中です。

「水はしかけ」の主な活動

活動月日	内容	場所	参加者
5月下旬の9日間	第二回採水調査	琵琶湖・淀川水系	12名
8月17日	例会	琵琶湖博物館	8名
8月下旬の9日間	第三回採水調査	琵琶湖・淀川水系	12名
11月9日	例会	琵琶湖博物館実習室1	6名
11月下旬の9日間	第四回採水調査	琵琶湖・淀川水系	12名
12月6日	第一回勉強会	琵琶湖博物館会議室	8名
1月10日	第二回勉強会	琵琶湖博物館会議室	6名
2月1日	淀川水系調査報告会 (大阪市立自然史博物館と共同)	琵琶湖博物館セミナー室	24名 (全体で)
2月14日	第三回勉強会	琵琶湖博物館会議室	7名
2月下旬の9日間	第五回採水調査	淀川水系	12名
3月7日	水質調査実習	琵琶湖博物館実習室1	5名

地域交流活動への支援事業

(1) 地域活動の支援（博物館内）

月	日	団体名	参加者数	タイトル・内容	区分	場所	対応者
4月	19	同志社女子大学	30	魚から琵琶湖の環境を考える	講師	実習室	前畑
	23	セタジジミ祭実行委員会	170	琵琶湖の歴史と固有の生物	講師	ホール	松田
	26	関電プラント(株)労働組合	50	びわ湖の魚	講師	セミナー室	秋山
	26	日本化粧品技術者会	150	琵琶湖博物館の環境を扱った展示	講師	ホール	布谷
	26	滋賀県立大学	22	琵琶湖の環境を考える	講師	会議室	前畑
5月	17	啓山会(野洲市)	20	琵琶湖の魚と環境	講師	会議室	前畑
	24	京都造形芸術大学	34	びわ湖の魚と環境、そして人	講師	セミナー室	前畑
	24	京都造形芸術大学	34	琵琶湖の水草が増えている	講師	会議室	芳賀
	27	京都大学農学部国際交流室	40	フェアブルにまなぶ展について	講師	企画展示室	八尋
6月	14	世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策活動組織乗倉結の会	38	環境を意識した農業を行うための基礎知識	講師	セミナー室	中島
	14	しゃくなげ学校未来塾	8	民俗資料の意義と利用価値の再発見、地域文化の探求・継承ネットワークの形成など	講師	しゃくなげ学校(日野町)	中藤
	15	高月町地域女性会	45	琵琶湖の魚と環境、そして人	講師	セミナー室	前畑
	17	若鮎保育園(守山市)	33	琵琶湖にまつわる食体験	講師	生活実験工房	中藤
	25	中国雲南省昆明市	8	琵琶湖博物館の展示	講師	会議室	楊
	29	こだわり滋賀ネットワーク農と食のコーディネーター養成講座	28	魚はなぜ田んぼをめざすのか	講師	実習室	前畑

月	日	団体名	参加者数	タイトル・内容	区分	場所	対応者
7月	9	シニア自然カレッジ	20	琵琶湖の魚と環境	講師	セミナー室	秋山
	10	シニア自然大学	68	琵琶湖の環境変化について講義、および湖岸観察	講師	セミナー室	芳賀
	10	シニア自然大学	68	琵琶湖周辺の昆虫について講義、および企画展示「ファールにまなぶ」の解説	講師	セミナー室	八尋
	10	ディサービスラポ	7	昔くらし体験	講師	生活実験工房	中藤
	12	大津商工会議所	40	近江はたおり探検隊の活動紹介	講師	生活実験工房	中藤
	12	大津商工会議所	40	企画展示「ファールにまなぶ」解説	講師	企画展示室	八尋
	13	滋賀の食事文化研究会	40	旬の伝統食をつくる、くらしと食	講師	生活実験工房	中藤
	15	シニア自然大学	70	昆虫、「ファールにまなぶ」	講師	セミナー室	八尋
	15	シニア自然大学	70	琵琶湖の植物、特にヨシについて	講師	セミナー室	布谷
	23	全トヨタ労連(大阪トヨレット労組)	189	私たちの暮らしと琵琶湖の関わりについて	講師	ホール	秋山
	24	滋賀県健康福祉部子ども青少年局、同青年国際交流機構	37	体験活動	講師	生活実験工房	中藤
	27	中国青年代表团	60	琵琶湖の歴史、琵琶湖地域の生物・環境	講師	トップツアー株式会社	楊
31	空の会	35	ヨシの役割	講師	会議室	布谷	
8月	3	木之本赤尾地区(和郷豊暁の里)	30	水田地帯の生き物	講師	実習室	松田
	3	滋賀短期大学	20	自然と人間 琵琶湖の環境	講師	会議室	布谷
	3	滋賀短期大学	20	びわ湖の魚と環境	講師	会議室	前畑
	17	南あわじ自治会農地水保全活動	40	琵琶湖の水環境保全の取り組みについて	講師	セミナー室	小川
	21	伊川を愛する会	50	滋賀県の魚のはなし	講師	ホール	秋山
	23	清風高校	469	琵琶湖の環境と魚類	講師	ホール	前畑
	31	日本科学史学会生物学史分科会夏の学校実行委員会	10	カワウによる「森林被害」を通して鳥獣害問題の変遷を考える	講師	会議室	亀田
9月	2	大阪歴史博物館	40	はしかけ制度の概要と活動	講師	セミナー室	中島
	3	三重県立三重子どもの城	24	琵琶湖の魚と環境	講師	会議室	前畑
	6	自由民主党富山県支部連合会	70	琵琶湖の魚と環境、人	講師	セミナー室	前畑
	13	近畿大学	120	琵琶湖の漁業の現状と課題	講師	ホール	磯田
	13	大阪歴史博物館	40	はしかけ制度の概要と活動	講師	セミナー室	中島
	19	桃山学院大学	8	博物館とは何か	講師	応接室	布谷
	25	ディサービスラポール	8	昔のくらし体験	講師	生活実験工房	中藤
	28	京都女子大学文学部	28	館のコンセプト、特質について	講師	セミナー室	高橋

月	日	団体名	参加者数	タイトル・内容	区分	場所	対応者
10月	1	JTB 大津支店	22	琵琶湖の魚	講師	セミナー室	秋山
	4	立命館大学学術本部	130	琵琶湖の環境と暮らし	講師	ホール	戸田
	10	湖国すまい・まちづくり推進協議会	30	琵琶湖と山の現状報告	講師	セミナー室	西村
	12	宇根野ヶ原を守る会	47	たんぼと琵琶湖 魚とたんぼ	講師	セミナー室	小川・磯田
	15	若鮎保育園	34	昔の暮らし体験	講師	生活実験工房	中藤
	18	福知山市環境会議	40	琵琶湖の環境と魚類	講師	セミナー室	前畑
11月	6	若鮎保育園	37	昔くらし体験	講師	生活実験工房	中藤
	12	鹿児島県霧島議会事務局	13	琵琶湖の魚と環境	講師	会議室	前畑
	13	亀岡市立西別院小学校	20	学芸員の仕事について	講師	会議室	前畑
	18	Mid-Asia Environmental Conservation Group (アゼルバイジャン共和国 JICA 研修生)	33	琵琶湖の魚と環境	講師	会議室	前畑
	24	地球環境イニシアティブ	20	琵琶湖の環境、昔の暮らし	講師	湖岸およびC展示室	芳賀
	26	兵庫県加小退職校長会	30	人と琵琶湖の歴史	講師	会議室	布谷
12月	16	愛知県土地改良事業団体連合会	60	琵琶湖における農業施設	講師	セミナー室	小川
	23	ディサービスラポール	8	昔くらし体験	講師	生活実験工房	中藤
2月	8	ぼてじゃこトラスト	20	水族展示のバックヤード見学	講師	水族展示	松田
	12	ディサービスラポール	8	昔くらし体験	講師	生活実験工房	中藤
3月	1	子どもの水辺実行委員会	500	体験学習「湖魚の試食」	講師		中藤
	1	子どもの水辺実行委員会	180	体験学習「プランクトン観察」	講師		楠岡
	4	シニア自然大学同窓会	18	古琵琶湖のゾウ化石が教える地球のリズム	講師	セミナー室	高橋
	19	岬町深日南池土地改良区	9	モロコの飼育について	講師	水族水族棟	桑原
	25	香芝市ボランティア連絡協議会	70	当館のはしかけ活動、琵琶湖の環境保全に関する市民活動	講師	セミナー室	布谷

(2) 地域活動の支援（博物館外対応）

月	日	団体名	参加者数	タイトル・内容	区分	場所	対応者
5月	10	京都新聞文化センター	10	山岳と宗教ー高山の考古学・伊吹山ー	講師	京都新聞文化センター	用田
	12	朝日カルチャーセンター	15	山の考古学ー山岳信仰を中心に・伊吹山ー	講師	朝日カルチャーセンター千葉	用田
	19	湖北町立朝日小学校	28	理科環境学習「人と動物の誕生」	講師	湖北町立朝日小学校	中野
	26	大津市立平野幼稚園	57	園外活動	講師	尾上公園および平野幼稚園	西村

月	日	団体名	参加者数	タイトル・内容	区分	場所	対応者
5月	29	滋賀県レイカディア大学	160	コイからみた湖と人間	講師	滋賀県立文化産業交流会館	中島
	29	立命館大学ボランティアセンターBKC	65	ボランティアコーディネーター養成プログラム（はしかけ制度の説明）	講師	立命館大学	中島
6月	10	草津市水環境を守る市民運動協議会	60	水でつながる暮らしと琵琶湖	講師	草津市役所	牧野
	14	ぼてじゃこトラスト	250	外来魚の解説	講師	安土常が浜公園・よしきりの池	秋山
	14	大津市真野北公民館	80	ホテルの観察	講師	大津市伊香立融神社およびその周辺	八尋
	18	甲賀市立土山中学校	65	調査活動の意義について	講師	甲賀市立土山中学校	布谷
	21	伊吹山文化資料館	54	わき水に生息する生物の観察と採集の指導	講師	碓谷・長曾周辺(天野川上流)	秋山
	22	野洲市須原自治会	85	須原魚のゆりかご水田「観察会」	講師	須原自治会	小川
7月	30	彦根市幼稚園教育研究会	72	実技研修（草花遊び・ネイチャーゲームなど）	講師	庄堺公園（彦根市）	西村
	31	ぼてじゃこトラスト	30	天神川で水の中の生き物を見つけよう！	講師	西方寺境内および天神川	秋山
8月	2	子供の会（近江八幡市）	45	野外観察会「魚つかみ体験」	講師	倉橋部町集会所（近江八幡市）および近傍河川	桑原
	3	滋賀県立近代美術館	50	ファーブルが観察した虫たち	講師	滋賀県立近代美術館	八尋
	6	大津市教育研究所	22	夏季研修講座「知っ得？わくわくネチャーウォッチング」	講師	大津市生涯学習センター	西村
	8	湖北町教育委員会	25	理科実験講座「琵琶湖魚類」の講話・コイの咽頭歯標本の作製	講師	湖北町中学校	中島・北村
	8	湖北町教育委員会	20	民俗学講座「琵琶湖を取り巻く人々の暮らしと昔の道具」	講師	湖北町役場	中藤
	9	歯科技工士専門学校関西地区協議会	85	湖の環境と魚	講師	琵琶湖ホテル	前畑
9月	6	大津環境学習活動実行委員会	320	琵琶湖の魚類や生態系について	講師	北小松水泳場	松田
	7	近畿環境市民活動相互支援センター（エコネット近畿）	150	森と湖、そして人をむすぶ鳥：カワウ	講師	京都テルサ	亀田
	18	しが文化芸術学習支援センター	15	連携授業	講師	草津養護学校	中藤
	29	ホテルの学校	39	川の中のいきもの調べ	講師	大津市南郷市民センター	梶永
10月	9	伊吹山文化資料館	50	琵琶湖をめぐる古墳時代首長墓の地域性と歴史的展開	講師	伊吹山文化資料館	用田
	25	福井大学地域貢献推進センター	100	県民参加型の博物館活動	講師	福井大学アカデミーホール	布谷
	25	長浜城歴史博物館・あざい歴史の会	50	浅井郡と琵琶湖をめぐる古墳群	講師	浅井歴史民俗資料館	用田
	27	北海道大学高等教育機能開発総合センター	60	地域について学ぶー博物館でおこる学びの意味	講師	北海道大学情報教育館、北海道開拓の村	布谷
	30	大津市立平野幼稚園	63	園外活動の指導	講師	茶臼山公園	西村
11月	4	大津市立田上幼稚園	39組	園外活動の指導	講師	田上教育キャンプ場	西村

月	日	団体名	参加者数	タイトル・内容	区分	場所	対応者
11月	6	ディサービスラポール	8	昔の暮らし	講師	生活実験工房	中藤
	8	滋賀県立近江富士花緑公園	45	体験教室「森の手作り パークーヘン教室」	講師	滋賀県立近江富士花緑公園 「ふるさと館」	西村
	10	大津市立平野幼稚園	35組	園外活動の指導	講師	茶臼山公園	西村
	20	NPO 法人沖縄県立現代美術館支援会	48	博物館展示を用いたボランティアコーディネーター要請プログラムーびわたんの活動ー	講師	沖縄県立現代美術館	牧野
	23	遊人里グループ(おうみ未来塾九期生)	70	野外活動の指導	講師	大津市膳所周辺の山辺	西村
	28	滋賀大学教育学部附属幼稚園	90	ワークショップ「自然物を使って」	講師	滋賀大学教育学部附属幼稚園	西村
	30	竜王町新村自治会(グリーンパルズ新村)	15	淡水魚の学習会	講師	大谷池・大谷川(竜王町)	桑原
1月	15	湖南地域みずすまし推進協議会	80	魚のゆりかご水田	講師	イオンモール草津	小川
2月	13	守山市教育委員会	13	人びとの暮らしから見る環境教育	講師	美崎公園パークセンターとその周辺	中藤
	16	国立教育政策研究所	50	科学館・博物館と学校の連携に関する研究について	講師	国立教育政策研究所	戸田
3月	4	草津市立高穂中学校	5	綿の作品づくり入門	講師	草津市立高穂中学校	中藤

(3) 博物館ガイダンス

月	日	団体名	参加者数	場所	対応者
4月	9	日本新聞協会主催第26回日中記者交流計画	15	会議室	楊
5月	9	鳥取県生活環境部衛生環境研究所	4	事務室	芳賀・前畑
	1	長浜市小沢町婦人会	25	会議室	前畑
6月	10	雷鳥会	21	会議室	前畑
	15	高月町地域女性会	45	セミナー室	前畑
7月	5	シニア自然大学	60	セミナー室	前畑
	15	鶴岡市議会事務局	10	応接室	前畑
	24	滋賀県健康福祉部子ども・青少年局	37	会議室	中藤
8月	5	六箇環境保全会	120	ホール	小川
	8	北方領土返還要求運動滋賀県民会議	7	会議室	前畑
	27	東北学院大学	90	ホール	布谷
10月	1	JTB 大津支店	21	会議室	秋山
	7	大津市木戸学区民生児童委員協議会	50	セミナー室	前畑
	18	スポレク滋賀2008トラベルセンター	50	セミナー室	前畑
	25	名古屋民放総務連絡会	15	会議室	前畑
	30	油ヶ淵悪水土地改良区	20	会議室	小川
11月	1	出雲玉造資料館	24	会議室	布谷
	13	尾張西部排水対策推進協議会	40	会議室	小川
	14	滋賀県下水道公社	20	会議室	前畑
	15	水と緑の自然大学	50	うみっこ広場	前畑
1月	28	入間市	2	応接室	中島
	30	知多市環境審議会	17	会議室	前畑

月	日	団体名	参加者数	場所	対応者
2	11	下槻瀬地区自然保全隊	34	会議室	前畑
月	27	千葉県博物館協会	4	会議室	前畑
3	1	熊野古道語り部友の会	25	会議室	高橋
月	3	千葉県立現代産業科学館	2	図書室	前畑

(4) 質問コーナー・フロアトーク

当館では“学芸員の顔が見える博物館”を目指している。その一環として情報センターの一角に「質問コーナー」を設置し、学芸職員が日替わりで担当し質問を受け付けるとともに、当日の来館者に展示室での「フロアトーク」を実施している。館長も、月一回程度、質問コーナーを担当している。当コーナーでは、利用者が自分で調べることを応援することに重点をおいている。質問には、その日の担当学芸職員がその場で対応するようにしているが、専門的な内容を含む質問等の場合は、それぞれ専門の学芸員に回答を依頼したり、後日、回答したりすることもある。また、電話等による相談にも応じている。受け付けた質問の件数および内訳は別表の通り。

当コーナーでは、図書室入り口の壁に、担当学芸職員の予定を掲示している。担当者の予定を示すことにより、専門分野の担当者がある日に質問に来てもらえるよう配慮したものである。

質問コーナーにおける質問内容

期 間	2008年4月1日～2009年3月31日	
総質問数	579 件	
質問形態	来訪による質問	448 件
	電話での質問	131 件
対応方法	担当学芸職員が対応	448 件
	専門学芸職員（または外部）に依頼	149 件
	その他	11 件

情報発信活動

(1) 通信網を利用した館外への情報提供

来館者や遠隔地の利用者に対する電子的な情報提供手段については、開館以前から種々実践しながら検討を進めてきたが、2004年度までにwww（いわゆる「ホームページ」）を利用したシステムに一本化された。このシステムでは、インターネットを經由して博物館のページに接続することにより、展示案内・行事案内・交通案内などの情報を利用したり、博物館資料のデータベースや各種の学術情報を検索利用することができる。

実際の運用は、データベースや電子交流システムなど利用者からの反応に応じて異なる情報を提供する「動的サーバ」と、それ以外の一般的な情報を提供する「静的サーバ」の2台で分担しており、アクセス状況に関する統計も独立に計上されている。2008年度における各サーバのアクセス件数は下表のとおりであった。

インターネットページ（静的サーバ）へのアクセス件数

	総ヒット数	ページヒット数	連続アクセス	表紙アクセス	表紙開始アクセス
4月	2,156,525	515,641	81,661	17,388	10,247
5月	2,833,132	596,676	100,563	20,979	9,874
6月	2,855,788	559,993	96,630	19,516	7,045
7月	3,136,185	636,968	109,750	22,967	12,761

	総ヒット数	ページヒット数	連続アクセス	表紙アクセス	表紙開始アクセス
8月	3,570,756	688,904	119,895	25,495	15,582
9月	2,314,376	503,907	89,686	17,248	10,731
10月	2,221,401	502,847	84,321	16,079	9,879
11月	1,912,974	448,407	75,699	13,296	8,093
12月	1,540,632	383,536	69,196	11,426	6,949
1月	1,676,404	400,400	68,867	13,834	8,312
2月	1,862,298	408,111	69,353	15,276	9,025
3月	1,642,250	388,191	72,755	15,620	9,549
合計	27,722,721	6,033,581	1,038,376	209,124	118,047

総ヒット数：サーバに対する全ての種類のデータ要求の総数（但し、博物館内部からの要求は除外）各ページの定義ファイルはもちろん、ページを構成する画像ファイルの要求も含まれる

ページヒット数：「総ヒット数」のうち、各ページの定義ファイルに対する要求の件数

連続アクセス：同一利用者が概ね1時間以内に再度アクセスしたと思われるものは合わせて1件と数えた場合のアクセス件数（博物館内部からのアクセスは除外）

表紙アクセス：「連続アクセス」のうち、ウェルカムページ（表紙ページ）を経由したアクセスの件数（「表紙から入った」ものと「表紙へ戻った」ものとの合計）

表紙開始アクセス：「表紙アクセス」のうち、最初にウェルカムページにアクセスした件数

「エリアキャッシュ」を利用して利用者側の組織内で情報を再使用している場合は、合わせて1件しか計数されない。

インターネットページ（動的サーバ）へのアクセス件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
セッション数	402	583	484	651	607	458	529	694	434	614	676	416	6,548
絞り検索回数	173	220	197	334	178	248	270	385	219	191	306	339	3,060
データ閲覧件数	4,582	6,101	4,556	2,848	4,413	9,707	4,738	11,194	6,052	6,721	4,760	5,031	70,703

セッション：サーバ側が絞り検索を実現するために認識している「同一ユーザによる連続した」アクセスの集合

※博物館内部からのアクセスは計数していない。

《インターネットページの更新》

当館のwwwページは、1996年12月25日に運用開始した後、1998年10月18日に全体を置き換える形の大規模な更新を実施し、さらに2002年5月28日には、コンテンツ（情報提供の目的となる本来の情報）は保持しながらリンク（目的の情報へ行き着くための誘導情報）の構造を大幅に見直す形の更新を行ってきた。また2005年度には「広報媒体」としての機能強化のため、大規模な更新作業を行い、コンテンツの充実を図ってきた。今年度はこの成果を踏まえて、さらに広報媒体として効率的に機能するよう、特にイベント情報などの高い鮮度を要する情報が効率的かつ効果的に発信できるような構造変更を行った。特に顕著な成果としては、イベントカレンダーと質問コーナー担当者情報の統合、および常設展示の詳細紹介（旧「仮想見学ツアー」）の再整理があり、この2つは共に年度末に公開を実現した。

また、昨年度に引き続き、更新業務を保守管理業務の一部として委託請負業務として実施した。特に、たまたま今年度から担当者が交替したことを利用して、業務委託態勢を見直して、更新作業の属人性を排除できるような（担当者が交替しても同じように遂行できるような）態勢の実現を目指した。

(2) 通信網を利用した双方向の情報交換サービス

博物館側からの一方的な情報発信だけでなく、来館者や遠隔地の人からの情報を受ける活動も含めた双方向の情報交換を実現するためのサービスを、電子メールを利用して展開している。

開館以来、質問、感想、要望などを受け付ける専用の電子メールアドレス（query@lbm.go.jp）を設け、受付担当者が受け付けた電子メールを内容に応じて専門の学芸職員に割り振って回答するサービスを行っている。2008年度は全部で165件（ウィルスメール・スパムメール・一方的な情報提供を除く）のメールがあり、その内容は

以下のようなものであった。

専門的内容を含む質問	103
地学 (3) ・生物：植物を除く (77) ・植物 (13) 歴史・民俗 (3) ・環境：人と自然の関わりも含む (7)	
施設利用・行事などの問い合わせや依頼	10
情報掲載依頼 (リンク許可・サイト登録を含む)	16
資料の提供・利用、収蔵資料についての問い合わせ	2
館の運営についての意見	2
館の運営についての問い合わせや依頼	33
館の案内資料の請求	3
合 計	165

()は内数

回答に応答しての追加質問など、継続したやりとりは、合わせて1件とした。
担当者を特定して問い合わせ等を行うために設定した電子メールアドレスへのメールは計数していない。
具体的には、一般利用者に公表されているメールアドレスとしては以下のものがある。

photo@lbn.go.jp 画像データベースに関する問い合わせ・要望・情報提供
db-admin@lbn.go.jp データベースに関する連絡
dantai@lbn.go.jp 団体利用に関する問い合わせ・打ち合わせ
meteo@lbn.go.jp 気象情報提供に関する各種連絡
jisshu@lbn.go.jp 学芸員実習に関する問い合わせ
hashi-adm@lbn.go.jp はしかけ制度に関する問い合わせ
press@lbn.go.jp 記者発表や報道資料提供に関する問合せ先

(3) 印刷物

品 名	サイズ	ページ数	発行部数
うみっこ通信 1号	A4	4	25,000
要覧 8版	A4	35	700
英文小冊子(A Brief Guide to the Galleries)	A4	16	2,000
「フェアブルにまなぶ」スタンプラリー用紙	B4		20,000
日仏友好百五十年記念国際シンポジウム『ジャン・アンリ＝フェアブル』 ポスター	A2		500
日仏友好百五十年記念国際シンポジウム『ジャン・アンリ＝フェアブル』 チラシ	A4		3,000
ギャラリー展示「細密画で見る琵琶湖の水鳥たちー鳥の羽根に想いをこめてー」	A4		3,000
ギャラリー展示「うるわしき琵琶湖よ永遠に～父子の見た湖国～」	A4		5,000
広報用「琵琶湖&川の魚」カレンダーポスター	A1		4,000
広報用「琵琶湖&川の魚」チラシ	A4		150,000
広報用「カード型リーフレット」	名刺サイズ蛇腹折り		50,000

Ⅱ 環境の整備

1 拠点としての施設整備

(1) 利用者用施設の整備

来館者用駐車場から博物館への経路に、誘導と道中を楽しくすることを目的として、琵琶湖や滋賀県に関連したクイズ表示板を設置した。

また、屋上広場のトップライトカバーに転落防止柵を設けるなど、より安全に博物館を利用していただくための施設整備を行った。

(2) 情報システムの整備

2008年度は以下のような更新、追加整備等を行った。

1) 機器の更新

故障するなど老朽化が進行している機器を主にリースによって更新した。今年度新規導入した主な機器は、以下のとおりである。

ノート型パソコン (Windows) 15 台

ネットワークプリンタ (ジェルジェット) 5 台

また、2009年度は県の方針としてリースによる情報機器の更新を行わないことになったので、その対策としてリースを終了した機器を廃棄せず、修繕によって継続使用を可能にした。

2) ソフトウェアの追加開発

予算がなくなったため、毎年行ってきたソフトウェアの追加開発を実施しなかった。

3) セキュリティ強化のための措置

情報システムのセキュリティを確保するため、セキュリティ対策のための各種ソフトウェアについて、最新の情勢に応じたバージョンアップを継続的に行った。

(3) 来館者アンケート調査結果

1) 目的

博物館利用者のニーズや満足度を的確に把握しながら、今後の博物館運営や展示の企画、広報活動のあり方などを考え、利用しやすい博物館づくりを進めるため、来館者アンケートを年3回実施している。

2) 実施時期と方法

アンケートを実施する日程は原則として平日と休日を含んで連続する3日間とし、アンケート用紙は来館者への券売時に毎日1,000枚を限度として手渡して配布し、アンケート協力をお願いをしている。アンケート記入台はアトリウムと玄関横の計2箇所に設置し、券売時に配布したものは別にアンケート用紙を置いている。2006年度から出口付近にアンケート調査ご協力の案内看板を設置することで回収率をあげている。

2008年度の実施内容は以下のとおりである。

第1回	2008年8月22日(金)～24日(日)	回答者数	335名
第2回	2008年11月22日(金)～24日(日)	回答者数	404名
第3回	2009年3月20日(金)～22日(日)	回答者数	361名

2007年度は第2回調査を12月に実施したが、2008年度は2006年度以前のデータと比較を容易にするため、2006

年度以前と同じ11月に調査を実施した。

3) 調査内容

来館回数、博物館来館のきっかけ、滞在時間、満足度、および記入者自身のおよその年齢、性別、住居地域は、毎回共通の調査項目となっている。2008年度は基本的に2007年度調査と同じ調査項目で調査を実施した。ただ、企画展開催期間中の8月の調査では企画展示に関する質問を追加した。

4) 傾向

①・リピーター

夏休みおよび春休み期間中に実施した第1回および第3回の調査では「はじめて」の方が50%以上と11月の47.5%と比較して、多少多い傾向があり、休み期間中に観光客が多いことを反映しているものと思われる。逆に4回以上来館された「リピーター」は11月の方が多い傾向があった。

②口コミ

来館のきっかけとなった情報源は例年と同じく、友人・知人、家族・親戚による口コミが多かった。2007年度と比較して、琵琶博物館のウェブサイトを利用した方の割合が1.6%から5.6%増加した。これは2007年から2008年にかけて当館ウェブサイトを一新した効果が現れたものと想像される。

③満足度

「琵琶湖博物館中長期基本計画」第二段階の数値目標として、来館者アンケートの満足度調査（博物館を訪ねて「非常に満足した」と「満足した」を合わせた満足度）で「年3回平均目標値80%」達成することがあげられている。2008年度の満足度の平均は85.2%でこの目標値を大きく上回っている。各回とも84.5%から85.6%とほぼ同じ値を示していた。また「やや不満である」「不満である」は最高でも1.2%と低く、高く評価できよう。

④不満

不満に思うことに多くあげられているのは例年と同じく駐車場とレストランである。駐車場は博物館までの距離が長く、レストランは繁忙期には客があふれ、待ち時間が長くなるためと考えられる。そのほかにあがっている観覧料金は2009年4月から改定になり、子ども料金が無料になった。昼食場所については案内板などに工夫をすることにより、不満は減少するものと期待される。

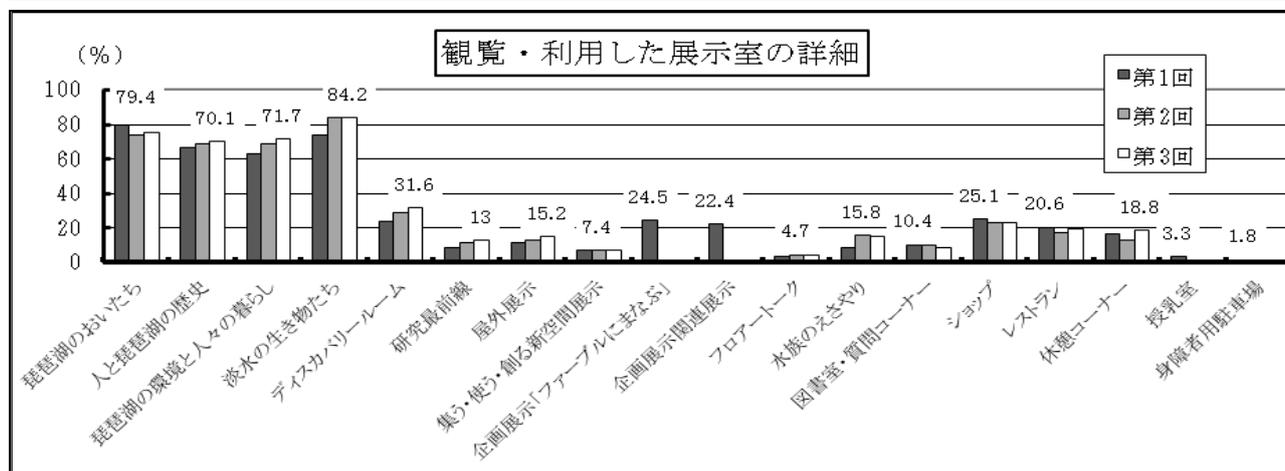
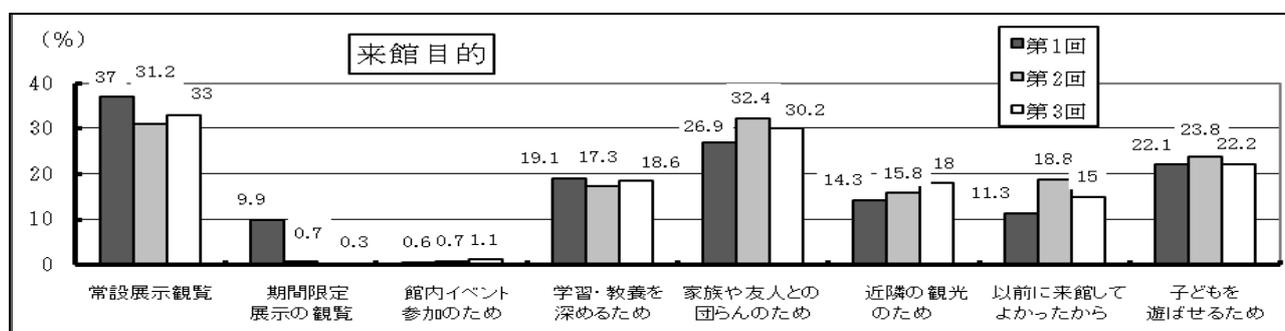
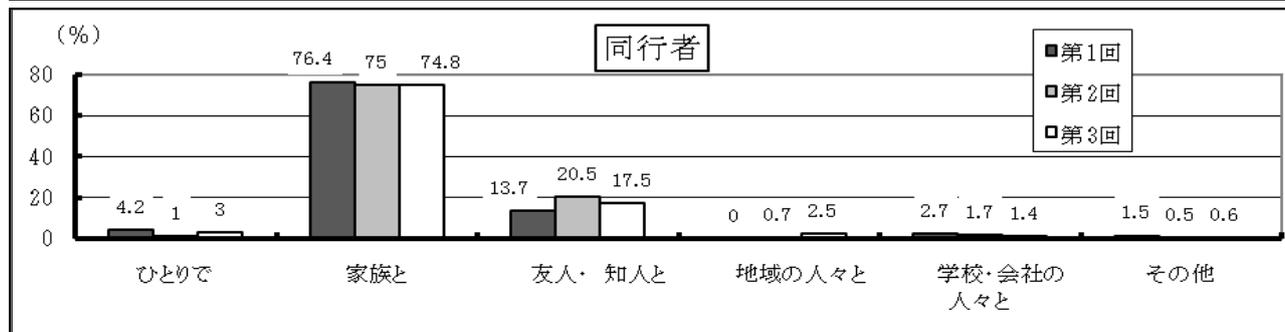
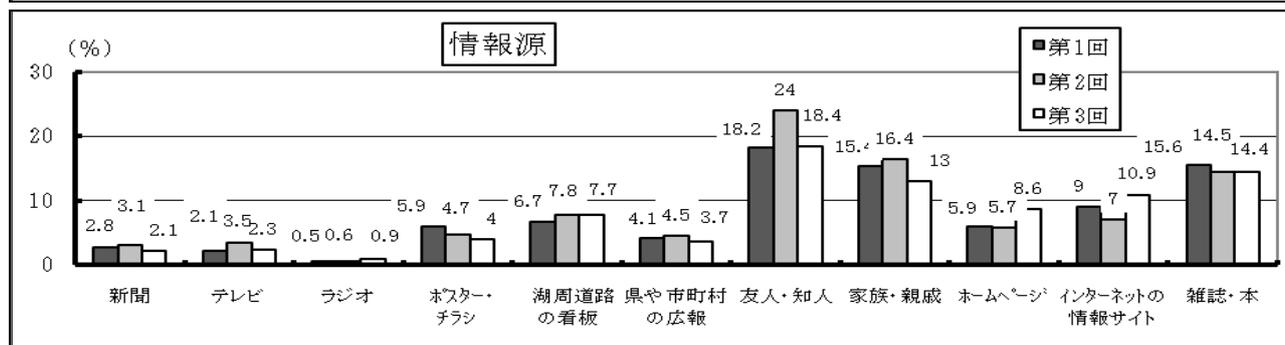
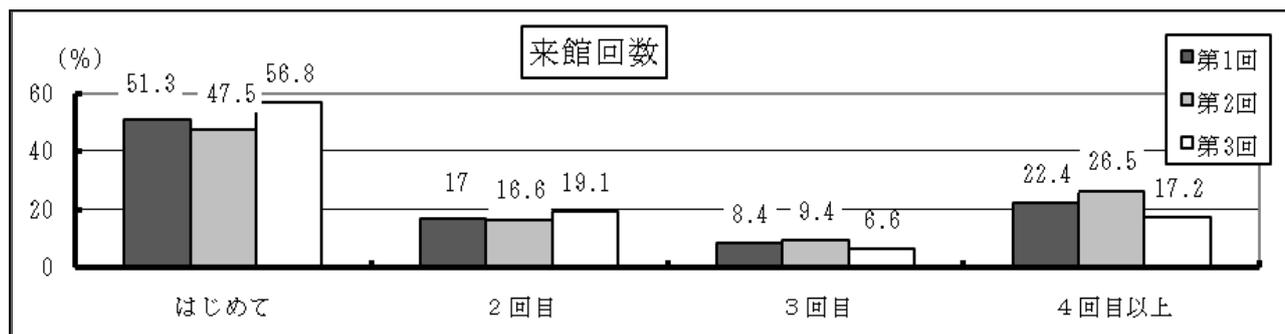
⑤来館目的

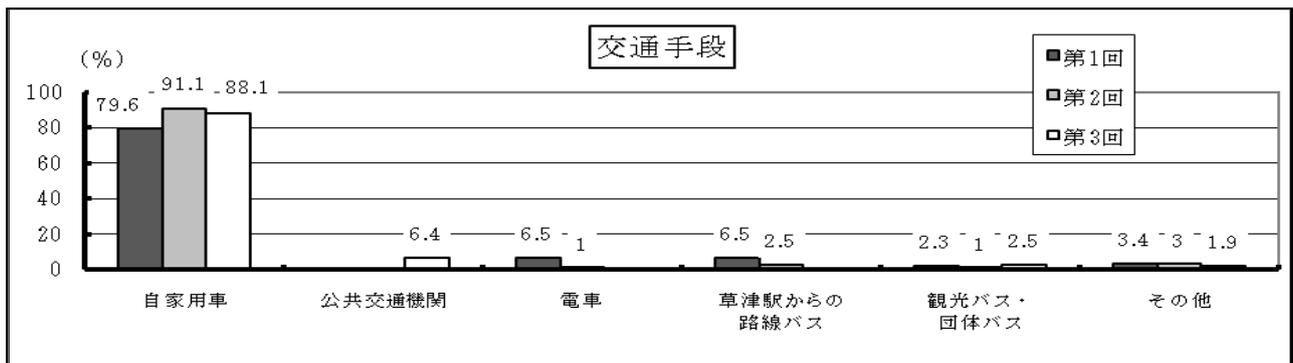
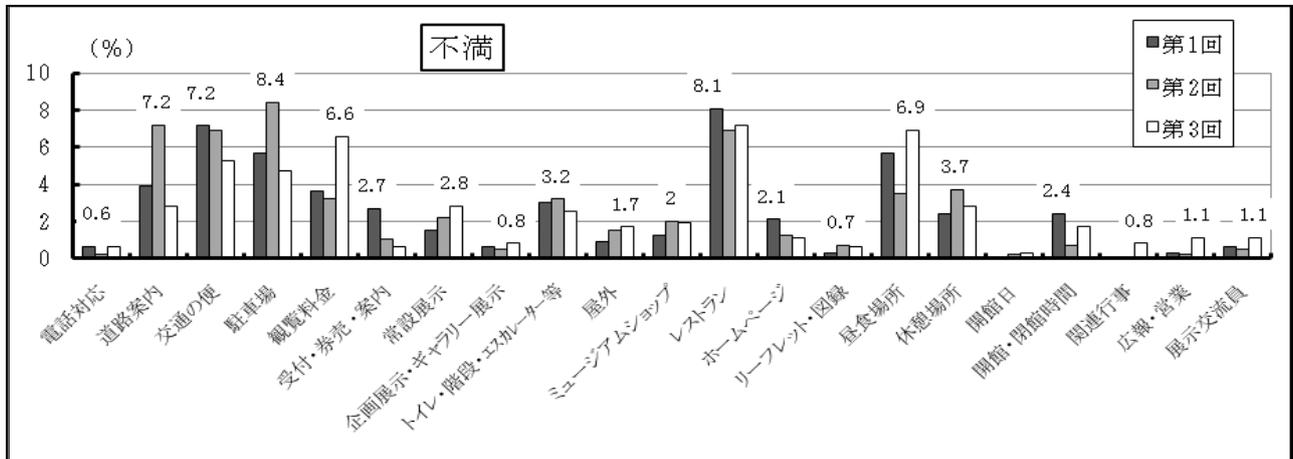
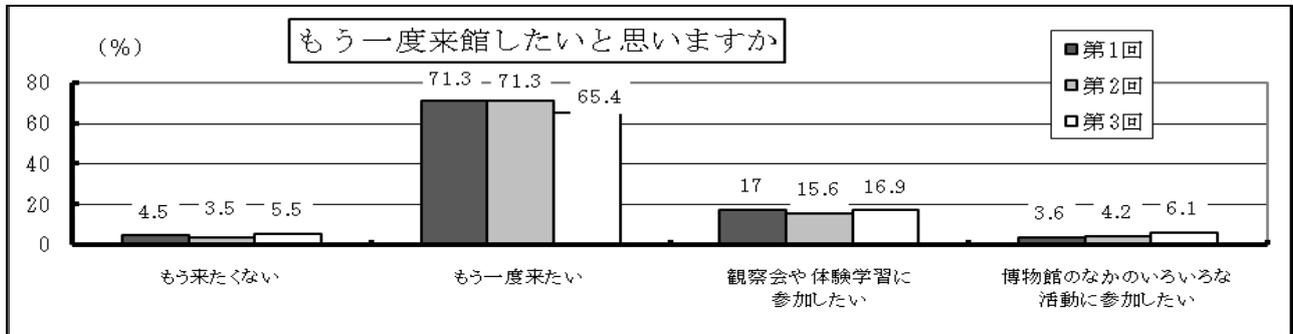
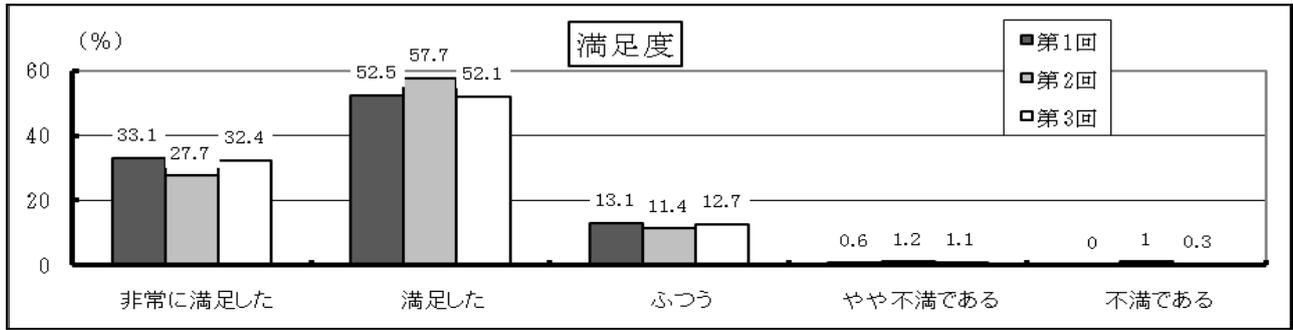
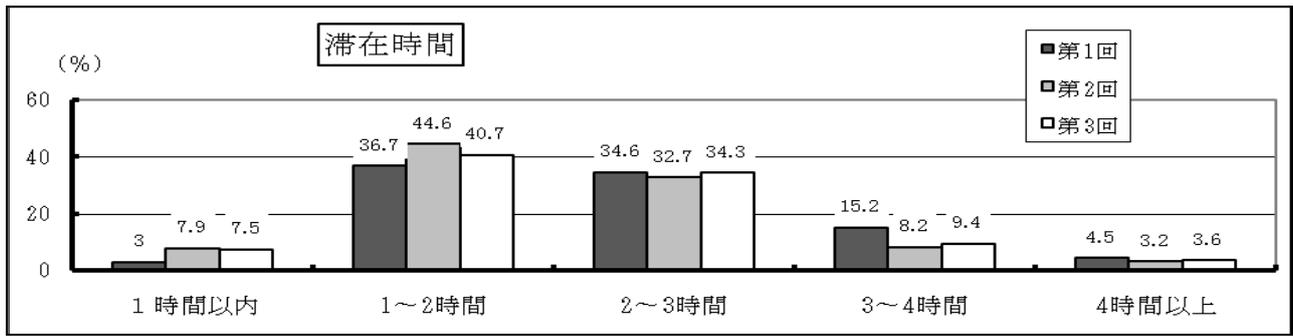
8月の調査で来館目的が「期間限定の展示の観覧」が2007年は2.8%であったのに対し、2008年は9.9%と増加した。これはフェアブル人気によるものだと考えられる。ここでも「常設展示観覧」を目的にしている方は30%以上あり、他の博物館と比べて琵琶湖博物館の特徴である。また、「家族や友人との団らん」が30%前後と高く、20%弱の「学習・教養を深めるため」と合わせて考えると、家族や友人と語り合いながら、博物館で何かを学ぶという琵琶湖博物館の利用形態が浮き彫りになっている。

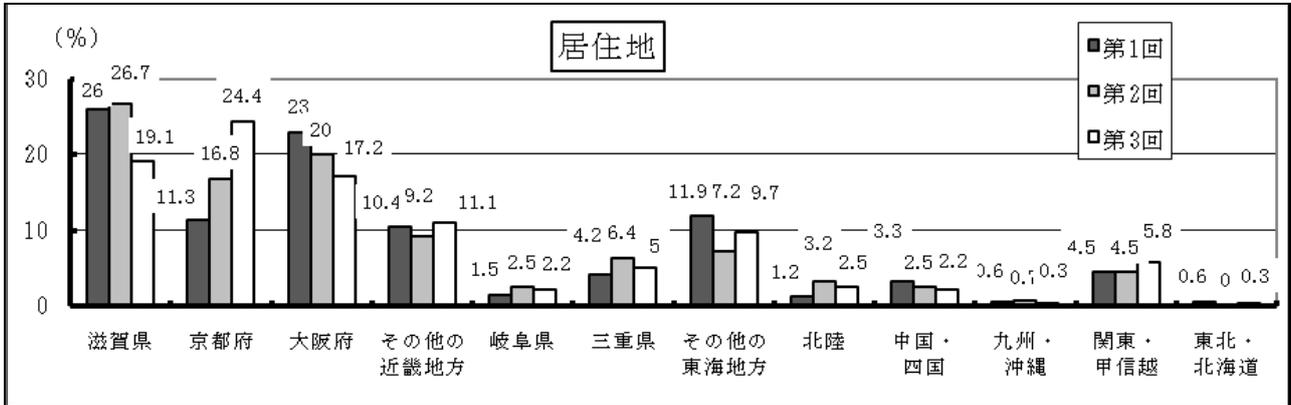
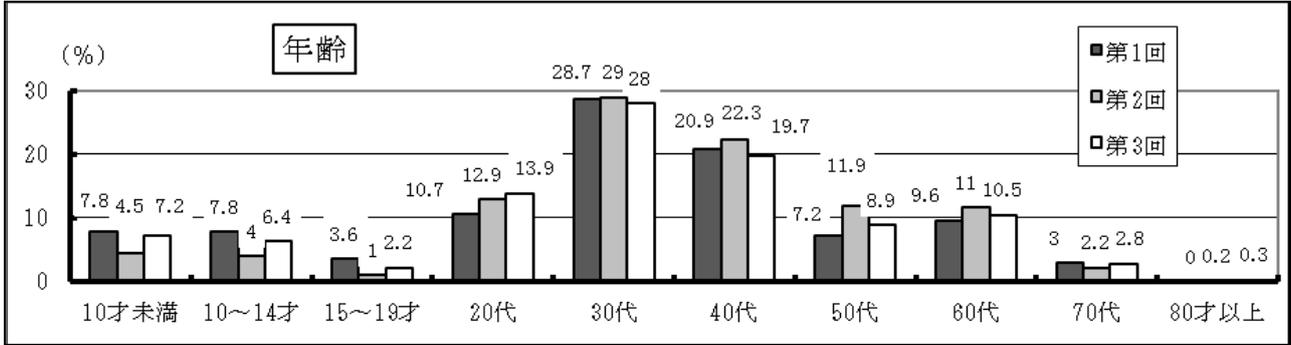
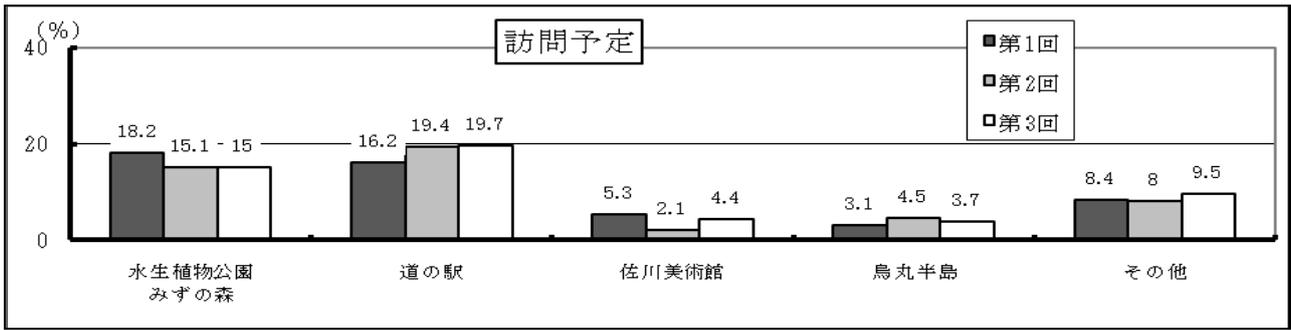
⑥来館者

年齢別では、これまでと同様、30～40歳代が来館者の中心となっている。同行者も70%以上が家族となっており、家族・親子の団らんのための来館者が多いことが伺われる。来館者の居住地をみると、県内率が19%から27%とここ数年で最も低い値を示している。これは2008年度から学校で配布していた催し物案内やニュースレター「うみんど」を中止した影響もあると考えられる。東海地方からの来館者が増加しているが、これは新名神高速道路が開通しアクセスがよくなったためと思われる。

(数値は特に断りのない限り、アンケート回答者数に対する各々の回答数の割合を百分率で示したもの)

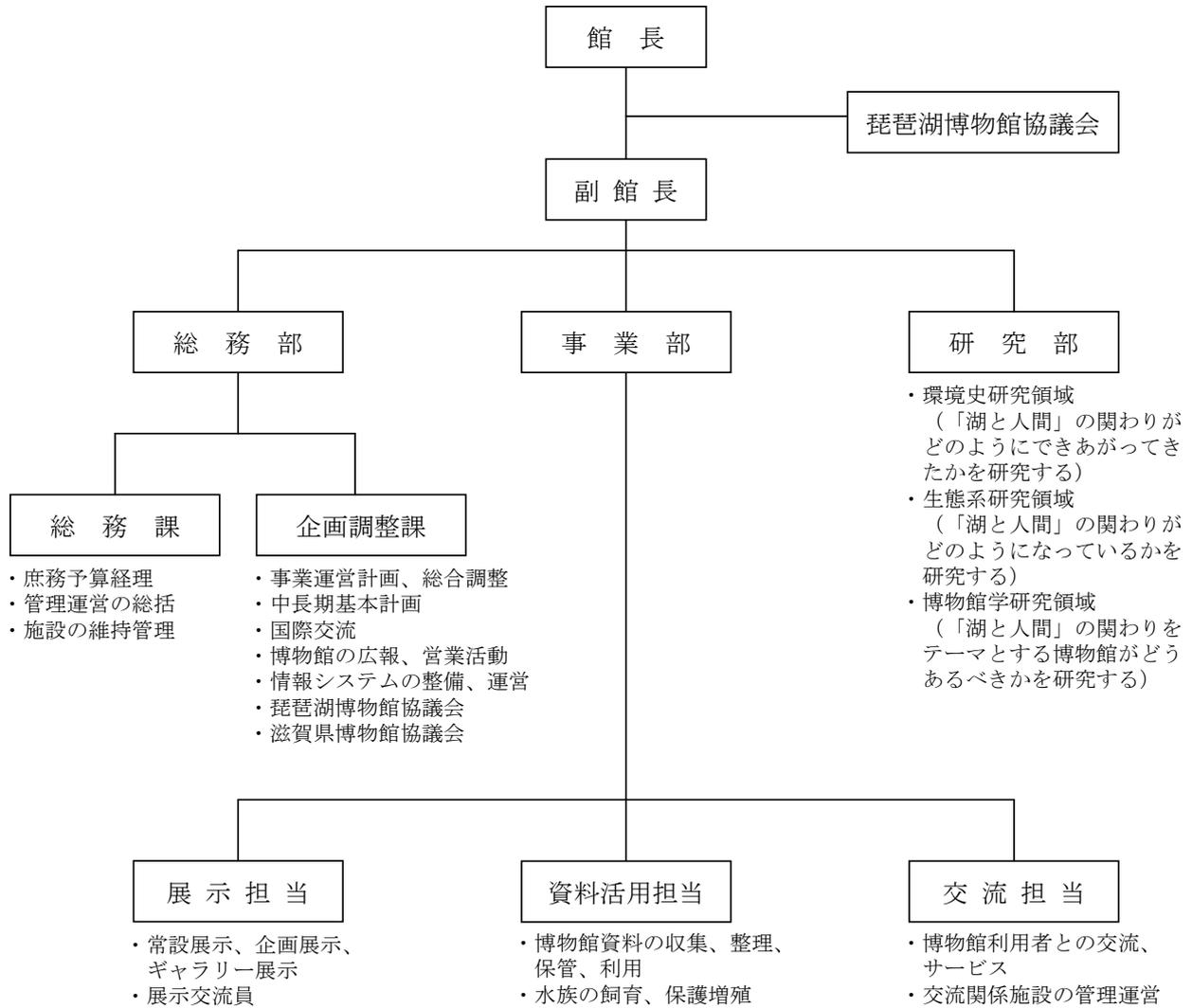






2 柔軟な運営組織

(1) 組織



職員構成 (2008年4月1日現在)

区分	館長(非常勤)	行政職	研究職	教育職	小計	嘱託等	合計
人数(名)	1	11	29	2	43	14	57

(2) 職員

(2008年4月1日現在)

- 館長 川那部 浩哉
- 副館長 阪口 榮
- 上席総括学芸員 布谷 知夫
- 上席総括学芸員 中島 経夫
- 上席総括学芸員 前畑 政善

総務部

○部長 阪口 榮

◇ 総務課

- 課長 竹内 恵子
- 課長補佐(兼) 小島 俊彦
- 主幹 南堀 貞雄
- 副主幹 中島 知子
- 同 井上 雅勝
- 主査 細矢 智美
- 主任主事 山元 恵子

◇ 企画調整課

- 課長(兼) 松田 征也
- 課長補佐 小島 俊彦
- (兼) 山川 千代美
- (兼) 芳賀 裕樹
- (兼) 楠岡 泰
- (兼) 戸田 孝
- (兼) 大塚 泰介
- (兼) ロビン・ジェームス・スミス

事業部

○部長(兼) 高橋 啓一

◇ 展示担当

- G. L. (兼) 桑原 雅之
- (兼) マーク・ジョセフ・グライガー
- (兼) 牧野 厚史
- (兼) 臼井 学
- (兼) 芦谷美奈子
- (兼) 橋本 道範
- (兼) 里口 保文

◇ 資料活用担当

- G. L. (兼) 亀田佳代子
- (兼) 秋山 廣光
- (兼) 草加 伸吾
- (兼) 榎永 一宏
- (兼) 礪田 能年
- (兼) 老 文子

◇ 交流担当

- G. L. (兼) 八尋 克郎
- 主査(併任) 中野 正俊
- 主任主事(併任) 飯住 達也
- (兼) 小川 雅広
- (兼) 西村 知記
- (兼) 中井 克樹
- (兼) 宮本 真二
- (兼) 中藤 容子
- (兼) 楊 平

研究部

○部長(兼) 用田 政晴

◇ 環境史研究担当

- G. L. 総括学芸員 高橋 啓一
- S. G. L. 主任学芸員 里口 保文
- 総括学芸員 用田 政晴
- 専門学芸員 山川千代美
- 主任学芸員 橋本 道範
- 同 宮本 真二
- 学芸員 老 文子

◇ 博物館学研究担当

- 専門学芸員 秋山 廣光
- G. L. 主任学芸員 戸田 孝
- S. G. L. 同 楠岡 泰
- 同 芦谷美奈子
- 同 中藤 容子
- (兼) 中野 正俊
- (兼) 飯住 達也

◇ 生態系研究担当

- G. L. 総括学芸員 マーク・ジョセフ・グライガー
- S. G. L. 専門学芸員 牧野 厚史
- 専門員(兼) 小川 雅広
- 専門学芸員 松田 征也
- 同 桑原 雅之
- 同 八尋 克郎
- 同 亀田佳代子
- 同 芳賀 裕樹
- 主査(兼) 臼井 学
- 主査(兼) 西村 知記
- 主任学芸員 草加 伸吾
- 同 中井 克樹
- 同 大塚 泰介
- 同 榎永 一宏
- 同 ロビン・ジェームス・スミス
- 主任技師 礪田 能年
- 学芸技師 楊 平

注) G. L. はグループリーダー、S. G. L. はサブグループリーダーを示す

嘱託員・臨時的任用職員

小菅由有子	館長秘書	高橋 和征	昆虫資料標本整理
樋口 文子	同	山形(太田) 佳恵	歴史民俗資料整理
山田 陽子	ディスカバリールーム運営	辻川 智代	同
角野 真梨	同 (～H20.7)	上田 康之	実習補助・団体利用受付
藤岡 千裕	同 (H20.7 ～)	野間 孝男	屋外展示運営
福森 弘二	広報・集客	長澤 京子	交流事業
木田 幹夫	展示物の製作・維持補修	夏原 浩子	図書資料整理
中園 健治	微小生物標本整理		

県職員以外の職員等およびフィールドレポーター・はしかけ登録者（掲載承諾者のみ）

◇特別研究員

青木伸子、天野一葉、上中央子、植田文雄、大西 拓、北村美香、黒岩啓子、鈴木誉司、中井大介、中尾博行、野嶋宏二、水野敏明

◇総務事務補助

菊地さとみ、下村美香子

◇研究補助

大島輝美、大橋正敏、太田 学、国分政子、瀬川也寸子、高田千都子、谷川真紀、武富鷹矢、田尾稲子、中山法子、平野文子、細川真理子、山中裕子、山本真彩子、山本友里恵、八尋由佳、辻 美穂、白井幸子、小泉 誠

◇図書資料整理・図書情報利用室運営

中西美智子、野口比佐江、奥田学美、片岡のぶみ、高木成美、

◇情報システム管理

津田厚弘、谷川真紀、佐本 泉、

◇資料整理保存維持管理業務員

石田未基、上中央子、上原千春、太田 学、木下建吾、黒須弘美、

◇水族飼育員

池田康秀、右川洋一、大西 拓、岡田 隆、岡田勇馬、岡本博仁、尾崎侑子、可児裕之、佐藤智之、財間 浩、柴山弘史、武富鷹矢、西村博之、藤井泰正、布施幸江、吉田史子、吉川真一郎、吉田啓一

◇展示交流員

三宅磯司、愛須美由起、芦田弘美、池畑慎吾、井出範子、今泉美保、岩見 勉、奥村恵子、北田昌子、木下睦司、齊藤滋子、齊藤文子、杉本和子、田中 綾、中江美知子、初田幸穂、林 克子、本田幸子、前川桂子、森 智美、弓削宣子、荒井紀子、石川寛子、大林博子、木村美枝、坂井純子、西尾文里、庭野邦子、林 友代、福井明美、柳原徳子、矢野典子、山田淳子、吉田治美、若林方子、渡辺 修

◇常設展示補修

緒方久美、松浦一広

◇企画展示・ギャラリー展示運営

貝増千賀子、白井弘子、

◇警備員、駐車場

内田靖夫、甲斐幸夫、川島 毅、栗原紘八郎、黒田晃次、近藤功一、近藤義博、渋谷弘次、園田與一、高橋喜久男、田川泰之、田中 晃、辻元次雄、土野池周平、永田哲彦、中尾博光、中山邑土、吹上益造、藤井康博、山本 勝、山宮孝二、稲村優子、佐藤義雄、平井和男、長谷川庸康、黒木一也、中村昭夫、西田京平、谷末忠行

◇清掃員

井元繁男、勝島道子、滝 勇男、北川智子、田濃 学、上田 慎也、鈴木淑子、藤本房子、堀井加代、

◇設備管理員

北川 宏、北村康彦、黒川 勲、小崎孝文、酒井芳樹、瀬川 満、竹内和雄、土居都義、廣瀬正尚、伏見庄司、松原 茂、吉井利典、吉浦 修、甲斐幸夫、赤松敏明、

◇屋外清掃

片山俊夫、片山玉枝、黒川よし江、高田明美

◇ミュージアムレストラン

平井芳章、飯田昌子、入江美雪、岩崎由美子、奥野礼子、高坂真理子、駒井知代、島田恵子、長門ゆき、西野久実子、野田典子、前川昌代、美濃部寛美、伊藤一恵、畑 侑里、大塚隆貴、

◇ミュージアムショップ

森 薫、宇野 薫、神田輝子、野口桃子、山元恵子、中村麻衣

◇フィールドレポーター

村上靖昭、前田雅子、加固啓英、森 擴之、多胡好武、高田正一、山崎千晶、三浦美香、小林隆夫、岡崎直純、雲川弘子、田村健太郎、久保穂子、門脇きみ子、中島いづみ、中西 健、井野勝行、津田正澄、大住光男、井上弘司、北川幸雄、松本 勉、小西昌子、奥村恵津子、矢原 功、井門静夫、京 美季男、泉野央樹、泉野尚子、大橋義孝、江竜 昭、水戸基博、水戸涼介、水戸涼乃、東野重信、有田重彦、西崎嘉代子、北川尚弘、澤島 篤、加藤広康、土田正文、北側忠次、武田 繁、肥土マサ子、津田國史、河原絵里、古谷善彦、阪口 進、安井加奈恵、江尻清子、片岡庄一、塚本絹子、中川徳司、田中明子、田中昭一、奥村恵子、中西吉紀、森永紗江子、小原比良司、小林光子、桑村邦彦、桑村加代子、桑村沙織、桑村大地、桑村大和、山形 忠、青山喜博、西林晴美、笹井まち子、岡田幹夫、角井俊明、遠阪聡子、八尋由佳、白井幸子、平井政一、口分田政博、小倉市子、勝見政之、山中佐紀子、寺田 誠、坪田敏男、杉江ミサ子、森村一貴、杉本昌代

◇はしかけ

佐藤亜紀、村上靖昭、手良村知央、手良村知功、手良村昭子、宇尾数行、中尾博行、高田昌彦、水戸基博、水戸涼介、水戸涼乃、鈴木規慈、田中雅也、田中治男、大野貞雄、横田彰子、竹内朝之、川南 仁、北川幸一、岡田文夫、笹井まち子、安井加奈恵、前川英喜、金山雅幸、井手 忍、井手勝紀、片山慈敏、廣田昌昭、西村 峻、西村 悠、西村亜都美、西村寿士、三村鎮雄、橋本昭也、福田尚人、行本宏子、和田至博、板倉孝史、堀 英輔、穴蔵雅彦、田村雅裕、柴田利彦、原田優美、竹内正吾、川田裕元、河田航路、服部彩乃、服部隆義、桑原昌弘、藤田成子、吉井 隆、吉野千栄子、飯田俊宏、前田博美、宮本直興、桑垣 瑞、柳原徳子、森 擴之、日影一正、竹谷満弘、上田修三、新玉拓也、肥土マサ子、高田 登、一木 彰、多胡好武、松本 勉、山本恭一、芝 浩市、山川侑夏、山川美和、山川栄樹、松原孝治、松原正子、斎藤克彦、石橋昂大、石橋要一、石橋英洋、堀井大輔、木下多津江、辻 喜久子、下房地 潤、下房地 隆、佐藤義信、角田典久、栗津愛子、栗津 義、松田道一、米田秀之、永野麻也子、菅原和博、若林裕子、人見竜樹、人見和代、人見幸恵、山中裕子、小澤菜月、小澤桂介、小澤郁乃、大橋正敏、片岡庄一、田邊 穰、嶋村のぞみ、小坂育子、八尋由佳、上原由喜美、大崎淳子、畠山寿枝、中山法子、久保明彦、松田敏男、松田允利、玉藤典一、青山喜博、村上五十三、瀬尾好英、谷村章雄、武田広志、今井 洋、小野悠斗、笹生正則、久保玲子、長澤京子、甲斐朋子、富岡親憲、所 邦彦、石井正臣、山本 篤、北村美香、佐々木信幸、佐々木則子、佐々木満保、佐々木幹朗、木村絵美、森永紗江子、加藤 拓、角藤将翔、今枝直樹、齊藤真琴、齊藤眞由美、大橋 洋、國分政子、藤原 勇、鈴木道弘、桂 雅之、若狭喜弘、石川雅量、津田久美子、田村隆一、平尾 武、小原寿子、西崎嘉代子、中田春美、藤野美由紀、吉野彰一、藤野あぐり、藤野未音、別所宏二、中野光議、別所かおる、芦田弘美、木村美枝、西林晴美、後藤真吾、高田正一、矢原 功、野村昭夫、長濱 脩、本田英樹、倉田英恵、倉田忠彦、中村聡一、佐瀬章男、西村和真、西村優真、西村真樹、西村美香、北側忠次、星野賢史、星野英史、香月利明、片山康夫、武田 繁、前田雅子、沼田 晋、門間正憲、中島美智代、清水華子、後藤和弥、日田琥珀、日田みか、浮田日出男、秋山茂也、原島和雄、田中俊雄、金子弥枝子、朝隈征行、朝隈洋子、辻川智代、鈴木直子、南 和美、立石文代、富田久仁枝、西川 周、西川美喜、角尾千寿子、大谷敏子、松浦孝訓、肥山陽子、広谷ちひろ、廣瀬範香、鴨田真依子、中西寛子、杉山晃規、内藤健太、小林隆夫、竹元冴矢、池田吉政、宮田真美子、中園健治、大富信一、中村公一、佐橋保司、木原靖郎、石井千津、杉本昌隆、宮本哲覚、石田未基、五月女賢司、西村義隆、南川純一郎、南川翔哉、黒川 薫、奥西幸司、川瀬成吾、渡邊 一郎、渡邊康子、瀬川也寸子、遠藤吉三、

3 社会的支援と新しい経営

(1) 利用状況 (2008年度入館者数)

1) 総入館者数

期間：2008年（平成20年）4月1日～2009年（平成21年）3月31日

合計：408,682人 開館日数：308日

一日平均：1,327人

月平均：34,057人

入館者区分別内訳

区分	個人(人)	団体(人)	合計(人)	構成比(%)
未就学児	51,445	4,768	56,213	13.8
小学生・中学生	36,915	66,149	103,064	25.2
高校生・大学生	5,752	9,239	14,991	3.7
一般	180,724	53,690	234,414	57.4
合計	274,836	133,846	408,682	100.0

年月	開館日数	有料入館(人)				無料入館(人)								総計(人)	1日当たり平均(人)
		一般	高大 学生	小中 学生	有料計	65歳 以上	障害者	家族ふ れあい サンデー	体験 学習	こども の日	学校 行事	その他	無料計		
2008. 4	26	12,260	1,842	6,343	20,445	481	703	928	60	0	291	4,356	6,819	27,264	1,049
5	28	22,375	2,120	15,696	40,191	589	1,210	751	132	669	1,056	7,344	11,751	51,942	1,855
6	25	17,321	1,212	10,591	29,124	693	840	734	89	0	1,796	6,707	10,859	39,983	1,599
7	29	23,044	641	7,504	31,189	614	883	934	24	0	1,022	7,730	11,207	42,396	1,462
8	30	37,415	2,642	15,074	55,131	899	1,699	896	103	0	491	11,650	15,738	70,869	2,362
9	21	13,575	905	3,745	18,225	412	861	1,041	54	0	1,326	4,514	8,208	26,433	1,259
10	27	15,319	1,361	13,848	30,528	619	1,259	1,016	40	0	6,592	5,335	14,861	45,389	1,681
11	26	15,665	576	4,832	21,073	486	868	779	173	0	2,891	6,272	11,469	32,542	1,252
12	20	4,422	507	1,425	6,354	132	293	434	9	0	538	1,995	3,401	9,755	488
2009. 1	26	7,744	229	2,138	10,111	239	383	758	67	0	751	3,696	5,894	16,005	616
2	24	8,801	366	2,861	12,028	227	524	966	47	0	803	5,018	7,585	19,613	817
3	26	12,706	876	3,512	17,094	426	785	758	85	0	368	6,975	9,397	26,491	1,019
計	308	190,647	13,277	87,569	291,493	5,817	10,308	9,995	883	669	17,925	71,592	117,189	408,682	1,327

2) 学校等入館者数

年 月		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		大学など	
		学校数	人 数	学校数	人 数	学校数	人 数	学校数	人 数	学校数	人 数
4	全 体	23	2,186	9	1,230	6	1,208	0	0	5	612
	県 内	0	0	1	42	1	240	0	0	1	30
5	全 体	84	6,507	39	5,494	10	1,725	4	88	6	267
	県 内	6	278	4	314	3	335	1	53	1	38
6	全 体	37	3,287	50	7,244	5	894	5	134	1	270
	県 内	13	919	4	486	0	0	5	134	1	270
7	全 体	18	1,529	15	1,440	12	224	5	134	2	294
	県 内	2	233	7	596	12	224	5	134	1	270
8	全 体	10	607	2	94	7	969	1	14	5	126
	県 内	5	154	1	4	0	0	0	0	0	0
9	全 体	35	2,607	3	204	5	194	4	150	6	298
	県 内	16	1,113	2	64	4	150	4	150	0	0
10	全 体	221	18,827	13	1,351	9	831	8	202	1	70
	県 内	86	6,716	7	420	1	127	3	26	1	70
11	全 体	57	4,359	11	1,037	2	66	7	6	4	131
	県 内	34	2,491	4	376	1	43	7	6	1	18
12	全 体	12	990	4	340	6	81	2	33	5	334
	県 内	2	215	3	315	2	35	1	6	0	0
1	全 体	18	1,286	1	90	0	0	0	0	0	0
	県 内	11	783	0	0	0	0	0	0	0	0
2	全 体	22	1,886	4	394	1	29	5	77	0	0
	県 内	6	469	2	155	1	29	3	31	0	0
3	全 体	3	128	2	108	5	520	2	33	0	0
	県 内	0	0	1	84	1	293	0	0	0	0
合 計	全 体	540	44,199	153	19,026	68	6,741	43	871	35	2,402
	県 内	181	13,371	36	2,856	26	1,476	29	540	6	696

3) 月別・曜日別入館者数

年月	日曜・祝祭日	土曜日(祝日除く)	その他	計
2008. 4	9,967	5,426	11,871	27,264
5	22,497	9,705	19,740	51,942
6	16,096	7,169	16,718	39,983
7	17,730	7,311	17,355	42,396
8	16,351	14,549	39,969	70,869
9	14,124	4,691	7,618	26,433
10	12,076	4,428	28,885	45,389
11	14,084	6,602	11,856	32,542
12	4,309	2,046	3,400	9,755
2009. 1	7,285	4,481	4,239	16,005
2	9,038	4,700	5,875	19,613
3	11,866	5,695	8,930	26,491
計	155,423	76,803	176,456	408,682
構成割合	38.0%	18.8%	43.2%	100.0%

(2) 新聞掲載記録

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
4	1	[湖と人と]琵琶湖博物館からの発信<44> 田んぼで増える魚たち 前畑政善上席総括学芸員 / 元琵琶湖博物館専門学芸員の牧野久実鎌倉女子大准教授が丸子船の研究本出版	毎日新聞
	1	『ホンモロコ』写真資料提供	毎日新聞 (夕刊)
	2	湖国 魚と水生動物たち 『ハクレン』 元琵琶湖博物館孝橋賢一主査	朝日新聞(あいあいA I 滋賀)
	2	滋賀の博物館・美術館 87カ所案内、琵琶湖博物館でギャラリー展示「淡海の博物館・美術館」開催中	産経新聞
	5	カムバック!ピワマス 「南湖の名物に」と大宮川に市民ら放流作戦 榊永一宏主任学芸員がピワマスのエサとなるカゲロウの幼虫がいることを確認	朝日新聞
	8	[湖と人と]琵琶湖博物館からの発信<45> 遺跡にみる近江の「交通力」 地勢の利生かし今日の礎築く 植田文雄特別研究員	毎日新聞
	9	湖国 魚と水生動物たち 『カムルチー』 元琵琶湖博物館孝橋賢一主査 / 「川虫探検」で約30種類発見 榊永一宏主任学芸員が捕まえた虫について解説	朝日新聞(あいあいA I 滋賀)
	10	オサムシ知るきっかけに 琵琶湖博物館がインターネットで八尋克郎専門学芸員の研究成果をまとめた「日本&滋賀のオサムシ図鑑」を公開 / 日本新聞協会の日中記者交流計画で来日した中国の報道関係者が琵琶湖博物館などを視察	京都新聞
	12	琵琶湖博物館が企画展示「フェアブルにまなぶ」で個人の自然観察資料を無料で展示	毎日新聞
	15	[湖と人と]琵琶湖博物館からの発信<46> 県域と琵琶湖流域一致 積極的環境政策支える 戸田孝主任学芸員	毎日新聞
	16	琵琶湖博物館が企画展示「フェアブルにまなぶ」の開催に合わせ個人の出展募る	読売新聞
	16	琵琶博にノウハウ学べ JICAの博物館学研修で南米や中東の博物館学芸員が館事情の発表や意見交換	京都新聞
	16	湖国 魚と水生動物たち 『ヤリタナゴ』 松田征也専門学芸員	朝日新聞(あいあいA I 滋賀)
	16	安心院町森の深見川川岸の地層から350万年前のミエゾウの牙発見 高橋啓一総括学芸員の話	大分合同新聞
	17	350万年前の地層から発見されたミエゾウの牙化石を宇佐市教委と琵琶湖博物館が共同で調査	朝日新聞
	17	350万年前の地層からミエゾウの切歯を発見 高橋啓一総括学芸員が確認	毎日新聞
	17	350万年前の泥岩層からミエゾウの牙 宇佐で出土 九州で初、国内5例目 調査した高橋啓一総括学芸員の話	四日市新聞
	18	琵琶湖博物館が一般向けサイエンスシリーズ刊行第1弾はナマズの生態 秋篠宮さまら15人の研究者が執筆、ナマズの繁殖行動について執筆した前畑政善上席総括学芸員のコメント	京都新聞
	22	[湖と人と]琵琶湖博物館からの発信<47> 日仏共同企画展開催によせて フェアブルに学ぼう 八尋克郎専門学芸員	毎日新聞
	23	湖国 魚と水生動物たち 『アブラボテ』 松田征也専門学芸員 / 日仏共同企画「フェアブルにまなぶ」展<上> そこに「昆虫記」の世界 八尋克郎専門学芸員	朝日新聞(あいあいA I 滋賀)
	23	琵琶湖博物館企画展示「フェアブルにまなぶ」の紹介	朝日小学生新聞
	24	昨年大発生の特定外来生物ボタンウキクサを調査していた琵琶湖博物館は分布は守山・草津のみで再び同じ地域で大発生する可能性は低いと発表 芳賀裕樹専門学芸員のコメント	京都新聞
	29	[湖と人と]琵琶湖博物館からの発信<48> 伊吹山の山岳寺院 山伏とつわものどもの跡をたどる 用田政晴研究部長	毎日新聞
	29	フェアブルに学ぼう 「昆虫記」刊行100年記念展、きょうから琵琶湖博物館で開催 八尋克郎専門学芸員のコメント	京都新聞
	29	昆虫記100年でフェアブル展、琵琶湖博物館できょう開幕 川那部浩哉館長のコメント	産経新聞
	29	フェアブル昆虫記 刊行100年、琵琶湖博物館できょうから企画展	中日新聞
	30	湖国 魚と水生動物たち 『イチモンジタナゴ』 松田征也専門学芸員 / 日仏共同企画「フェアブルにまなぶ」展<中> 仏から標本や自筆の絵 八尋克郎専門学芸員	朝日新聞(あいあいA I 滋賀)
	30	琵琶湖博物館催し物の案内(企画展示「フェアブルにまなぶ」)	朝日新聞 (夕刊)
5	1	これを読めば鯰「博士」になれる 琵琶湖博物館が「イメージとその素顔」出版 前畑政善上席総括学芸員のコメント	毎日新聞
	3	「町のフェアブル」集まれ 琵琶湖博物館が開催中の企画展示にあわせ身近な発見の展示場提供 募集を思いついた布谷知夫上席総括学芸員のコメント	朝日新聞
	4	孫との時間を楽しく過ごす 自然を体感できる施設編 琵琶湖博物館の紹介	京都新聞
	12	琵琶湖博物館で昆虫学者フェアブルを紹介する手作り人形劇を楽しむ	京都新聞
	13	[湖と人と]琵琶湖博物館からの発信<49> 門、看板が集落の出入口に 「村の境」の意味を探る 牧野厚史専門学芸員	毎日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
5	14	湖国 魚と水生動物たち 『シロヒレタビラ』 松田征也専門学芸員 / 日仏共同企画「フェアブルにまなぶ」展<下> 皆さんも観察に挑戦を 八尋克郎専門学芸員、館長らのフロアトークのお知らせ	朝日新聞(あいあいA I 滋賀)
	15	琵琶湖博物館で絶滅危惧種のムサシトミヨの稚魚を展示	中日新聞
	16	[ひと交差点] 化石から環境変化を読み取る 高橋啓一総括学芸員	朝日新聞
	16	古文書食う害虫を紹介 琵琶湖博物館で展示「むしとこもんじょ」を開催 / 水質浄化裏付け 鴨川でブユ復活 榊永一宏主任学芸員の話	京都新聞
	18	将来は洗堰操作に反映、国土交通省と市民団体「琵琶湖博物館うおの会」が最適水位調査	朝日新聞
	18	湖岸の施設整備わずか17%、琵琶湖リゾート構想やっと思直し 重点整備地区での数少ない成功例の琵琶湖博物館	産経新聞
	19	琵琶湖博物館「サイエンスシリーズ」発刊 「ナマズ学」1冊に、地震との由縁・生態紹介 前畑政善上席総括学芸員の話	朝日新聞
	20	[湖と人と] 琵琶湖博物館からの発信<50> ゾウ・シカ・ワニも生息 太古の琵琶湖 人々の探求心が大きく貢献 高橋啓一総括学芸員	毎日新聞
	21	湖国 魚と水生動物たち 『カネヒラ』 松田征也専門学芸員 / 琵琶湖博物館催し物の案内(琵琶湖博物館わくわく探検隊「プラばらープランクトンでばらばらまんがー」)	朝日新聞(あいあいA I 滋賀)
	24	琵琶湖博物館がボタンウキクサの分布実態を発表 芳賀裕樹専門学芸員のコメント / 昆虫標本や研究資料など6000点 日仏6博物館の共同企画展「フェアブルにまなぶ」を開催	毎日新聞
	24	生物に悪影響「ボタンウキクサ」局地的分布にとどまる 芳賀裕樹専門学芸員の話	中日新聞
	25	[こどもタイムズ わくわく探検]虫の不思議いっぱい 琵琶湖博物館「フェアブルにまなぶ」展 布谷知夫上席総括学芸員と榊永一宏主任学芸員がこども記者たちに説明 / 昆虫の世界に誘う しが県民芸術創造館で琵琶湖博物館で開催されている「フェアブルにまなぶ」展にちなんだ演奏会、曲の合間に布谷知夫上席総括学芸員が展示会の見どころを説明	中日新聞
	26	[こころの玉手箱]琵琶湖の向こうに西方浄土 嘉田由紀子滋賀県知事 琵琶湖博物館から見た夕日の写真	日本経済新聞(夕刊)
	27	[湖と人と] 琵琶湖博物館からの発信<51> 先生たちも博物館で研修 中野正俊主査	毎日新聞
	28	琵琶湖博物館などの研究チームが謎のプランクトン「Y幼生」の人工的脱皮に成功	毎日新聞
	28	琵琶湖博物館やコペンハーゲン大などでつくる共同研究チームが「Y幼生」の脱皮に成功 謎の甲殻類解明へ	朝日新聞
	28	琵琶湖博物館マーク・J・グライガー総括学芸員とコペンハーゲン大などの共同研究グループが謎のプランクトンY幼生を幼体に変態させることに世界で初めて成功	中日新聞
	28	幼生発見から100年、琵琶湖博物館などの研究グループが世界で初めて謎のプランクトンの人工変態に成功	京都新聞
	28	世界初 100年来の謎のプランクトンの人工変態に琵琶湖博物館と琉球大、コペンハーゲン大の研究者のチームが成功、「イブシゴン」と命名 マーク・J・グライガー総括学芸員の話	産経新聞
	31	[文化]「昆虫記」刊行101年日本で回顧展 フェアブル深き思索者、実証貫き多様性に迫る 川那部浩哉琵琶湖博物館館長のコメント	日本経済新聞
6	1	足跡が語る太古の世界 琵琶湖博物館で化石シンポジウム開催	京都新聞
	1	「足跡化石」の最新成果報告 琵琶湖博物館でシンポジウム開催	中日新聞
	3	[湖と人と] 琵琶湖博物館からの発信<52> 見つめ直そう湖とのかかわり 先人の知恵と努力に学ぶ、環境に配慮した治水利水とは 北村美香琵琶湖博物館特別研究員	毎日新聞
	4	水田で生きるエビ類(アメリカカブトエビ ホウネンエビ)を琵琶湖博物館で展示 / カヌー体験や沖島散策満喫 岐阜県の中学2年生23人が琵琶湖周辺で環境学習 3日には琵琶湖博物館見学	中日新聞
	4	湖国 魚と水生動物たち 『ニッポンバラタナゴ』 松田征也専門学芸員	朝日新聞(あいあいA I 滋賀)
	6	琵琶湖の脅威ボタンウキクサが川や池で越冬可能であることが琵琶湖博物館の調査でわかる 芳賀裕樹専門学芸員のコメント	読売新聞
	6	水上から名所をめぐるおすすめクルージング 琵琶湖博物館の紹介	京都新聞(週刊トマト&テレビ)
	7	琵琶湖の魅力、首都圏で発信 県東京事務所が琵琶湖博物館協力で琵琶湖コーナーを開設し水槽でニゴロブナなど固有種を展示	京都新聞
	10	[湖と人と] 琵琶湖博物館からの発信<53> 魅力ある地域への誘いの場に 老文字学芸員	毎日新聞
	10	[微聞積聞] 虫愛する国で「宝探し」 八尋克郎専門学芸員	東京新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名	
6	10	琵琶湖博物館催し物の案内（人形劇「ふしぎな庭ーふしぎな庭で出会った少年とフェアブル」）	読売新聞（しが県民情報）	
	10	琵琶湖市民大学 温暖化の影響検証 水野敏明琵琶湖博物館特別研究員でWWF ジャパン自然保護室淡水生態系担当が「琵琶湖お魚ネットワーク」の活動紹介	毎日新聞	
	11	明日への命つなぐ 米原の山室湿原でハッチョウトンボ 琵琶湖博物館のコメント	中日新聞	
	11	琵琶湖博物館催し物の案内（企画展示「フェアブルにまなぶ」）	朝日新聞（夕刊）	
	11	湖国 魚と水生動物たち 『ドジョウ』 礒田能年主任技師	朝日新聞（あいあいA I 滋賀）	
	11	〔湖と人と〕琵琶湖博物館からの発信<54> 伝統文化が生んだ水辺景観 楊平学芸技師	毎日新聞	
	17	琵琶湖博物館で指導力向上研修 ピカピカ「先生力」アップ、ブルーギル解剖も 新任58人参加 中野正俊主査のコメント	朝日新聞	
	18	新任教諭ら水環境学ぶ、魚の解剖など体験 新人の小学校教諭を対象にした環境学習の研修会を琵琶湖博物館で開催	京都新聞	
	18	滋賀県は証明書手数料や施設使用料を最大5%値上げへ 一方、琵琶湖博物館では小中学生の入場料や常設展観覧料を無料にする	京都新聞	
	18	湖国 魚と水生動物たち 『ギンブナ』 礒田能年主任技師	朝日新聞（あいあいA I 滋賀）	
	18	昭和初期の桶風呂製造工程 DVD化 老文字学芸員が県立大学院在籍中に取り組んだ研究成果をもとに制作 / 「絶滅危惧」指定の「カゼトゲタナゴ」の幼魚を琵琶湖博物館で展示	中日新聞	
	23	好きな昆虫に大変身 琵琶湖博物館で企画展「フェアブルにまなぶ」にちなみ開催 子どもら昆虫に“へん～しん” 企画展「フェアブルにまなぶ」の開催にあわせて琵琶湖博物館でファッションショー開催	朝日新聞 京都新聞	
	23	〔湖と人と〕琵琶湖博物館からの発信<55> 時空越え 歴史語る街路樹 生きた化石ーメタセコイヤ イチョウ 山川千代美専門学芸員	毎日新聞	
	24	「桶風呂の作り方」映像に刻む 老文字学芸員が県立大学院時代の論文「桶風呂の形態と使用域〜滋賀県を中心とした事例研究」をもとにNPOが作成したDVDが完成上映会	朝日新聞	
	25	湖国 魚と水生動物たち 『ウグイ』 礒田能年主任技師 / 琵琶湖博物館催し物の案内（紙芝居「ボンジュール・フェアブル先生」）	朝日新聞（あいあいA I 滋賀）	
	26	源氏物語に触れ滋賀観光楽しむ「紫の道 湖上シンポジウム」7月12日に開催され、琵琶湖博物館などを見学	読売新聞	
	7	1	〔湖と人と〕琵琶湖博物館からの発信<56> 防虫対策は予防が肝心 資料を食べ汚す文化財害虫 太田佳恵嘱託職員	毎日新聞
		1	琵琶湖博物館企画展示「フェアブルにまなぶ」にちなみ、網を手に児童たちがトンボの宝庫で観察会	中日新聞
		2	羽や触覚手作りし変身、琵琶湖博物館で「昆虫ファッションショー」 / 湖国 魚と水生動物たち 『アブラハヤ、タカハヤ』 桑原雅之専門学芸員 / 琵琶湖博物館催し物の案内（人形劇「不思議な庭」）	朝日新聞（あいあいA I 滋賀）
		5	琵琶湖博物館を幅広く活用して、市民に展示スペースを開放 来春から本格開始化石愛好家グループ「湖国もぐらの会」の成果紹介	京都新聞
		8	〔湖と人と〕琵琶湖博物館からの発信<57> フェアブルと日本人気の背景 布谷和夫上席総括学芸員	毎日新聞
		8	〔ひと フォーカス〕かかわる人たちの思い、もっと理解したい 琵琶湖博物館が取り組む広報活動について、全日本博物館学会奨励賞受賞 北村美香特別研究員	京都新聞
		9	〔歴史に探る 気候変動〕100年で気温7度上昇 花粉が示す古代の温暖化 日本旧石器学会の発表に見入った高橋啓一総括学芸員の話	朝日新聞
		9	琵琶湖博物館などの研究チームが琵琶湖で新種の繊毛虫を発見 「レビコレプス・ピワエ」と命名 楠岡泰主任学芸員のコメント	朝日新聞
		9	繊毛虫の新種 琵琶湖博物館などの研究チームが琵琶湖で発見 楠岡主任学芸員のコメント	読売新聞
		9	琵琶湖博物館などの研究チームが新種の繊毛虫を発見 琵琶湖で初、固有種の可能性も 楠岡泰主任学芸員のコメント	毎日新聞
9		琵琶湖博物館と宮城教育大、ザルツブルグ大の共同研究チームが琵琶湖に新種の原生生物を発見 「レビコレプス・ピワエ」と命名	産経新聞	
9		学術名「レビコレプス・ピワエ」 琵琶湖から新繊毛虫を琵琶湖博物館の学芸員ら発見 楠岡泰主任学芸員のコメント	中日新聞	
9		ゾウリムシの仲間を琵琶湖で新種発見 種の分化を知る鍵に 研究に携わった楠岡泰主任学芸員のコメント	京都新聞	
9		〔遊・YOU・友〕琵琶湖博物館催し物の案内（「夏休み自由研究講座」）	朝日新聞	
9		湖国 魚と水生動物たち 『ニゴイ、コウライニゴイ』 桑原雅之専門学芸員	朝日新聞（あいあいA I 滋賀）	
10		琵琶湖博物館の広報活動とその成果を分析した論文で全日本博物館学会奨励賞受賞 北村美香特別研究員	読売新聞（しが県民情報）	

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名	
7	15	〔湖と人と〕琵琶湖博物館からの発信<58> 近江の食文化、ナレズシの起源は… 揚子江南から東南アジア帯 植田文雄特別研究員	毎日新聞	
	15	〔子育てワールド〕琵琶湖博物館で「ゆめみる昆虫-むしたちのファッションショー」開催 観察、実験繰り返し探求心を 親子一緒に生態学学び衣装作り / 琵琶湖博物館催し物の案内（「回転実験室で水槽実験を！」）	読売新聞（しが県民情報）	
	15	気候変動を映す鏡 忠類のマンモスゾウ化石と北海道の巨象たちが語るもの 高橋啓一総括学芸員のコメント	北海道新聞（夕刊）	
	16	〔「フェアブルにまなぶ」展に寄せて〕① 「むし」を中心に考える 川那部浩哉 琵琶湖博物館長	産経新聞	
	16	湖国 魚と水生動物たち 『ナマズ』 前畑政善首席総括学芸員 / 琵琶湖博物館催し物の案内（「回転実験室で水槽実験を！」） / 老文字学芸員の研究成果など、伊吹山文化資料館でおけ風呂についての展示の案内	朝日新聞（あいあいA I 滋賀）	
	17	琵琶湖の水質保全調査 自民党の特命委メンバーが湖南地域を視察 琵琶湖博物館にも来館	京都新聞	
	17	フェアブルが愛した昆虫の世界 琵琶湖博物館「フェアブルにまなぶ」展の紹介	毎日新聞（オー！ミー）	
	18	〔文化〕「昆虫記」刊行から100年でシンポ なぜ今フェアブル？ 国際シンポジウム「ジャン・アンリ＝フェアブル」琵琶湖博物館で開催 日高敏隆京都大学名誉教授	朝日新聞	
	18	昆虫テーマに日仏シンポ 20日から琵琶湖博物館でシンポジウム開催の案内 / 琵琶湖博物館 ふれあい体験室、要望多く期間限定ですすから再開	京都新聞	
	21	フェアブル「昆虫記」刊行100年 自然保護など意見交換 日仏で文化交流シンポを琵琶湖博物館で開催	毎日新聞	
	21	フェアブル題材に文化交流 琵琶湖博物館で日仏友好記念シンポ開催	京都新聞	
	21	琵琶湖博物館で開催中の企画展示「フェアブルにまなぶ」にあわせた国際シンポジウムで「昆虫記」の写真を今森氏が解説	中日新聞	
	22	〔「フェアブルにまなぶ」展に寄せて〕② 自分の手で、目で学ぶ 生物文化史家 小西正泰氏	産経新聞	
	23	〔「フェアブルにまなぶ」展に寄せて〕③ フェロモンの謎解き 京都工芸繊維大学教授 山岡亮平氏	産経新聞	
	23	湖国 魚と水生動物たち 『ゼゼラ』 桑原雅之専門学芸員 / 「フェアブル昆虫記の世界」展（県立近代美術館）で催される八尋克郎専門学芸員の記念講演会の案内	朝日新聞（あいあいA I 滋賀）	
	26	自由研究 琵琶湖博物館や科学館が応援、親子でテーマ選び学芸員らが易しく解説	日本経済新聞（夕刊）	
	28	〔いきいき学習 しが〕琵琶湖博物館で「体験室を」限定再開	中日新聞	
	29	〔湖と人と〕琵琶湖博物館からの発信<59> 自然の発見や体験を通じ、屋内展示と周囲の地域つなぐ 西村知記主査	毎日新聞	
	30	〔「フェアブルにまなぶ」展に寄せて〕④ アゲハ探しのヒント 京都大学名誉教授 日高敏隆氏	産経新聞	
	30	湖国 魚と水生動物たち 『カマツカ』 桑原雅之専門学芸員	朝日新聞（あいあいA I 滋賀）	
	31	セミの幼虫からバット 東主計の伏木さん方で冬中夏草 琵琶湖博物館のコメント	滋賀夕刊	
	8	5	〔湖と人と〕琵琶湖博物館からの発信<60> 琵琶湖水系はイワナの宝庫 自然度高い源流部で増える 「養殖魚放流で増殖」の風潮再考を 桑原雅之専門学芸員	毎日新聞
		5	フェアブル展に合わせレポーター8人が挑戦 産卵へ試行錯誤重ね、ガのペアづくりで自然の面白さ紹介	京都新聞
5		探求の人生浮き彫りに、ダーウィンとフェアブルの展覧会 琵琶湖博物館の「フェアブルにまなぶ」展ではダーウィンからフェアブルにあてた手紙を展示	日本経済新聞（夕刊）	
6		〔「フェアブルにまなぶ」展に寄せて〕⑤ 科学精神と愛の要素 日本アンリ・フェアブル会理事長 奥本大三郎氏	産経新聞	
6		湖国 魚と水生動物たち 『ズナガニゴイ』 前畑政善首席総括学芸員	朝日新聞（あいあいA I 滋賀）	
6		ピエリ守山の立ち寄りスポット 琵琶湖博物館の紹介	読売新聞（夕刊）	
7		「アニマルプラネット」がエコキャンプ、琵琶湖の生き物に子供たち歓声 WWF ジャパン淡水生態系担当の水野敏明琵琶湖博物館特別研究員が琵琶湖の神秘を解説	産経新聞	
9		熱帯アフリカ原産の水草 ボタンウキクサが越冬出来ることが琵琶湖博物館フィールドレポーターの調査でわかる 芳賀裕樹専門学芸員のコメント	朝日新聞	
9		野洲川の支流でコクチバス繁殖 中井克樹主任学芸員のコメント	産経新聞	
9		櫛野ダムに特定外来生物のコクチバス 17匹が見つかったと琵琶湖博物館が発表	読売新聞	
9		甲賀・砂防ダムで外来魚コクチバスを確認と琵琶湖博物館が発表	中日新聞	
11		琵琶湖の生き物身近に 多賀町立博物館で琵琶湖博物館と提携した「琵琶湖の生き物大集合！」が開催	朝日新聞	
11		親子でかいどり、白鳥川で魚の調査楽しむ 東近江市平田地区まちづくり協議会 「ひらた夢回議」が琵琶湖博物館うおの会の協力で開催	毎日新聞	
11		親子で魚拓作り挑戦、淡水魚の美しさ再認識 琵琶湖博物館で「アート魚拓講座」開催	京都新聞	

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
8	11	球状のくぼみ発見 ナウマンゾウ、忠類に足跡残す?! 高橋啓一総括学芸員のコメント	毎日新聞 (十勝)
	11	ナウマン象 足跡化石か 北海道内初の足跡化石と見られる痕跡を6個発見 高橋啓一総括学芸員のコメント	北海道新聞
	11	太古のロマン今なお 幕別町忠類で数万年の間、象が群れをなして歩いていた 高橋啓一総括学芸員のコメント	北海道新聞 (夕刊)
	12	ナウマンの足跡?興味津々 忠類記念館開館20年の記念見学会に先立ち、高橋啓一総括学芸員らの講演会開催	北海道新聞
	13	湖国 魚と水生動物たち 『カワバタモロコ』 前畑政善 前総括学芸員	朝日新聞(あいあいA I 滋賀)
	13	ふるさと納税へ新条例、素案まとまる 事業の具体例として「うみのこ」新造や琵琶湖博物館の展示など	京都新聞
	15	来館者に好評、琵琶湖博物館の駐車場から入り口までのスロープにクイズパネル設置	中日新聞
	15	駐車場から琵琶湖博物館までクイズを楽しみながら入館を 手作り看板設置 / 琵琶湖・南湖の水草、中央部まで繁殖拡大 10年間で1.8倍「異常な状態」 芳賀裕樹専門学芸員のコメント	京都新聞
	16	なんと!ピンクのドジョウ 木之本で見つかる 琵琶湖博物館のコメント	読売新聞
	16	全国で滋賀ファン確保、「ふるさと納税制度を受けて県が条例の素案まとめる 具体例として琵琶湖博物館の展示事業など	中日新聞
	19	県内4例目、瀬田川で特定外来ナマズの一種チャンネルキャットフィッシュの捕獲を琵琶湖博物館が発表 コメントと写真提供	読売新聞
	19	生態系影響を懸念 外来魚チャンネルキャットフィッシュを瀬田川で捕獲と琵琶湖博物館が発表 コメントと写真提供	京都新聞
	19	琵琶湖博物館が国の特定外来生物に指定されている肉食チャンネルキャットフィッシュが瀬田川で捕獲されたと発表 コメントと写真提供	毎日新聞
	19	2年連続、瀬田川で北米産の肉食性外来魚捕獲と琵琶湖博物館が発表 コメントと写真提供	産経新聞
	20	博物館と連携教育を 琵琶湖博物館で教員向け研修会を開催	中日新聞
	20	ミンガン湖で水質調査 膳所・米原高生、姉妹提携40周年で訪米 珪藻類、琵琶湖と比較へ取り組む 大塚泰介主任学芸員のコメント	京都新聞
	22	「ひと交差点」化石の魅力伝え、子らとふれあい 琵琶湖博物館の常設展示室の一角に「裏山の化石たち」コーナーを設置 湖国もぐらの会代表 飯村強氏	朝日新聞
	23	琵琶湖覆う水草 異常繁殖、南湖の6割占める 芳賀裕樹専門学芸員のコメント	中日新聞
	25	琵琶湖の生物65種を紹介、琵琶湖博物館所蔵の資料を活用して多賀町立博物館で企画展「琵琶湖の生き物大集合! ~琵琶湖博物館もやってきた~」を開催	読売新聞
	25	琵琶湖博物館が「化石は語る—ゾウ化石でたどる日本の動物相」を出版 執筆者の高橋啓一総括学芸員のコメント	中日新聞
	26	ハチやトンボに大変身 琵琶湖博物館で開催中のフェアブル展に子どもら夢中	読売新聞
	27	湖国 魚と水生動物たち 『オイカワ』 前畑政善 前総括学芸員 / 琵琶湖博物館催し物の案内(見学会「古い民家のおけ風呂を見にいこう」)	朝日新聞(あいあいA I 滋賀)
	29	ハン六文化振興財団特別賞に北京五輪「銀」の太田選手、学術賞に県内遺跡の調査と保存に功績のあった用田政晴総括学芸員が選ばれる / 読者応答室 カワヒバリガイ 松田征也専門学芸員	京都新聞
	31	外来魚駆除で研究者ら議論、琵琶湖博物館で特別研究セミナーを開催	中日新聞
9	1	財団法人ハン六文化振興の贈賞式で学術賞に輝いた用田政晴総括学芸員や特別賞の北京五輪銀メダリスト太田選手らに賞状などが手渡された	読売新聞
	1	ハン六文化振興財団の式典で北京五輪「銀」の太田選手に特別賞、用田政晴総括学芸員に学術賞が贈られた	京都新聞
	1	ハン六文化振興財団の特別賞に北京五輪でメダル獲得の太田選手、学術賞に琵琶湖博物館開設当初から尽力してきた用田政晴総括学芸員が選ばれ、授賞式が開かれた	朝日新聞
	1	ハン六文化振興財団の特別賞に北京五輪でフェンシング銀の太田選手、学術賞に琵琶湖博物館の用田政晴総括学芸員が選ばれ、表彰される	産経新聞
	2	「湖と人と」琵琶湖博物館からの発信<61> 未来のフェアブルさんを育てる 学校の昆虫学習を充実 中野正俊主査	毎日新聞
	3	湖国 魚と水生動物たち 『カワムツ、ヌマムツ』 前畑政善 前総括学芸員 / 琵琶湖博物館催し物の案内(観察会「化石の観察会」)	朝日新聞(あいあいA I 滋賀)
	6	生態系脅かす?外来ナマズ捕獲 南米原産の「レッドテールキャットフィッシュ」が捕獲されたと琵琶湖博物館が発表、コメントと写真資料提供	読売新聞
	6	南米原産の肉食性淡水魚「レッドテールキャットフィッシュ」が捕獲されたと琵琶湖博物館が発表 博物館のコメント	産経新聞
	9	「湖と人と」琵琶湖博物館からの発信<62> 数億年前の微生物の亡骸!? 河原の石ころ—生い立ちを考える 里口保文主任学芸員	毎日新聞
	10	湖国 魚と水生動物たち 『ギギ、アカザ』 前畑政善 前総括学芸員	朝日新聞(あいあいA I 滋賀)

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名	
9	18	厳しい冬の保存食 弥生人もコイ養殖？中島経夫上席総括学芸員の話	朝日新聞(あいあいA I 滋賀)	
	18	コイ養殖弥生時代から？愛知県清洲市で幼魚の歯が出土 中島経夫上席総括学芸員のコメント	日本経済新聞(夕刊) 中日新聞(夕刊)	
	18	琵琶湖博物館調査 愛知・朝日遺跡、最古の事例 弥生人もコイ養殖？ 中島経夫上席総括学芸員のコメント	産経新聞(夕刊)	
	18	弥生人がコイ養殖琵琶湖博物館の調査で判明 中島経夫上席総括学芸員のコメント	京都新聞(夕刊)	
	18	弥生人もコイ養殖、琵琶湖博物館などの調査で分かる 愛知の朝日遺跡で幼魚の歯多数出土	北海道新聞、東奥日報、名古屋タイムズ、神戸新聞、山陽新聞、中国新聞、高知新聞、大分合同新聞、熊本日日新聞、沖縄タイムス、琉球新報 各(夕刊) JAPAN TIMES	
	19	Carp farming may date to Yayoi : study 琵琶湖博物館などの研究グループが調査、中島経夫上席総括学芸員のコメント	Dairy Yomiuri	
	19	Carp farming may have begun in Yayoi period 琵琶湖博物館などの研究グループが調査、中島経夫上席総括学芸員のコメント	岩手日報、信濃毎日新聞、山梨日日新聞、茨城新聞、静岡新聞、岐阜新聞、北陸中日新聞、山口新聞、佐賀新聞、南日本新聞 京都新聞	
	19	弥生人もコイ養殖、歯の化石分析で判明 琵琶湖博物館などの研究グループが調査、中島経夫上席総括学芸員のコメント	中日新聞 読売新聞	
	19	戦前から70年、湖国の情景父子で活写 写真展「うるわしき琵琶湖よ永遠に」が琵琶湖博物館で開催	中日新聞 毎日新聞	
	20	弥生時代のコイ養殖研究 古魚類学専門の中島経夫上席総括学芸員が主導		
	21	父子伝える湖国の変化 親子二代の写真展「うるわしき琵琶湖よ永遠に」が琵琶湖博物館で開催	朝日新聞(あいあいA I 滋賀) 毎日新聞(オー！ミー)	
	22	彦根で見学会 鹿島邸のおけ風呂学生ら興味津々、琵琶湖博物館が実施	京都新聞 読売新聞	
	23	「湖と人と」琵琶湖博物館からの発信<63> 寄生虫ヒトへの感染 淡水生物を中間宿主に マーク・J・グライガー総括学芸員	毎日新聞	
	24	湖国 魚と水生動物たち 『メダカ』 前畑政善上席総括学芸員		
	25	昭和と平成の琵琶湖 一親子写真展 琵琶湖博物館ギャラリー展示「うるわしき琵琶湖よ永遠に 父子の見た湖国」の紹介	朝日新聞(あいあいA I 滋賀) 毎日新聞(オー！ミー)	
	25	琵琶湖のオサムシ電子図鑑が昆虫学会の「あきつ賞」受賞		
	25	WWF・ブリヂストンびわ湖生命の水プロジェクトが琵琶湖博物館と固有種の生息調査にも取り組む	京都新聞 読売新聞	
	30	「湖と人と」琵琶湖博物館からの発信<64> 魚つかみの楽しさ残したい！100年後も「人と生き物の共存」を 水野敏明琵琶湖博物館特別研究員	毎日新聞	
	10	1	湖国 450 万年の軌跡 琵琶湖博物館高橋啓一総括学芸員が著書「化石は語る」で紹介 / 湖国 魚と水生動物たち 琵琶湖にすむ魚の特徴 前畑政善上席総括学芸員	朝日新聞(あいあいA I 滋賀)
		1	琵琶湖博物館催し物の案内(ギャラリー展示「うるわしき琵琶湖よ永遠に 父子の見た湖国」)	朝日新聞(夕刊)
2		弥生時代にコイ養殖？「水田に囲い込み」琵琶湖博物館などの研究グループが推測、中島経夫上席総括学芸員のコメント	読売新聞	
3		「ひと交差点」オサムシHPに学会から賞 八尋克郎専門学芸員	朝日新聞	
4		赤トンボどこまで飛ぶ？「目撃情報寄せて」 琵琶湖博物館フィールドレポーターが追跡調査開始	朝日新聞	
4		大津でアジア環境対話 琵琶湖の保全活動紹介 楠岡泰主任学芸員が琵琶湖博物館で取り組む環境教育プログラムなどを紹介	京都新聞	
8		湖国 魚と水生動物たち 琵琶湖で減った魚、増えた魚 前畑政善上席総括学芸員	朝日新聞(あいあいA I 滋賀)	
14		「近江を歩く」天高くウォーカー肥ゆる秋 琵琶湖博物館～琵琶湖大橋 湖上の道	毎日新聞	
15		アキアカネどれだけ飛ぶ？琵琶湖博物館が県全域調査	読売新聞	
17		漁具「いざ」農具「しゃたご」、湖畔生活語る 1000 年後世に 安土の男性、町に寄贈 調査した中藤容子主任学芸員のコメント	京都新聞	
19		自然保護の人材育成 おおつ市民環境塾が開講 芳賀裕樹専門学芸員が「びわ湖の水環境と現状」について講演	中日新聞	
20		韓国ラムサール会議特派の小中学生が会議で発表するための新聞づくりに琵琶湖博物館で取り組む	京都新聞	
22		湖国の化石を訪ねる① 化石を楽しむ 高橋啓一総括学芸員	朝日新聞(あいあいA I 滋賀)	
27	ホテイアオイ大発生 腐敗、水質悪化の懸念 芦谷美奈子主任学芸員のコメント	京都新聞		
30	イラク政府関係者や研究者が琵琶湖博物館などを見学、琵琶湖の再生策学ぶ	京都新聞		

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
11	3	湖北町朝日小で琵琶湖博物館の職員を講師に化石についての学習会を開催レプリカ作りに挑戦	中日新聞
	6	「滋賀教育の日」フォーラムで琵琶湖博物館と連携教育をした湖北町朝日小学校が教育実践表彰を受賞	中日新聞
	8	琵琶湖博物館の中島経夫上席総括学芸員らのグループが弥生人がコイを養殖していたとする研究成果を 近く英考古学誌に掲載	朝日新聞
	14	カボチャの顔ユーモラス、琵琶湖博物館のイベント「おちゃめなカボチャ」が人気	京都新聞
	18	自然親しむ校内博物館 甲賀市立佐山小学校に琵琶湖博物館の展示物を紹介する学校サテライト博物館が開館	読売新聞 (しが県民情報)
	21	イオンモール草津プレオープン、内覧会で琵琶湖博物館が協力したニゴロブナやメダカの展示など環境対策を紹介	毎日新聞
	26	琵琶湖博物館催し物の案内(観察会「からすま半島の水鳥を観察してみよう」)	朝日新聞(あいあいA I 滋賀)
	28	琵琶湖博物館レストラン にほのうみの紹介	京都新聞 (週刊トマト&テレビ)
	30	【週刊まちぶら】イオンモール草津のエコステーションに琵琶湖博物館の協力でニゴロブナやメダカの泳ぐ水槽	朝日新聞
	30	県内の環境活動発表「びわ湖・まるエコ・DAY」が琵琶湖博物館で開催	中日新聞
	—	中島経夫上席総括学芸員の文献を参考に第27回海とさかな自由研究・作品コンクール入選 「咽頭歯立体図鑑」	朝日小学生新聞 特別号
12	3	【遊・YOU・友】琵琶湖博物館催し物の案内(新琵琶湖学入門セミナー「湖と人間」)	朝日新聞
	10	【遊・YOU・友】琵琶湖博物館催し物の案内(ギャラリー展「細密画で見る琵琶湖の水鳥たち」)	朝日新聞
	12	湖の水鳥 息遣い伝える 高島の細密画家今森洋輔氏琵琶湖博物館でギャラリー展示「細密画で見る琵琶湖の水鳥たち」を開催	京都新聞
	14	琵琶湖の水鳥細密描写、カイツブリなど87点 琵琶湖博物館でギャラリー展示「細密画で見る琵琶湖の水鳥たち」を開催	読売新聞
	17	カイミジンコ 11 新種 琵琶湖博物館発見	読売新聞
	17	琵琶湖で「カイミジンコ」の新種が 11 種類、ロビン・スミス主任学芸員が確認 琵琶湖博物館のコメント	毎日新聞
	17	琵琶湖でカイミジンコ 11 新種発見、琵琶湖博物館が発表	朝日新聞
	17	琵琶湖底に生息、過去の環境知る手掛かりに 「カイミジンコ」 11 新種琵琶湖博物館が発見、ロビン・スミス主任学芸員らが特定	中日新聞
	17	琵琶湖で新種「カイミジンコ」 11 種、これまで調査がすすんでいなかった生物群を調査するプロジェクト「生物学的多様性の探査」の一環で、ロビン・スミス主任学芸員らのグループが発見	産経新聞
	17	【きょうの顔】研究仲間になみ発見新種を命名 ロビン・スミス主任学芸員／ 琵琶湖固有種の可能性もあるカイミジンコ 11 新種、ロビン・スミス主任学芸員ら発見	京都新聞
	17	琵琶湖博物館催し物の案内(里山体験教室)	朝日新聞(あいあいA I 滋賀)
	22	琵琶湖の冬にぎやかに 草津で琵琶湖博物館と日本野鳥の会滋賀支部による水鳥の観察会を開催	産経新聞
	25	わくわく 展示室で謎解き 「C展示室でスゴロクをしよう」と題して琵琶湖博物館で開催	毎日新聞 (オー！ミー)
29	日本一の湖から見える地球の問題点 校外授業 滋賀県立琵琶湖博物館へ	京都新聞	
30	八尋克郎専門学芸員がオサムシの秘密を本にまとめ出版	京都新聞	
1	1	琵琶湖の環境悪化の原因や望まれる対策 「本当にだめになる前に行動を」 川那部浩哉館長	京都新聞
	1	湖の謎に迫る 「本来の姿を模索」 芳賀裕樹専門学芸員	中日新聞
	3	【湖のこえ】暮らしと環境 第1部ピワマス編① 再生信じて 『ピワマス』写真資料提供 / 草津の会社が琵琶湖博物館など南湖岸の八地点を対象に水質チェック	京都新聞
	3	湖国の化石を訪ねる 化石を見に行こう 高橋啓一総括学芸員 / 琵琶湖博物館催し物の案内(琵琶湖博物館わくわく探検隊「C展示室ですごろくをしよう」)	朝日新聞(あいあいA I 滋賀)
	4	【湖のこえ】暮らしと環境 第1部ピワマス編② 上れない川 桑原雅之専門学芸員のコメント	京都新聞
	5	【湖のこえ】暮らしと環境 第1部ピワマス編③ 水源から 草加伸吾主任学芸員のコメント	京都新聞
	5	文書や標本類など牛にちなむ資料 50 点 琵琶湖博物館で展示	読売新聞
	5	「牛」いっぱい 50 点 琵琶湖博物館で展示会	産経新聞
	7	琵琶湖博物館催し物の案内(ギャラリー展示「細密画で見る琵琶湖の水鳥たち」)	朝日新聞 (夕刊)
	8	【湖のこえ】暮らしと環境 第1部ピワマス編⑥ 夢の回遊 川那部浩哉館長のコメント	京都新聞
10	牛、モーっと知って 古文書や農具、レプリカ… 琵琶湖博物館で資料展	京都新聞	

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
1	11	年末年始の食習慣教えて 琵琶湖博物館が県内調査へ	京都新聞
	13	年末年始の食、地域性を調査 琵琶湖博物館が県民参加呼び掛け	中日新聞
	16	調査、研究、伝える喜び 琵琶湖博物館・はしかけ制度 15 グループ 360 人が登録 『うおの会』『近江はたおり探検隊』『たんさいぼうの会』	読売新聞 (しが県民情報)
	17	琵琶湖博物館のフィールドレポーターが年末年始の食調査への協力を募る	毎日新聞
	17	県が「ビオトープネットワーク長期構想」 琵琶湖博物館などの調査研究と連携し 河川や河畔林が生態回廊として機能するように対策を検討	朝日新聞
	21	琵琶湖博物館催し物の案内 (ギャラリー展示「細密画で見る琵琶湖の水鳥たち」)	朝日新聞 (夕刊)
	21	[漣人物録]カシミジンの新種を発見したロビン・スミス主任学芸員 / C 展示室でスゴロクをした クイズや工作を楽しみながら琵琶湖博物館展示室を探検	朝日新聞 (あいあい A I 滋賀)
	27	大津のボーイスカウトが環境保全へヨシ刈り、作業後琵琶湖博物館うおの会による 魚の話などを聞きヨシへの理解を深める	中日新聞
	28	湖国の化石を訪ねる⑩ 150 万年前のイチョウ 山川千代美専門学芸員 / 高島市のイラストレーター今森洋輔さんが琵琶湖博物館で「細密画で見る琵琶湖の水鳥たち」展	朝日新聞 (あいあい A I 滋賀)
	29	琵琶湖底の砂利採取穴から窒素・リン溶け出していることが琵琶湖博物館など県の 研究機関の合同調査で分かる	京都新聞
2	2	カワウとの共生名案は? 湖北町の朝日小学校で亀田佳代子専門学芸員を招き授業	中日新聞
	3	琵琶湖博物館で特別研究セミナー開催 博物館ボランティアの役割は? 学芸員ら 事例報告	京都新聞
	4	湖国の化石を訪ねる⑫ 「銀河鉄道の夜」に登場 山川千代美専門学芸員	朝日新聞 (あいあい A I 滋賀)
	6	新種のツリガネムシが見つかり琵琶湖博物館の学芸員らのグループが発表 楠岡 泰主任学芸員のコメント	読売新聞
	6	琵琶湖博物館と中国烟台大海洋学院の共同研究グループが調査、琵琶湖でツリガネ ムシ科の新種発見 楠岡泰主任学芸員のコメント	毎日新聞
	6	[きょうの顔]固有種の可能性も成立の経緯解明へ 楠岡泰主任学芸員 / 琵琶 湖にツリガネムシの新属新種 琵琶湖博物館が発表楠岡泰主任学芸員のコメント	京都新聞
	6	琵琶湖博物館が中国の大学と共同で烏丸半島湖岸を調査した際 ツリガネムシの 新種を発見 楠岡泰主任学芸員のコメント	中日新聞
	6	楠岡泰主任学芸員らが琵琶湖岸で採取した水草からツリガネムシの新種を発見	産経新聞
	7	ツリガネムシに新種 琵琶湖博物館などの研究グループ琵琶湖で発見	朝日新聞
	11	湖国の化石を訪ねる⑬ 生きている化石 山川千代美専門学芸員	朝日新聞 (あいあい A I 滋賀)
	12	「珪藻」41 種を確認 琵琶湖博物館の自主活動市民グループ「たんさいぼうの会」 が大津・小女郎ヶ池で行った珪藻の調査結果を日本珪藻学会の会誌に掲載 大塚泰 介主任学芸員のコメント	京都新聞
	18	湖国の化石を訪ねる⑭ カエデに似た葉 山川千代美専門学芸員	朝日新聞 (あいあい A I 滋賀)
	25	湖国の化石を訪ねる⑮ アケボノゾウと一緒に 山川千代美専門学芸員	朝日新聞 (あいあい A I 滋賀)
	25	甲賀市の佐山小学校で琵琶湖博物館の学校サテライト博物館の展示にちなみアン モナイト化石のレプリカ作り体験	京都新聞
	25	朝日小学校で地域のお年寄りとお火鉢を囲んで昔話 「昔の暮らし学習」で中藤容子 主任学芸員が講師	滋賀夕刊
	26	びわ湖毎日マラソン環境キャンペーン 琵琶湖博物館で開催される「近畿『子ども の水辺』交流会」で水中音や水中生物が出す音を聞くイベント開催	毎日新聞
	27	発見された塩津港遺跡の船形木製品は一級の研究素材として研究者ら注視 用田 政晴総括学芸員のコメント	京都新聞
3	2	[湖のこえ]暮らしと環境 第 2 部野鳥編① 人の営みカワウの「盛衰」に関与 亀 田佳代子専門学芸員コメント	京都新聞
	4	琵琶湖博物館催し物の案内 (琵琶湖博物館わくわく探検隊「くるくる☆カラフル種 とばし」)	朝日新聞 (あいあい A I 滋賀)
	18	環境省、地域のメディアと企業との連携による環境教育推進事業 琵琶湖博物館で 環境学習	京都新聞
	18	琵琶湖博物館催し物の案内 (「里山体験教室」)	朝日新聞 (あいあい A I 滋賀)
	20	与謝蕪村筆「紙本墨画淡彩夜色楼台図」などを国宝に、琵琶湖博物館の東寺文書な どを重要文化財に 文化審議会が文科相に答申	産経新聞
	20	八戸・土偶など国宝へ、琵琶湖博物館の東寺文書など重要文化財に文化審議会が文 部科学相に答申	中日新聞
	20	文化審議会が琵琶湖博物館保管の東寺文書などを重要文化財に指定を答申	京都新聞
	22	財政難で昨年休刊の琵琶湖博物館情報誌「うみっこ通信」 HP で復活へ	京都新聞
	23	森林荒廃に警鐘鳴らす シンポジウム「びわ湖の森の生き物」が琵琶湖博物館で開 催、『ピワマス』写真資料提供	京都新聞
	29	イヌワシ・クマタカ・ピワマス、琵琶湖生息の危機報告 シンポジウム「びわ湖の 森の生き物」が琵琶湖博物館で開催	読売新聞
	31	ぼてじゃこ復活を 市民団体、琵琶湖に放流計画 中井克樹主任学芸員のコメント	京都新聞

(3) WEB ニュース

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
5	14 22 25 27	おうみ探検隊 「フェアブルにまなぶ」 「ムサシトミヨの稚魚展」25日まで琵琶湖博物館で 開催 週刊ニュース 紙芝居で「フェアブルにまなぶ」 おうみ発 610 「Y幼生」	NHK 滋賀報知新聞 BBC びわ湖放送 NHK
7	19	琵琶湖博物館と仏の博物館が協定	BBC ヘッドラインニュース
9	18 18	愛知県の弥生時代集落跡から出土したコイの歯を琵琶湖博物館などの研究グループが調査、国内で最も古くコイの養殖が行われていたことを示すものとして注目されている 中島経夫 学芸員コメント 弥生時代からコイの養殖、琵琶湖博物館などが調査	NKH ニュース BBC ヘッドラインニュース
12	16 1 25	琵琶湖の湖底から新種のカイミジンコ 11 種を発見したと琵琶湖博物館が発表 琵琶湖博物館のスミス主任学芸員とドイツのホルスト・ヤンツ博士が琵琶湖の湖底に生息するカイミジンコで 11 種類の新種を発見したと発表	i J AMP 時事通信社 滋賀報知新聞
1	16 30	貴重 天然記念物アユモドキ泳ぐ 琵琶湖博物館から借りて亀岡で特別展 ギャラリー展示「細密画で見る琵琶湖の水鳥たち」、常設展示室、ディスカバリー・ルーム、レストランの紹介	京都新聞 レディオロコ
2	5 5 5 5 5 5 5 5 6 6 6 6 6 6 6 6 27	おうみ発 610 「ツリガネムシの新種」 新種を発見した楠岡泰主任学芸員のコメント 新種の微生物発見 琵琶湖博物館が発表 琵琶湖に新種のツリガネムシ琵琶湖博物館が発表 小さな花に似た群体が特徴 楠岡泰主任学芸員のコメント 琵琶湖から新種のツリガネムシ 学術誌に発表 楠岡泰主任学芸員のコメント 琵琶湖に小さな花 新種のツリガネムシ発見を琵琶湖博物館が発表 楠岡泰主任学芸員のコメント 水も浄化「新種のツリガネムシ」琵琶湖で発見 楠岡泰主任学芸員のコメント 琵琶湖に小さな花？ 新種のツリガネムシ発見 楠岡泰主任学芸員のコメント ツリガネムシに新種 琵琶湖博物館が烏丸半島湖岸で発見 楠岡泰主任学芸員のコメント 新種のツリガネムシ琵琶湖博物館が発表 楠岡泰主任学芸員のコメント 新種生物 琵琶湖博物館が発見 アポカルケシウム・ロゼッタムと命名 楠岡泰主任学芸員のコメント 琵琶湖に小さな花？ 新種のツリガネムシ発見 楠岡泰主任学芸員のコメント <環境キャンペーン>琵琶湖博物館・生き生き地球館を訪問 八尋克郎専門学芸員のコメント 佐山小学校と琵琶湖博物館が設置した学校サテライト博物館に化石標本 14 点展示	NHK BBC ニュース excite ニュース 京都新聞 中日新聞 産経新聞 山形新聞・秋田魁新報社 河北新報ニュース 下野新聞・東京新聞 山梨日日新聞 東奥日報・福井新聞 神戸新聞・山陽新聞 山陰中央新報 高知新聞・西日本新聞 佐賀新聞・47NEWS 中日新聞 読売新聞 毎日新聞 カナロコ 中央日報 滋賀報知新聞
3	5 19 22 30	狛江の NPO 多摩川で黄色ナマズ 発見！琵琶湖博物館のコメント おうみ発 610 「琵琶湖博物館が保管する東寺文書 重要文化財に」 三重県津市に建設を計画している「新県立博物館」に関するシンポジウムで布谷知夫 学芸員が講演 琵琶湖博物館の多目的広場で西川貴教さん音楽祭開催	読売新聞 NHK 毎日新聞 NHK 滋賀のニュース

(4) 雑誌等掲載記録

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
4	琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の紹介 催し物案内 琵琶湖博物館の紹介 催し物案内 琵琶湖博物館の紹介 催し物案内 「湖国」の自然と暮らし方に学ぶ 博物館を入りに暮らしを見つめ直す、川那部館長の話 琵琶湖博物館の紹介	滋賀プラス1 (県広報誌) vol. 106 博物館研究 4月号 子供の科学 4月号 れいかる<春号> vol. 48 JAF Mate Good Choice! グローイングロードドリーム (高速道路情報誌) 春号 わっと (関西電力広報誌) 春号 旅こよみ 4月号 月刊むし 4月号 草津とくとくガイドブック ワイヤーママ 滋賀版 4月号 月刊福祉 4月号 関西ファミリー・ウォーカー 増刊号 東海ファミリー・ウォーカー 増刊号 躍 (関西電力広報誌) 創刊号 草津とくとくガイドブック「くさポン」
5	琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 催し物案内 「伊藤康英」のファール昆虫館 ～音楽で楽しむ昆虫の世界 出演布谷知夫上席総括学芸員 琵琶湖博物館の催し物案内 ミュージアムレストラン にほのうみの紹介 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内	滋賀プラス1 (県広報誌) vol. 107 博物館研究 5月号 子供の科学 5月号 しが県民芸術創造館 にゅーすもりやま No. 451 京阪神エルマガジン 5月号 ワイヤーママ 滋賀版 5月号 ウーマンライフ TAMAKI NEWS (滋賀版) 5・6月号
6	琵琶湖博物館協議会委員募集 入場券読者プレゼント うおーたんの家族でまなぼう監修 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の紹介 催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の紹介 淡海の博物館・美術館 戸田孝主任学芸員、琵琶湖博物館の建物紹介	滋賀プラス1 (県広報誌) vol. 96 博物館研究 6月号 子供の科学 6月号 にゅーすもりやま No. 453 びいめーる vol. 62 昆虫 寿限無 (じゅげむ) ぐるり蓮の旅 ワイヤーママ 滋賀版 6・7月号 びわ湖 (創立 25 周年記念特集号) 滋賀県建築士事務所協会
7	琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の水族展示の紹介 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の催し物案内 夏休みキッズお役立ちイベント 琵琶湖博物館の紹介 イベントインフォメーション 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖の歴史や生物が楽しく学べる 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖の生き物たちを学ぼう 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖について知識を深めよう 琵琶湖博物館の紹介とチケットプレゼント 博物館探訪 琵琶湖博物館の紹介と催し物案内	滋賀プラス1 (県広報誌) vol. 109 博物館研究 7月号 子供の科学 7月号 れいかる<夏号> vol. 49 滋賀の旅 夏号 月刊むし 7月号 丸ごと全国水族館ガイド 湖都時 (大津プリンスホテル) 都道府県展望 夏号 No. 598 滋賀リビング S・POT! Vol. 05 エルマガジン 7月号 マップルマガジン'08 家族でおでかけ「夏休み号」 こどもと遊ぼう夏 (東海版) ぴあ MOOK 中部 関西ファミリー・ウォーカー 増刊号 ゆずりは 夏号 No. 38

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
7	キャンパスライフの舞台草津 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館レストラン「にほのうみ」の紹介 写真資料提供「ホンモロコ」 琵琶湖博物館の催し物案内	子どもの暮らす街を觀に来ませんかキャン ペーン au エリア MAP ぐるっと滋賀スタンプラリー 滋賀たびゅうど 夏号 TAMAKI NEWS (滋賀版) 7・8月号
8	琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の紹介 「忠類ナウマン象記念館特別展」関連イベントでの高橋啓一研究部長の 講演会案内 びわ湖ならではの多彩な美術館・博物館 山川千代美専門学芸員	博物館研究 8月号 子供の科学 8月号 びいめーる vol.63 ワイヤーママ 滋賀版 8月号 ザ・おおさか 8月号 BRUTUS 8月号 旅こよみ 広報「まくべつ」 8月号 (京都、奈良、びわ湖) エース JTB
9	琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 全国水族館マップ 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館図書 「鯰 イメージとその素顔」の紹介 琵琶湖博物館の催し物案内 美術館から博物館まで芸術の秋をたっぷり満喫、琵琶湖博物館の紹介 忠類ナウマン象記念館記念イベントでの高橋啓一研究部長の講演会の 報告	滋賀プラス1 (県広報誌) vol.111 博物館研究 9月号 子供の科学 9月号 日経WOMAN 9月号 ソトコト 9月号 にゅーすもりやま No.458 滋賀たびゅうど 秋冬号 広報「まくべつ」 9月号
10	琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 写真資料提供「メダカ」 施設人込みデータ、施設イベントデータ	博物館研究 10月号 子供の科学 10月号 びいめーる vol.64 れいかる<秋号> vol.50 豊かさと安心をもたらす農業農村の実現 エンターティメントビジネス No.22
11	琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館での「夏休み親子見学会」の様子 インタビュー 生きもののひとつとして地球のことを考えよう 琵琶 湖博物館館長川那部浩哉 ほんとひと 「オサムシ」を出版 八尋克郎専門学芸員 「動物命名法国際審議会委員」マーク・グライガー総括学芸員の紹介 琵琶湖博物館の紹介、施設の写真資料提供	博物館研究 11月号 子供の科学 11月号 日経サイエンス 11月号 大阪水だより No.59 京都理科市民会議 21 ニュース 滋賀民報社 Kippo News あんふあん
12	琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の案内	滋賀プラス1 (県広報誌) vol.114 博物館研究 12月号 子供の科学 12月号 にゅーすもりやま No.463 滋賀リビング びいめーる vol.65 冬ぴあ (関西版)
1	琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 博物館で体験しよう！琵琶湖博物館「わくわく探検隊」の催し物 交流 担当飯住達也主任主事 施設人込みデータ 琵琶湖博物館の案内 琵琶湖博物館の案内	滋賀プラス1 (県広報誌) vol.115 博物館研究 1月号 日経サイエンス 1月号 れいかる<冬号> vol.51 EVENT & CONVENTION エンターティメントビジネス No.23 びわこ湖南！冬のええとこクイズラリー Happy タウンナビゲーター(2009年保存版)
2	地域の博物館連携組織を主体とする「展示活動」 戸田孝主任学芸員 ／ 琵琶湖博物館の催し物案内 日本水族館紀行「琵琶湖博物館」 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館へ行こう 『さまざまな珪藻』写真資料提供 大塚泰介主任学芸員	博物館研究 2月号 翼の王国 (ANA グループ機内誌) びいめーる vol.66 ぷちとまと (茨木市立西幼稚園 PTA 広報誌) 科学新聞(2009.2.13号)

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
2	公立ミュージアムはだ誰のものか 「主体的な人のつながりで琵琶湖地域をゆるやかにつなぐ」 川那部浩哉館長、布谷知夫上席総括学芸員	Cultivate No.33
3	シンポジウム「地域に生きる魅力ある博物館」 布谷知夫上席総括学芸員 / 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館で湖底を調査し琵琶湖でカイミジンコの新種発見 / 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖を守るために私達ができること -琵琶湖へのメッセージ 川那部浩哉館長 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の案内 琵琶湖博物館の案内 琵琶湖博物館の催し物案内 マザーレイク琵琶湖 水と魚が語る、湖の現在と未来 (記事協力芳賀裕樹専門学芸員)	博物館研究 3月号 子供の科学 みどりのニュースレター No.190 家族でおでかけ日帰り京阪神電車&ウォーク 滋賀リビング リビング (京都中央・東南・南西、吹田・箕面、枚方・交野・寝屋川、大阪) azubil (azubilグループPR誌)

(5) テレビ放映・ラジオ放送記録

放送日	番組名	内 容	媒 体	担当者
4 17	めざましテレビ	ブルーギルの写真提供	フジテレ	山川専門学芸員
4 26	県政プラスワン	企画展示「フェアブルにまなぶ」	びわ湖放送	山川専門学芸員
4 -	谷口な夜	レストラン「にほのうみ」のバス天井	KBS 京都	松田専門学芸員
5 -	デジタル放送	わくわく探検隊プラばら	びわ湖放送	山川専門学芸員
5 3	ぷちミーヤ!	レストラン「にほのうみ」のバス天井	テレビ朝日	戸田主任学芸員
5 7	DAILY!かわら版	企画展示「フェアブルにまなぶ」	ZTV 大津	山川専門学芸員
5 8	ニュース	企画展示「フェアブルにまなぶ」	びわ湖放送	八尋専門学芸員
5 14 19	ニュース	企画展示「フェアブルにまなぶ」	NHK	八尋専門学芸員
5 16	知っとこ滋賀	企画展示「フェアブルにまなぶ」	KBS ラジオ	榊永主任学芸員
5 19 ～ 22	読売ザ KANSAI	企画展示「フェアブルにまなぶ」	ケーブルテレビ (読売テレビ)	八尋専門学芸員
5 20 ～ 23	関西トピックス	企画展示「フェアブルにまなぶ」	C S放送	八尋専門学芸員
5 22	おうみ発 610	はしかけグループ「近江はたおり探検隊」 と龍谷大との協働実践について	NHK	中藤主任学芸員
5 31	県政プラスワン	不耕起栽培の水田で生き物を観察しよう	びわ湖放送	山川専門学芸員
6 5	八代英輝 クロノス	イブシゴン	FM 東京	マーク・J・グライガ ー総括学芸員
6 上 旬	ニュース	オオクチバス、ケツギョの撮影	東海テレビ	松田専門学芸員
6 2 ～ 8	KANSAI ニュース	企画展示「フェアブルにまなぶ」	K-CAT ケーブルテ レビ eo 光テレ ビ	山川専門学芸員
6 17	ビビッとびわこ	新人の先生研修	びわ湖放送	-
6 19	秘密のケンミン SHOW	水族展示、レストラン「にほのうみ」のバ ス天井	読売テレビ	山川専門学芸員
6 20	関西ラジオワイド	企画展示「フェアブルにまなぶ」	NHK ラジオ第1	榊永主任学芸員
6 20	滋賀のええものに 乾杯!	琵琶湖の食と博物館の展示	KBS 京都	中島経夫上席総括学 芸員
6 28	県政プラスワン 「近江発見伝」	企画展示「フェアブルにまなぶ」	びわ湖放送	八尋専門学芸員
6 28	県政プラスワン	漁船に乗ってビワマス漁をみてみよう	びわ湖放送	山川専門学芸員
7 18	おうみ発 610	原生物新発見	NHK	楠岡主任学芸員
7 19	ニュース	企画展示「フェアブルにまなぶ」調印式、 シンポジウムの案内	びわ湖放送	山川専門学芸員
7 22	おうみ発 610	全日本博物館学会奨励賞受賞	NHK	北村特別研究員
7 29	おうみ発 610	企画展示「フェアブルにまなぶ」、よし笛 コンサート	NHK	八尋専門学芸員
7 30	おうみ発 610	A 展、水族展示、びわこ検定	NHK	山川専門学芸員
8 1	一攫千金! 日本ルー列島!	ビワコオオナマズ画像	フジテレビ	山川専門学芸員
8 1	探偵ナイトスクープ	貝	朝日放送	松田専門学芸員
8 4	ニュース	レストラン「にほのうみ」のブラックバス バーガー	名古屋テレビ	山川専門学芸員
8 7	info 宝くじ(60秒イ ンフォーマーシャル) 番組	うみっこ広場、体験学習 (宝くじ収益金、 助成金が役立っている施設紹介)	テレビ朝日系全国 ネット	山川専門学芸員
8 16 ～	おでかけ案内	ギャラリー展示「うるわしき琵琶湖よ永遠 に」 観察会「アユ産卵用の人工河川を知ってい ますか」	びわ湖放送	山川専門学芸員

放送日	番組名	内容	媒体	担当者	
8	18	日本列島ほっと通信	トンボについて	TBS ラジオ	榊永主任学芸員
8	22	マイ・エコロ・スタイル	エコロクイズ「エチゼンクラゲについて」	FM 滋賀	大塚主任学芸員
8	30	持続可能な滋賀社会 生物多様性の保全	琵琶湖の固有種、ナマズの産卵と水田の関係	びわ湖放送	松田専門学芸員
9	5	ニュース	新草津川で捕獲のレッドテールキャットフ イッシュについて	NHK、びわ湖放 送	松田専門学芸員
9	7	素敵な宇宙船・地球 号	外来生物	テレビ朝日系全国 ネット	中井主任学芸員
		ビビッとしが	ギャラリー展示「うるわしき琵琶湖よ永遠 に」	びわ湖放送	秋山専門学芸員
9	26	知っとこ滋賀	ギャラリー展示「うるわしき琵琶湖よ永遠 に」	KBS ラジオ	秋山専門学芸員
10		デジタル放送	化石の観察会、わくわく探検隊光とかげで 写真をとろう	びわ湖放送	山川専門学芸員
10	4	県政プラスワン	ギャラリー展示「うるわしき琵琶湖よ永遠 に」、ビワマスの採卵現場を見学してみま せんか	びわ湖放送	山川専門学芸員
10	7	おうみ発 610	ギャラリー展示「うるわしき琵琶湖よ永遠 に」	NHK	秋山専門学芸員
10	24	マイ・エコロ・スタ イル	水草	FM 滋賀	芳賀専門学芸員
11		デジタル放送	植物を図鑑で調べてみよう、マキノの里山 を歩こう	びわ湖放送	山川専門学芸員
11	10	スーパーモーニング	ビワマスについて	テレビ朝日	秋山専門学芸員
11	16 20 21	サイエンス ZERO	生態系の「つながり」に迫る	NHK教育、 BS 2	松田専門学芸員
11	29	県政プラスワン	観察会「からすま半島の水鳥を観察してみ よう」	びわ湖放送	亀田専門学芸員
11	29	NEXCO 中日本 E-JUNCTION	常設展示とギャラリー展示「細密画見る琵 琶湖の水鳥たち」	ZIP-FM (名古屋)	山川専門学芸員
12		デジタル放送	からすま半島の水鳥を観察しよう、わくわ く探検隊水鳥を観察しよう	びわ湖放送	山川専門学芸員
12	5	知っとこ滋賀	ギャラリー展示「細密画見る琵琶湖の水鳥 たち」	KBS ラジオ	桑原専門学芸員
12	28	新ニッポン探検隊!	ヨシ原はいのちの揺りかご	日本テレビ	秋山専門学芸員
12	27	世界一周 地球に触 れる エコ大紀行 ～琵琶湖編～	琵琶湖の固有種	NHK	秋山専門学芸員
1	1 ～	おでかけ案内	琵琶湖博物館わくわく探検隊「オオサンシ ョウウオ GET だぜ☆」	びわ湖放送	山川専門学芸員
1	10 11	WEEKLY! かわら版	ウシがいっぱい	ZTV (大津)	布谷知夫上席総括学 芸員
1	16	滋賀プラスワン インフォメーション	ギャラリー展示「細密画見る琵琶湖の水鳥 たち」	FM 滋賀	桑原専門学芸員
2	12	DAILY! かわら版	A 展示室、B 展示室	ZTV 大津	布谷知夫上席総括学 芸員
2	14 15	WEEKLY! かわら版	A 展示室、B 展示室	ZTV 大津	布谷知夫上席総括学 芸員
2	26	DAILY! かわら版	C 展示室、水族展示室	ZTV 大津	布谷知夫上席総括学 芸員
2	28 3 1	WEEKLY! かわら版	C 展示室、水族展示室	ZTV 大津	布谷知夫上席総括学 芸員
		水曜ノンフィクショ ン	ペルー シクラス遺跡に関する実験調査	TBS テレビ	宮本真二主任学芸員
3	-	デジタル放送	わくわく探検隊くるくるカラフル種とばし	びわ湖放送	山川専門学芸員
3	1	きらめき☆Story	丸子船	KBS 京都	用田政晴総括学芸員

放送日		番組名	内容	媒体	担当者
3	26	ニュースクランブル 「月刊 地震ファイル」	A展、烏丸ボーリング	読売テレビ	里口主任学芸員
3	27	知っ&こ滋賀	琵琶湖博物館特別講演会	KBS ラジオ	高橋啓一総括学芸員
		Chill Out	琵琶湖博物館施設	タイテレビ	山川専門学芸員
3	31	超タイムショック芸 能人最強クイズ王決 定戦	プランクトン写真資料提供	テレビ朝日	楠岡主任学芸員

(6) 予算

2008 年度歳入状況 (円)

科 目	決 算 額
使用料及び手数料	161,641,624
財 産 収 入	1,153,320
諸 収 入	7,594,110
合 計	170,389,054

2008 年度歳出状況 (円)

事 業 名	事 業 内 容	決 算 額
管理運営費	施設維持費、烏丸半島整備費、事務費	283,042,871
調査資料収集事業費	研究費、研究備品、資料収集製作、資料整理保管、水族飼育	103,845,720
展示事業費	企画展示、常設展示、展示維持管理、展示用印刷物	91,174,761
情報交流事業費	情報システム管理、データ入力、図書整備、交流事業開催、フィールドレポーター	33,062,338
合 計		511,125,690

4 存在基盤の確立

(1) 琵琶湖博物館協議会

第1回

開催日時 2008年8月26日(金) 13:30～16:30

場 所 琵琶湖博物館セミナー室

第2回

開催日時 2009年3月8日(日) 14:00～16:00

場 所 琵琶湖博物館セミナー室

第6期委員

(任期:2006年9月1日～2008年8月31日)

氏名	区分	現 職 (2007年3月現在)
八里 良子	学校教育	甲賀市立甲南中部小学校 校長
片山 勝	学校教育	長浜市立北中学校 校長
西尾 久美子	社会教育	エコ村ネットワーク 副理事長
青木 繁	社会教育	(有)グリーンウォーカークラブ・ネイチャーガイド研究所 代表取締役
永田 俊	学 識 者	京都大学生態学研究センター 教授
篠原 徹	学 識 者	国立歴史民俗博物館民俗研究部 教授
西 源二郎	学 識 者	東海大学海洋研究所 教授 東海大学海洋科学博物館 館長
村井 良子	学 識 者	(有)プランニング・ラボ 代表取締役
山田 史生	学 識 者	共同通信社大津支局 支局長
横山 俊夫	学 識 者	京都大学副学長 同大学院地球環境学堂 教授・三才学林長 同大人文学研究所教授 (両任)
伊達 仁美	学 識 者	京都造形芸術大学芸術学部 助教授
木上 秀保	学 識 者	滋賀県脊髄損傷者協会 副会長
りゅう えい 劉 穎	学 識 者	翻訳者・中国語講師
辻 洋子	学 識 者	公募委員
佐川 雅彦	学 識 者	公募委員

第7期委員

(任期:2008年9月1日～2010年8月31日)

氏名	区分	現 職 (2009年3月現在)
野村 喜代子	学校教育	草津市立常盤小学校 校長
河上 哲昭	学校教育	守山市立明富中学校 校長
津屋 結唱子	社会教育	しが文化芸術学習支援センター トータルコーディネーター
青木 繁	社会教育	(有)グリーンウォーカークラブ・ネイチャーガイド研究所 代表取締役
伴 修平	学 識 者	滋賀県立大学環境科学部 教授
篠原 徹	学 識 者	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 理事
西 源二郎	学 識 者	東海大学海洋科学博物館 館長

氏名	区分	現 職 (2009年3月現在)
村井 良子	学 識 者	(有)プランニング・ラボ 代表取締役
森田 輝夫	学 識 者	共同通信社大津支局 支局長
筒井 のり子	学 識 者	龍谷大学社会学部地域福祉学科 教授
伊達 仁美	学 識 者	京都造形芸術大学芸術学部 准教授
木上 秀保	学 識 者	滋賀県脊髄損傷者協会 副会長
りゅう 劉 穎	学 識 者	翻訳者・中国語講師
中村 恵子	学 識 者	公募委員
坂田 久子	学 識 者	公募委員

(2) 企画・計画

1) 第二段階 (2006 年度～2010 年度) 活動計画

2002 年 12 月に策定した琵琶湖博物館中長期目標『地域だれでも・どこでも博物館』の実現をめざし、博物館の運営方針としての具体的な取り組み方策および必要な環境の整備について明らかにするため、2005 年 3 月に琵琶湖博物館中長期基本計画が策定された。2008 年度は計画の第二段階の三年目であり、2007 年 9 月に策定された中長期基本計画第二段階 (2006 年度～2010 年度) 活動計画に基づき、2008 年度行動計画の実績・評価を踏まえて、2009 年度の行動計画案を策定した。しかし、2008 年度からの「財政構造改革プログラム」や「収支改善に向けたさらなる見直し」の「中長期的な取り組み」に基づき、計画全体の見直しを含めた検討が必要になっている。

2) 琵琶湖博物館広報・経営戦略

琵琶湖博物館の「利用されることで成長・発展する博物館」という博物館の理念は、一定の支持を集め、2007 年度には 600 万人目の来館者を迎えることができた。2008 年度は広報・経営基本戦略に基づき、2008 年度の行動計画を策定したが、2005～2006 年度に増加に転じた来館者は、2007 年度からはマイナスに転じ、景気の後退などもあり 2008 年度は過去最低の来館者数となった。今後はより一層の広報・集客に再び努力しなければならない状況となった。

Ⅲ 2008 年度をふり返って

1 研究部

今年度は、琵琶湖博物館中長期基本計画の第二段階4年目となり、琵琶湖博物館ならではの学際的・地域的研究の確立をはかるため、特に二つの目標値を掲げて事業を進めてきた。一つは、琵琶湖博物館が行う研究課題の内容、位置づけ、方法等の指針作成。二つめは学芸職員全員の科学研究費申請であった。

前者は、年度末に「琵琶湖博物館が当面行うべき研究の方向性」としてとりまとめ、主に研究の領域、研究の体制、県の施策との関係、琵琶湖博物館での研究機能の4つの視点から検討を行った。ただ、具体的な類例や方策が不十分であり、2009年度も引き続きその内容についての具体的検討を行っていく予定である。また、後者は、2007年度が18件の申請中、採択1件であったものが、30件の申請をあげることができ、その書類の内容精査も行ったことから6件が採択されることとなった。特段の事情のあるものを除いて、ほとんどの学芸職員が科研費の申請を行ったところであるが、さらに全員申請という目標に向かって努力するとともに、採択率を上げられるよう応募書類の内部審査や検討も充実させていきたい。

2007年度に比べると研究事業予算が54%減額という中で、今後、ますます外部研究資金の獲得が必要になってくるが、一方で間接経費等の支出ルール作りも求められるようになってきている。

研究の発信は、学術論文44件、専門分野の著述36件、一般向けの著述40件、学会発表は83件であり、一般向けの著述を除いて前年を数では上回ったが、論文等による研究成果の発信数にもまだ個人差がある。

琵琶湖博物館研究発表会は、「琵琶湖畔の水田をニゴロブナの目線から見ると」と題して、総合研究の成果のわかりやすい公表を行った。また、外部講師による特別研究セミナーを4回、学芸職員を中心とした研究セミナーを12回開催して、成果の発表と研究交流を行った。

また、本年度は、新琵琶湖学入門セミナーと題して、博物館の閑散期にあたる12月から3月まで計12日間にわたって、内部・外部の講師による講座を開催し、毎回100人近くの聴衆を集めるなど好評であった。今後、こうした人々が琵琶湖博物館を支える基礎単位となっていくと考えられ、さらに拡充していくため引き続き今後の研究成果公表等の企画が望まれる。

特別研究員は増加して11名となり、一部、セミナーでも研究成果発表を行ったところである、今後も学芸職員とともに互いの研究能力向上にむけて切磋琢磨していく必要がある。

その他、2007年度末から8年度にかけて、新たな3名の学芸職員の学位（博士号）取得者が生まれた。うち2名は社会科学であり、最近は特に人文・社会科学系の学位取得者の増えていることが特徴でもある。

2 事業部

(1) 展示交流

2008年度展示交流については、財政構造改革プログラムの影響を大きく受けてしまった。最も大きい点としては、予算の削減により展示交流員の削減を余儀なくされたことがあげられる。

琵琶湖博物館の展示は、参加型の展示として展示と来館者の間をつなぐ展示交流員の役割が大きい。つまり、いわゆる展示解説に終わらず、来館者との対話を図ることで、来館者の経験を引き出し、展示と来館者が一体となるように働きかける役割がある。この制度は、きわめてユニークなものであり、開館当初から多くの注目を集めてきた。また、展示交流員のこの働きがなければ、当館の展示は成り立たないと言っても過言ではない。また、展示空間が広く、見晴らしの悪い展示室においては、来館者の安全確保も展示交流員の大きな役割である。

展示交流員の削減によってこれらの役割を大きく減じざるを得ず、来館者数減への大きな原因ともなっていると考えられる。そのため、ゴールデンウィークやお盆期間をはじめ、混雑時期には来館者の安全確保を図る目的で、学芸員が交代で展示室に立つ必要があった。このことは、展示活動のみならず、研究活動その他の博物館活動にも支障を来したことは否めない。ほかにも、A展示室のコレクションギャラリーのカウンター、C展示室の開展実験室および水族のふ

れあい体験室などの人気のある展示を休止せざるを得なくなった。

展示活動としては、第16回企画展示「フェアブルにまなぶ」が開催された。これについては、フランス国立自然史博物館をはじめ当館を含めた国内の博物館5館との共同企画で、2007年度より実施されていたため、予定されていた予算で実施された。55,000人を超える来場者があり、好評を博することができた。ただ、企画展示以外に開催してきたギャラリー展示などについては、予算を確保することができず、通常経費の中で回らざるを得なかった。中長期計画にのってきた展示更新の計画なども実現が難しくなっている。

来年度以降、これらのことをどう進めていくかということが、展示交流における課題となるだろう。

(2) 資料の整備・活用

2008年度は、県の財政構造改革プログラムにより博物館事業に大幅な変更が必要となり、資料整備事業についてもその内容が大きく変化した。最低限必要な場合を除き資料の収集を大幅に縮小することで、現在すでに所蔵している資料の維持管理に予算と労力を注いだ。そのような状況の中で、中長期基本計画における「資料が活用できる博物館」の機能を充実させるための基盤整備および収蔵施設的环境整備についても、引き続き進めた。

具体的には、収蔵庫のガス燻蒸中止に伴い、小規模な殺虫処理の実施、館内の資料保存環境維持のための基礎調査や清掃、害虫侵入防止対策等を実施することにより、当館におけるIPM(総合的有害生物管理)手法が徐々に確立しつつある。また、資料の活用推進として、民俗資料データベースの追加公開と目録の刊行、資料活用状況のインターネット公開の1分野追加を行った。2008年度には当館の所蔵資料を活用した二つの論文が発表され、他機関の展示への活用などと合わせて、資料活用の成果もあがってきている。

(3) 交流・サービス活動

今年度は、外部資金を活用しながら空き教室を活用した学校サテライト博物館を新たに甲賀市立佐山小学校に開設し、博物館、学校、地域の交流を深める活動を進めることができた。また、指導者層を中心とした研修の充実を意識して実施しているが、その結果今年度の指導者向けの講座年間受講者数は1,096名にのぼった。

「はしかけ」制度については、会員の登録者数は374名となり前年度から27名増加した。また、「フィールドレポーター」制度については、会員の登録者数は157名となり前年度から35名増加した。両制度への参加は増加しており博物館活動への参加は進んでいる。「フィールドレポーター」制度では、「みちしるべ今昔調査」、「年末年始の食調査」を実施した。

観察会・講座については、地域で活動している機関・個人・団体、はしかけ、フィールドレポーターなどと連携・協働を意識して実施している。2008年度は観察会・見学会を19件、講座を12件開催した。観察会・講座をあわせた協働事業実施率80.6%(31件中25件を協働実施)であった。今後は、件数や協働事業実施率だけではなく、事業の内容や質を充実させていく努力が必要である。

(4) 情報発信

今年度は、中枢機器群の更新やwww発信情報の整理など前年度の成果を踏まえて、その成果を定着させていくことが主な活動であった。中枢機器群の運用は目下のところ順調であるが、関連する端末機器群の運用が財政事情により困難になってきており、当面の課題となっている。発信情報の整理については運用を続けながら改善を進めているところであるが、双方向情報交換との連携が相変わらず巧くいっておらず、引き続き課題となっている。

3 総務部

(1) 来館者の状況

琵琶湖博物館の来館者数は、開館以来減少傾向にあったが、平成17・18年度には琵琶湖博物館広報経営戦略に基づく広報活動の展開、開館10周年の記念イベントや黄色いナマズが相次いで捕獲されるなどの話題性もあり回復に転じることができた。しかし、平成19年度に再び減少し、来館者数が44万人台となった。そして平成20年度においては、過去最低の40万人台の来館者数となった。下半期には世界的な金融危機が日本経済や景気に暗い影を落とし、一般来

館者の減少に結びついたりと考えられる。

(2) 来館者アンケート

2008年度のアンケート調査では、毎回「非常に満足した」と「満足した」をあわせて85%前後に達した。この値はここ数年で最も高く、企画展やギャラリー展などの期間限定の展示の開催のみならず、常設展示の部分的更新、展示交流員や水族飼育員などとの交流などが評価されたものと思われる。東海地方からの来館者が増加したが、これは新名神高速道路が開通しアクセスがよくなったためと思われる。今後東海地方での集中的な広報活動を行えば、さらに来館者の増加が期待される。

(3) 広報・戦略

琵琶湖博物館広報・経営戦略では、広報経費の削減もあり、より効果的で効率的、そしてかかる経費の少ない広報を実施するため、2008年度の広報・経営行動計画を策定して実行した。パブリシティを積極的に活用し、今年度は回の資料提供を実施した。また、インターネットホームページの活用にも重点をおき、ホームページの構造変更を行い、博物館行事や関連イベントの情報をよりスムーズに掲載できるようにした。また、イベントカレンダーと質問コーナー担当者情報の統合や、常設展示の詳細紹介(旧「仮想見学ツアー」)の再整理、トップページの「写真で見る博物館&ニュース」を毎週更新するなど、利用しやすく魅力的なホームページの運営を図った。この他、新名神高速道路の開通もあり三重県下の新規来館者を増やすことを目的として、広報アドバイザーが三重県下の小学校を訪問しPRと誘致に努めた。

(4) 施設整備

建築後10年以上が経過し、設備等の劣化が進行しているため、空調設備や配管等の修繕等を行い、施設設備の維持管理に努めた。また、博物館全体の施設設備について現状・劣化状況の調査を行なうとともに、平成17年度に実施した空調設備保全計画に基づき配管改修工事を実施した。

(5) 来館者サービスの向上

来館者サービスの向上の一環として2004年4月から1年間何回でも観覧できる年間パスポートの販売を始めた。2008年度は616人(対前年80人減)に購入いただき延べ3,012回の入館観覧をしていただいた。当館の来館者はリピーターの方が多く、利用者ニーズに応えることができるとともに顧客の定着化による利用促進が図れた。2009年度は、旅行会社のパンフレットに組み込んでもらう形のクーポンにより12月～3月の間に297の方が来館された。

(6) 国際交流活動

JICAからの受託事業として「博物館集中コース」研修を国立民俗学博物館との共催で実施し、5カ国9名の研修生を受け入れた。JICA研修についてはその内容を継続的に充実し、関係強化を図ってきた。その成果の一つとして、ディスカバリールームの国際コーナーの展示更新を、2006年に研修に参加したザンビアのヌサカ博物館、リビングストーン博物館学芸員の協力を得て実施することができた。

海外からの視察は、アジア、北アメリカ、ヨーロッパなど世界各地域から、合計44件、約475人であった。このうち環境保全に関する視察件数が多いことが傾向としてみられた。2008年度前半は韓国からの視察が多かったが、秋以降、世界同時不況による円高ウォン安の影響かほとんど見られなくなった。それ以外の国からの視察も2007年度と比較して減少した。博物館の国際交流も世界経済と直結していると実感した。

IV 博物館利用のご案内

- 開館時間 午前9時30分から午後5時まで（入館は、午後4時30分まで）
- 休館日 毎週月曜日（月曜日が休日の場合は開館）
年未年始（12月25日～1月2日）
その他館長が定める日

■観覧料（常設展示） （2009年4月1日現在）

	個人	団体(20名以上)	年間観覧券	共通券(*)
高校生・大学生	400円	320円	1,600円	520円
大人	750円	600円	3,000円	850円

(*) 草津市立水生植物公園「みずの森」との共通券。団体は取り扱いません

※未就学児、小中学生、障害のある方、県内居住の65歳以上の方は常設展示の観覧は無料です。（詳細についてはご確認ください。）

※年間観覧券は、購入後1年間、常設展示、企画展示を何回でも観覧できます。

※企画展示はそのつど料金を定めます。（開催期間中）

■交通案内

- JR新幹線「京都駅」「米原駅」からJR琵琶湖線に乗り換え「草津駅」「守山駅」で下車。
「草津駅西口」から、近江鉄道バス「烏丸半島」行きで「琵琶湖博物館前」下車、約25分。
タクシーで約20分。
「守山駅西口」からタクシーで約20分。
- 車では、名神高速道路「栗東I.C」から国道1号線～栗東志那中線～湖周道路を経て約25分。
または「瀬田西I.C」から湖周道路を経て約30分
- 航路では、琵琶湖汽船シャトルボートで「大津港」「琵琶湖大橋港」から「草津烏丸半島港」へ（不定期）
*問い合わせ先：琵琶湖汽船 077-524-5000



（2009年4月1日現在）

■駐車料金

大型バス	マイクロバス	普通車	二輪車
1,700円	1,100円	550円	200円

※博物館観覧者が使用する普通車と二輪車は無料扱いとなります。

■問い合わせ

〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091番地
滋賀県立琵琶湖博物館
TEL (077) 568-4811 FAX (077) 568-4850
インターネットホームページ <http://www.lbm.go.jp/>

琵琶湖博物館 年報 13号

2008年度

平成21年(2009年)8月発行

編集：滋賀県立琵琶湖博物館

発行：滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県下物町1091番地

電話 077-568-4811